

北上川『流域圏』推進交流会議

～ 多様な交流と連携によるネットワークづくりに向けて ～



報告書

平成28年度

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会

◆ 本事業は、(一社)東北地域づくり協会みちのく国づくり支援事業の支援により実施しました。

北上川流域において、川をテーマに活動をしているNPOや行政などが集い、相互の交流と連携を深める機会として、本交流会議を開催しました。

顔の見える関係づくりを進めることにより、活気ある流域社会を目指していきます。

目 次

北上川「流域圏」推進交流会議

(1) あいさつ	1
主催者挨拶 平山健一 実行委員長	1
来賓挨拶 東北地方整備局 河川環境課長 中川 博樹 氏	3
北上市 政策企画課長 高橋 謙輔 氏	5
(2) 流域活動発表	6
①「北上川めぐり(第5学年 総合的な学習の時間)」(石巻市立北上小学校)	6
②「地域と連携した御所湖の魅力づくり」(岩手県立御所湖広域公園 指定管理者 KOIWAI)	12
③「空間情報から北上川を学ぶ」(岩手県立一関工業高校 土木科)	20
④「ひたかみ水の里のこれまでとこれから」(NPO 法人 ひたかみ水の里)	26
⑤「北上川の水辺の不思議発見！」(北上川フィールドライフクラブ)	31
⑥「被災地支援4団体によるいわて NPO 災害支援ネットワーク」((一社) SAVE IWATE)	39
(3) 河川行政の取組報告	50
①「北上川上流の各種施策・事業の取組について」(岩手河川国道事務所)	50
②「北上川下流の復旧・復興状況など最近の取組について」(北上川下流河川事務所)	56
③「ダムを活かした水源地域の活性化について」(北上川ダム統合管理事務所)	60
④「台風第10号災害の概要について」(岩手県県土整備部河川課)	67
⑤「『災害に強い川づくり緊急対策事業』アクションプランについて」(宮城県土木部河川課)	72
(4) 意見交換	75
～会議のこれからの方向について～	
(5) 表彰式	87
～奨励賞、特別賞～	

参 考 資 料

(1) 実行委員会規約	89
(2) 実行委員会名簿	91
(3) 発表団体募集要項	92

北上川「流域圏」推進交流会議

日 時： 平成28年11月26日（土） 13:00 ～ 17:15
会 場： みちのく民俗村・旧小野寺家 （岩手県北上市立花14-59）

□ 13:00 開 会

主催者挨拶 平山健一 実行委員長

来賓挨拶 東北地方整備局 河川環境課長 中川 博樹 氏
北上市 政策企画課長 高橋 謙輔 氏

□ 13:15 流域活動発表

- ① 「北上川めぐり（第5学年 総合的な学習の時間）」
石巻市立北上小学校 教頭 河田 裕 氏
- ② 「地域と連携した御所湖の魅力づくり」
岩手県立御所湖広域公園 指定管理者 KOWAI 軍司 俊道 氏
- ③ 「空間情報から北上川を学ぶ」
岩手県立一関工業高校 土木科3年 菅原良輔 氏 及川大樹 氏
- ④ 「ひたかみ水の里のこれまでとこれから」
NPO 法人 ひたかみ水の里 新井 高広 氏
- ⑤ 「北上川の水辺の不思議発見！」
北上川フィールドライフクラブ 代表 白畑 誠一 氏
- ⑥ 「被災地支援4団体によるいわてNPO 災害支援ネットワーク」
一般社団法人 SAVE IWATE 理事長 寺井 良夫 氏

～ 休憩 ～

□ 15:10 河川行政の取組報告

- ① 「北上川上流の各種施策・事業の取組について」
岩手河川国道事務所 副所長 三浦 義昭 氏
- ② 「北上川下流の復旧・復興状況など最近の取組について」
北上川下流河川事務所 副所長 今野 裕美 氏
- ③ 「ダムを活かした水源地域の活性化について」
北上川ダム統合管理事務所 調査課長 重茂 和志 氏
- ④ 「台風第10号災害の概要について」
岩手県県土整備部河川課 河川海岸担当課長 馬場 聡 氏
- ⑤ 「『災害に強い川づくり緊急対策事業』アクションプランについて」
宮城県土木部河川課 河川課長 茂泉 博史 氏



□ 16:00 意見交換 ～会議のこれからの方向について～

□ 17:00 表彰式（奨励賞、特別賞）

□ 17:15 閉 会

〔主催者あいさつ〕

実行委員長 平山 健一



皆さんこんにちは。ごぶさたしております。新井さん、元気ですか。北上川流域圏フォーラムの実行委員長を仰せつかっております平山でございます。本日は流域圏の交流推進会議を開催しましたところ、こんなにたくさんの皆さんにお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

この会場は非常に趣のある会場で（笑い）3時半ごろになるとそろそろ暗くなって寒くなってくるんじゃないかと思いますが、こういうわれわれの市民活動でございますので、会場のことはお許しください、是非こういう雰囲気を楽しんでいただきたいと思います。この会議はもともと北上川に対する思いの強い方、北上川を愛している方のお集まりでございますので、我慢して是非頑張って有意義な時間を過ごしたいと思います。ご来賓をいただいております国土交通省東北地方整備局河川環境課長の中川博樹様、それから地元北上市の政策企画課長の高橋謙輔様には、お忙しいところおいでいただきまして誠にありがとうございます。

開会式ですので、ちょっとこれまでの経緯のお話をしたいと思います。われわれ心の通い合う活気ある流域社会をつくりたいという強い思い、それがス

タートになりまして、一昨年2月の北上川流域のこれからを考える会、昨年の10月には北上川流域圏フォーラムを開催しておりまして、今回はそれに続く3回目ということになります。昨年議論をしました北上川宣言では、産学官民の交流連携協働できる新しい流域マネジメントシステムを構築したいということで、3つのアクションプランを進めることで合意を得たわけでございます。その中身についてはレポートで出しておりますので、皆さん必要であれば持って行ってほしいと思います。

そのアクションプランの1つ目は市民の活動団体の掘り起こし。ネットワークづくり、それから議論の場づくりでございました。ここ1年、われわれは実行委員会2回、運営委員会4回でしたか、事務局の皆さん、委員の皆さん、自分の本職を持ちながらこの会のために一生懸命努力していただきまして、まず北上川流域の活動団体の把握が不十分である、弱いということで121団体の現況活動状況の調査を行いました。また北上川流域連携交流会の協力を得ましてホームページを開設しまして、展勝地の和賀さんを担当窓口として活動の発信方法、それから流域情報イベント開催などのお知らせ、121団体の紹介などを掲載しまして、また国・県などの関連機関へのリンクを可能にしております。これにつきましても、後ほど事務局の方から説明をしたいと思っています。

さらに事務局ではメーリングリストを作りました。それから流域内の情報収集・発信について、ようやく随時対応可能な体制を整えることができたというのが現状でございます。なお、現在の組織、この会を進めている組織は昨年のフォーラム開催のための官と民が一緒になった実行委員会、それを少し手直した形になっておりまして、私たちは暫定的なものだというふうに考えております。出来るだけ早い機会に民間主体の組織に移行させて、より自立的な

活動を行っていきたいというふうに考えているところでございます。

次にアクションプランにあります議論の場の形成ということにつきましては、年1回の「流域圏」推進交流会議というのを、本日のプログラムにあるように開催することに作ってみました。今日は6件の市民活動団体の報告、それと優れた活動の表彰、行政からの情報提供、それから意見交換会で構成しまして、終了後さらに懇親会の場を設けております。参加者が互いに学びあいながら、また行政の取組みについても理解を深めたいと、そういう機会にしたいと思っているところでございます。

また、意見交換の場では、皆さんの身近な課題、あるいは会員相互、行政との意見交換を行います。また、この推進会議のこれからの持って行き方についても忌憚のないご意見をいただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。



このようにわれわれの活動というのは一応現在の組織体制では皆様が持っている会に対する一体感とか、われわれの一体感とか、川に対する想い。そういうものを実現していく体制の人づくりができたという状況でございます。長い間ブランクがありましたので、なかなかこれがしっくりいかないところもまだ残っているという状況で、もう一歩です。まずは私としては交流の場の定着、それから官民や団体間の共同意識の醸成などに努めていくとともに、財

政的にも継続性があるような組織にしなければならないというふうに考えているところでございます。

皆さんはこういう組織が出来たんだから、何をするんだろうというふうにお思になるかもしれませんが、そういう点では私も考えておりまして、昔の会であったリバーマスタースクールとか、流域子供交流会とか、昔のことを思い出しますが、ちなみに昨年のアクションプランの中ではネットワークに続く事業といたしまして環境持続性ある社会の形成、歴史文化を大切にする学び合う社会の実現を掲げているところでございます。つまり環境教育の実践、生物多様性のサンクチュアリー拡大、屋根のない大学構想、川の文化の普及、平泉の平和思想の発信等々、取組みのアイデアはたくさんございます。また特に川でございまして、川を軸にした観光とか舟運の復活とか、地場資源を活かした経済活動の活性化、あるいは地域創生に関わるイノベーション的な市民サイドからの提言なども忘れないで取り組んでいければというふうに思っているところでございます。

なお、皆さんが仲間とともに率先してこのような活動に取り組まれることは大変頼もしいことでございまして、推進会議としましてもお手伝いをさせていただくことは当然でございますが、私自身としては、もうしばらくきっかけづくりの場をきちんと構築しながら並行してこれらの活動に取り組んでいければいいのかなというふうに考えているところでございます。

世代交代のこともございます。新しい事業にも取り組んでいかなければならない。まだわれわれのこれからの活動というのは大きく開けていくことと思いますが、今日はそういう点で忌憚のないご意見をお伺いしながら、どんな意見が出てくるか、大変楽しみにしているところでございます。皆様にとりましても、われわれにとっても、全員にとって有意義

な1日となるように祈念しまして、開会にあたっての挨拶に代えさせていただきます。

〔来賓あいさつ〕

東北地方整備局河川環境課長 中川 博樹 氏



皆さんこんにちは。いまご紹介にあずかりました私、仙台にございます東北地方整備局河川環境課の方で課長をしております中川と申します。よろしくお願いします。

私は北上川との付き合いは、平山先生とも当時から付き合いましたが、平成9年から3年間、それから平成24、25と2年間、トータルで5年間、北上川の方に携わらせていただいたという経験がございます。しかしながら、まだ5年ではなかなか皆さんと同じレベルには達しないかなと感じているところでございます。

本日は昨年に引き続きまして北上川「流域圏」の推進交流会議開催、誠にありがとうございます。この会議が非常に有意義な会となるように是非ともわれわれも応援したいというふうに考えているところでございます。本日は私の方から、どちらかと言うと河川環境課というか、国交省の方で川の整備、それから地域の活性化に対してどういった取組を行っているかという点を若干ご紹介させていただいて、ご挨拶の一部を進めて参りたいと考えてございます。

現在、国土交通省では、これまでも川に親しむための取組みを種々行っているところですが、いまだ生活が川から遠ざかったままの地域が多いのではないかと感じてございます。このような背景のもと、国土交通省では住民の皆様、それから地方自治体、民間事業者の方、河川管理者などの関係者が水の利用や水辺空間の活用など、水に関する幅広い知識、情報を共有し、流域における水の多様なめぐみを社会全体で認識・享受する、そのことが人々の意識の深部に浸透した社会、すなわち水意識社会を実現するため、地域の特徴を活かした魅力ある水辺空間の創出などの取組みを推進しているところでございます。

平成26年3月でございますが、水辺リングプロジェクトというのを実は実践してございます。水辺リングというのは、水辺とそれから輪ですね。車輪の輪のリングと、水辺とリノベーション、それから水辺と進行形のイングというのを組み合わせた造語でございますが、身近にある川を殆ど意識していない人たちや、民間事業者の方に対して川の外から改めて川の価値を見出す機会、例えば水辺リング勉強会や水辺で乾杯といったような内容を実施・提供する活動を行うことによりまして、徐々に意識を川に向ける事業者や人々が増えていただければなということで取り組んでいるところでございます。

そういった活動の中で今後、生活の中で川を楽しみたい、それから観光資源として活用したい、ビジネスで活用したいといった川に対する意識の向上や、関わりたいといった想いを実行に移すための制度という若干堅苦しい言葉になりますが、それにつきまして若干ご紹介をさせていただきたいと思っております。

1つが「かわまちづくり」支援制度ということで取り組んでいる支援のあり方がございます。この支援制度は従来の「ふるさとの川」整備事業や、桜堤

モデル事業、それらを統合いたしまして平成21年から実施してございます。この制度は河川空間と街空間が融合した良好な空間形成を目指す取組みにつきまして住民、それから民間事業者、市町村、河川管理者で構成する協議会組織をつくってかわまちづくり計画、概ね5年ぐらいの計画になりますけれども、これを作成いたしまして国土交通省に提出・登録するといった内容となっております。

これによりまして水辺と周辺地域の魅力向上のためにハード、ソフトの両面から地域の事業の実施に合わせ河川管理者が継続的に支援を行うものとしております。この制度の活用では毎年新規で全国において10件程度が新たに登録され、平成27年度末時点では全国で157件が登録されているところでございます。ちなみに東北では16件が現在登録されておりまして、そのうち北上川水系ですと現在盛岡地区、石巻地区において整備がなされている状況でございます。これまでの「かわまちづくり」では主に市街地部中心になされてきたこと、それから地域の実施主体が市町村となっていることを踏まえまして、本年2月に支援制度の要綱を改正いたしまして、整備対象を河口から水源までということで民間事業者の方も自ら発意して協議会の総意を得れば「かわまちづくり」計画を策定する主体者となれるような内容としているところでございます。

それから2つ目が、これまで川を使う、俗に占用と言っておりますけれども、河川占用は公共性や広域性を有するもの、主に自治体に限られておりましたが、平成23年より、地域の合意など、例えば先に紹介いたしました協議会組織等によって合意が得られれば河川管理者の都市地域再生など、利用区域の指定の条件が満たされてということで民間事業者の方が占用主体となって飲食店やオープンカフェ、それからバーベキュー場などの設置が可能になるような仕組みを現在構築し、進めているところでござ

います。本年6月からは民間事業者の方が占用者となられる場合であっても通常の自治体と同様の10年の許可を付して、継続的に実施されるように体制を整えているところでございます。現時点では全国で3カ所において実施されておりまして、東北では残念ながらまだ実施がございませんが、現在、「かわまちづくり」を進めている盛岡、それから石巻を含め、「かわまちづくり」の実施主体であります協議会の方で、その民間を入れた形での占用を進めていくという計画が進んでいるところでございます。

ご紹介の最後になりますが、これまで河川は使えないものと思っていた方々にとりまして、せいぜい法律、そもそも河川管理者が誰かなと、河川は未知の領域が多くございます。そのため今年の6月から、そんな方々のために、気軽に相談いただけるように本省の河川環境課内に「かわまちづくりよろず相談窓口」を開設いたしました。興味をお持ちの方はホームページの国土交通省、それから水管理国土保全局、「かわまちづくり」「かわよろず」といった形で入っていただければ、この内容で確認もできるということで問い合わせを準備しているところでございます。

長々とお話をさせていただきましたが、この北上川流域での市民活動は長い歴史と地域に根ざしたさまざまな活動が現在も継続して実践されている東北におけるお手本であると感じているところでございます。この交流会議が今後も末永く継続され、ここから新たな活動の芽が出ることを強く期待しているところでございます。

最後になりますが、



平山委員長をはじめとして実行委員会の皆様におかれましては、この会議を開催するにあたり尽力をいただき御礼を申し上げます。挨拶が大分長くなりましたが、本会議が成功裏のうちに終わることを祈念いたしまして挨拶といたします。どうもありがとうございました。

〔来賓あいさつ〕

北上市政策企画課長 高橋 謙輔 氏



皆様こんにちは。北上川「流域圏」推進交流会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは20年にわたるこういうふうな北上川流域での連携の活動、皆様方のご苦勞、それからご活動に改めて敬意を表したいと思います。岩手県北に流れを發したこの北上川、岩手県、それから宮城県の住民にとっては、古くから生活に無くてはならないものというものであると思います。時には禍をもたらすようなこともあったと思うのですが、当北上市の場合は城下町ではなくて北上川の舟運で、今の川岸の地区で物と人の流れができて、それが今の北上市の元になっているような形にもなってございます。北上市道と緑の街の水、それは北上川を象徴しているものの1つだと思っています。

最近、地方創生という言葉が出てきておりまして、これは各自治体でも取り組んでいるところでありまして、北上市でも特にシティプロモーション

というものに取り組んでいこうとしているところですが、この北上川というものを考えた時に、1つの街というものではなくて、流域の街、岩手県、それから宮城県に共通する地域の資源であるというふうに考えられるのではないかと考えております。地方創生はいろいろな取組みがあると思いますけれども、資源、その魅力を磨き上げて外に発信していくということが基本でありますので、まさに皆様方がいま取り組んでおられる内容というのは、もう20年も前から、まさに実行している、実践していっていらっしゃるものであるかと思っています。地方の人口が減少していくという状況にあっても、その魅力に気づいて暮らし続けていくということは、ひとえにその魅力に強く共感している方々、その方々がさらに共感する方々を増やしていくということ、それに尽きるかと思っています。

この北上川というのは、北上市だけではなく、岩手県、宮城県に住む方々の共通の強力な資源だと思っていますので、さまざまなこの北上川に関する魅力をますます発信していくことができれば非常に幸いであると思っています。そういう意味でも皆様方の活動、そして官民一緒となった連携の交流事業、これからますます発展していくことを祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。



会場として使用したみちのく民俗村の旧小野寺家

流域活動発表

- ① 石巻市立北上小学校
- ② 岩手県立御所湖広域公園 指定管理者 KOIWAI
- ③ 岩手県立一関工業高校 土木科
- ④ NPO 法人 ひたかみ水の里
- ⑤ 北上川フィールドライフクラブ
- ⑥ (一社) SAVE IWATE

★交流活動発表

①「北上川めぐり(第5学年、総合的な学習の時間)」

石巻市立北上小学校 教頭 河田 裕 氏



皆さんこんにちは。宮城県から参りました石巻市立北上小学校教頭の河田と申します。今日はこのような発表の機会を与えていただきましたこと、本当に感謝いたします。またこれまでさまざまな研修会や研究会、会議等に参加してきましたけれども、このような趣のある会場での発表というのは初めてでございまして、いささか緊張しておりますけれども、今日は本校の取組みの一端を皆様にご紹介できればと思ひまして参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、本校の概要を簡単に説明させていただきます。ご承知の通り、東日本大震災の地震・大津波によりまして、石巻地区2市1町の沿岸部では多くの家屋、事業所等が全壊・流失し、地域全体で死者・行方不明者6千人を超えるという大きな被害を出しました。地域そのものが壊滅して、震災から5年8カ月が過ぎた現在でも未だ仮設校舎、それから間借りの学校もあり、さらに多くの児童が仮設住宅から登校しているという状況でございます。

北上小には相川小、吉浜小、橋浦小の3つの学

校がありました。しかし、相川小、吉浜小は津波によって校舎が全壊しました。そのため震災直後は津波からの被害を辛うじて免れました橋浦小学校校舎を使用して、3校合同での授業を4月21日に再開しました。その後、平成25年4月8日、新設校としまして北上小学校が開校したというふうな経緯がございます。

それでは本校の取組みについてご紹介いたします。本校の教育目標「ふるさとを愛し、豊かな智慧と心を持ち、たくましく生きる児童の育成」の具現化を目指して、各学年でふるさと学習を展開しております。

紹介いたしますと1年生は生活科「みんな仲良し町探検」で学校周辺のお店、施設の方、地域の方、あるいはサワガニなどの生き物と触れ合う活動を行っております。

2年生の生活科では「もっと仲良し・町探検」というふうに題しまして1年生の時に仲良くなった方々とさらに交流を深める、このような活動を行っております。

3年生は総合的な学習で「北上里めぐり」。田植えから稲刈りまでを行っております。来週はお世話になった方々を学校にお招きしまして、お餅パーティーを行う予定でございます。

4年生は総合「北上海めぐり」です。地場産品である十三浜ワカメの養殖に関わります。来週の30日にはワカメの種付けを行う予定でございます。2月にはそのワカメの刈り取りをしまして、さらに十三浜ワカメグランプリと称しまして、グループごとに十三浜ワカメを材料にした、料理のB1グランプリみたいなものなのですが、そういったものを行います。

5年生は「北上川めぐり」。このあと紹介させていただきます。そして6年生は「ふるさと北上」と各学年でテーマを設定しまして充実した学習を展

開しております。

本日はその中で5年生の「北上川めぐり」を主に紹介させていただきます。5年生の活動は、今日は4つの紹介をさせていただきます。5年生のカヌー体験でございます。このカヌー体験では、本日この会場にもお越しのNPO法人「ひたかみ水の里」の新井様のご支援をいただいて実施しております。カヌーに乗ることはもちろんですが、オールと言うのでしょうか、触るのも初めてという子供たちに対して、新井様から丁寧に、分かりやすく、しかも楽しくレクチャーいただきました。その結果、子供たちはカヌー体験を楽しみながら行い、北上川の支流の様子、植物、それから鳥、川の濁度、臭い、温度、そういったものを肌で感じる事が出来ました。津波に遭って川や海が甚大な被害を地域にもたらしました東日本大震災ですが、そのふることである海や川と、子供たちはどのようにこれから向き合って生きていくのか。そして私たち教師はこの子供たちをどのようにそのふるさと向き合わせていくのか。正直なところ、われわれ自身迷いながらの実践でもありました。

そんな中で、子供たちから楽しかったとか、またやってみたい、最後の方は上手に漕げるようになってうれしかった、こういうふうな声がたくさん聞かれまして、取り組んで実施してよかったというふうに思っております。

続いて岩手町立水堀小学校との交流会について紹介いたします。水堀小学校との交流は旧吉浜小学校時代からの伝統的な活動でございます。それを新生北上小学校が引き継ぎ、今年度で16回目の交流活動になりました。今年度は7月1日に水堀小学校4年生、5年生11名のお友達が北上小学校に来ていただきました。NPO法人「りあすの森」の顧問、武山文衛様、本日もいらっしゃっていま

すが、文衛様を講師に北上バスツアーと称しまして、カミワリザキや北上川河口付近のヨシ原の見学をしました。その後、学校に來ましてヨシのペン立てを作成しております。毎年ヨシを使った物作りを行っておりますが、昨年度はヨシペン作り、その前はヨシ笛を作りました。ヨシを身近に感じ、ヨシの新しい活用について考えるよい機会となっております。

7月6日には私たち北上小学校が水堀小学校を訪れました。北上川の源泉ゆはず弓弭の泉を見学したりしました。この滴る一滴がやがて私たちの古里の北上川の大河となって学校の前を流れるその不思議さに驚きました。御堂新田の滝での水生生物観察などを通して北上川源泉の学校と河口の学校の絆を深めることができました。

続いてヨシ刈り体験活動についてご紹介いたします。この活動は地元企業の熊谷産業様のご支援をいただいております。背丈の3倍もあろうかというヨシを実際に刈り取る体験をいたしました。まず子供たちはヨシの高さにとても驚いていました。子供たちにとってヨシ原は毎日のように車の窓から眺めるとても身近な風景でした。しかし、実際にヨシ原に足を踏み入れてみると、その高さに圧倒されました。さらに驚いたことには、このヨシ原に入ると風を全く感じないということでした。このようにヨシ刈り体験を通して北上川に確かに根付いているヨシの生命を肌で感じる事ができ、そして野鳥の住処であること、またヨシの群生には川を浄化する働きがあることなど、こういったことを子供たちは学びました。今年度は再来週の12月6日にヨシ刈り体験を行う予定でございます。

最後にヨシ紙漉き体験。世界に1枚の卒業証書を紹介いたします。この活動もNPO法人「りあすの森」様、それから熊谷産業様のご支援をいた

だいて実施している活動でございます。12月に刈り取ったヨシを原料にして石川県の能登は仁行和紙職人・遠見様親子を講師に紙漉きを行います。紙漉きの様子を40秒ほどの動画なのですが、紹介いたしますのでご覧ください。

(動画上映)

このように木枠でできているもので1回漉いて、1度水を切って、その後もう1度漉きます。2度漉くような形です。このように2度漉くことによって厚さが均等になって、きれいな和紙になるというようなことを遠見様から教えていただきました。2度漉いたあと漉きげたを外して銅でできた網からさらしの上に和紙を漉いたものを移します。原料のヨシのみを使用しまして、そして漂白もしていないですので、色合いは殆ど刈り取った時のヨシの色をしております。また、近くで見ると分かるのですけれども、ここで漉いたヨシの繊維も多少残っておりまして、趣のある和紙に仕上がります。ここで漉いた和紙を世界で1枚だけの卒業証書として卒業式に校長先生から1人ひとりに手渡しされます。世界で1枚だけ自分だけの卒業証書にするために敢えて周囲はカットしておりません。このように小学校生活最後の事業である卒業式が、ふるさと学習の集大成ということになるわけです。

本日は北上川「流域圏」推進交流会議参加に当たりまして、主に5年生の活動を紹介させていただきました。本日も越しのNPO法人「りあすの森」武山様、それから「ひたかみ水の里」新井様はじめ、多くの方々にご支援いただきまして充実した学習活動を展開しております。このことに本当に心から感謝する次第でございます。

最後にまとめとしまして、本校のふるさと学習の成果・課題をお伝えしまして発表の締めくくりとしたいと思います。まず成果ですけれども、北

上川を教材化することによりまして、ふるさとを見つめ、良さを発見し、課題を明らかにするなど、深く関わることでふるさとに愛着と誇りを持つ子供が育ってきております。また自分たちの生活にめぐみや潤いを持たせる北上川の良さをさらに追求しようとする姿がみられるようになりました。このように地域に根ざして教育資源を活用することによって特色ある教育活動が展開できることを私たち教師自身が再認識しているところでございます。教材開発というと大変難しいことではございますけれども、北上小学校の子供たちのために、私たち教職員はこれからもさらに研鑽を積んでいきたいというふうに思っております。

一方、課題もございまして、ここに書いてある通りでございますけれども、このことにつきましては本当に切実な問題でございます。今後、継続的な取組みを実現するためにもさまざまな改善策を探っていきたいというふうに考えております。

以上、北上小学校の取組みの一端を紹介させていただきました。ご静聴に感謝いたします。ありがとうございました。



○司 会 ありがとうございます。まさしく北上川とともにという素晴らしい活動だったと思います。地域に根ざした古里の学習ということでカヌー、そして岩手町の小学生との交流、ヨシの卒業

証書の世界に1つの証書作りと、本当に多岐にわたった活動かと思います。会場の方から質問等、いかがでしょうか。せっかくの機会ですので、今日は下流から来ていただき、ありがとうございます。では新井さん。

○新井氏 今回の事業はみちのく国づくりの応援をもらってやっているようだけれども、こういう学校の川の活動とか、みちのくの応援としてやるようにしていただけるといいと思います。

○河田教頭 そうです。助成金を活用してという、最後の方に課題として継続的にということもありますけど。あと、新井さん、学校に戻ったら詳しく教えていただいて、早速、よろしくお願いします。

○司 会 ありがとうございます。ほかにどなたか。

○谷村氏 みちのく岩手かっぱ村の谷村でございます。今日は武山さんもいらっしゃっているというので懐かしい人にお会いします。私、実は中津川の方へヨシの群落を作ろうということをやったことがあります。ということは浄水力の問題とか、あとは盛岡あたりのヨシは背が低いのですよね。実は北上町の方のヨシは4mもあります。それで実は武山さんにもお願いでDNAの問題も大丈夫なものですから、この小学校とのつながりもあります。それから水堀小学校は私も2回ばかり呼ばれていろいろカジカの問題とか、その辺でやったことがありますけどね。非常にあそこの北上川の河口の素晴らしいヨシの群落というのは日本一だと思いますけどね。風景とか、それからまた浄水力の問題とか、これを是非中津川の浄水力にもなんか活用しようと思ひましてね。それで実は武山さんに車に100kgの根っこを持って来てもらひましてね、卒業記念に小学校の庭に植えたことが

あります。中津川をもっときれいにしようとか、カジカの問題とか、いろいろとやったのですけど。それで是非ですね。その時に申し上げたのですけれども、浄水力のあるあれだけ素晴らしいヨシの群落があります。あそこをシジミの産地にしたらどうかということも前に言ったことがありますね。シジミの産地にしたら、素晴らしいブランドが出来るのではないかなということ武山さんにも言ったことがあったのですけど。是非浄水力を利用したヨシのブランドづくりにも是非挑戦してみたらどうかと思います。



北上川「流域圏」推進交流会議 ～北上川とともに(石巻市立北上小学校)～

平成23年 3月11日
東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）

平成23年 4月21日
授業再開（相川小・吉浜小・橋浦小）

平成25年 4月 8日
新設校 北上小学校 開校

北上川「流域圏」推進交流会議 ～北上川とともに(石巻市立北上小学校)～

学校教育目標
ふるさとを愛し、豊かな知恵と心を持ち
たくましく生きる児童の育成

第1学年	みんななかよし	まちたんけん
第2学年	もつとなかよし	まちたんけん
第3学年	北上・里めぐり	
第4学年	北上・海めぐり	
第5学年	北上・川めぐり	
第6学年	ふるさと・北上	



学校の概要 取組の紹介 5年生の取組 まとめ

北上川「流域圏」推進交流会議 ～北上川とともに(石巻市立北上小学校)～

カヌー体験

岩手町立水掘小学校交流会

葦刈り体験

葦紙漉き体験(世界に一枚の卒業証書)

学校の概要 > 取組の紹介 > 5年生の取組 > まとめ

北上川「流域圏」推進交流会議 ～北上川とともに(石巻市立北上小学校)～

カヌー体験



学校の概要 > 取組の紹介 > 5年生の取組 > まとめ

北上川「流域圏」推進交流会議 ～北上川とともに(石巻市立北上小学校)～

岩手町立水掘小学校交流会



学校の概要 > 取組の紹介 > 5年生の取組 > まとめ

北上川「流域圏」推進交流会議 ～北上川とともに(石巻市立北上小学校)～

葦刈り体験



学校の概要 > 取組の紹介 > 5年生の取組 > まとめ

北上川「流域圏」推進交流会議 ～北上川とともに(石巻市立北上小学校)～

葦紙漉き体験(世界に一枚の卒業証書)



学校の概要 > 取組の紹介 > 5年生の取組 > まとめ

北上川「流域圏」推進交流会議 ～北上川とともに(石巻市立北上小学校)～

まとめ(成果と課題)

○成果

- ・北上川を教材化することによって、ふるさとに愛着と誇りをもつ子どもに育っている。
- ・自分たちの生活に、恵みと潤いをもたらす北上川のよさを、さらに追求しようとする姿が見られる。
- ・地域に根付いた教育資源を活用することによって、特色ある教育活動を展開することができている。

◇課題

- ・北上川を教材としたふるさと学習の継続的な取り組みのための費用の捻出。

学校の概要 > 取組の紹介 > 5年生の取組 > まとめ

総合的な学習の時間（いぬわしタイム）

北上・川めぐり(5年)

宮城県石巻市立北上小学校

Kitakami Elementary School

ふるさとを愛し、豊かな知恵と心もち たくましく生きる児童の育成

地域の自然や人々、伝統や文化のよさを守り広げることを通して、ふるさとに誇りと愛着をもつことができる子ども

カヌー体験会

カヌー体験を楽しみながら北上川とその支流の様子を感じ取る。（植物、鳥、濁度、におい、温度など）



岩手県岩手町立水堀小学校交流会

北上川バスツアー、学校紹介、ヨシ笛づくり、会食会



岩手県宿泊学習

水堀小学校交流会、北上川源泉弓弾(ゆはず)の泉見学



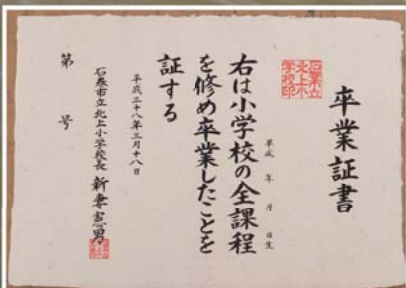
ヨシ刈り体験（三輪田のヨシ原）

支援者：NPO法人「りあすの森」、熊谷産業



ヨシ紙漉き体験（三輪田のヨシ原）

支援者：石川県能登仁行和紙職人 遠見京美氏・和之氏親子、NPO法人「りあすの森」、熊谷産業



石巻市立北上小学校

〒986-0003 宮城県石巻市北上町新橋字松崎1
Tel:0225(8)70222 Fax:0225(8)70225
http://www.edship.ne.jp/~ebhash/kitakami1



②「地域と連携した御所湖の魅力づくり」

岩手県立御所湖広域公園指定管理者KOIWA I

軍司 俊道 氏



御所湖広域公園の指定管理者を受けているKOIWA Iの軍司です。これが本業なのでいかに地域と連携した御所湖の魅力づくりをするかということで取り組んでいます。

御所湖自体は盛岡市から約15kmぐらい、中も5kmぐらいあるので15kmから20kmぐらいあるのですかね。そういう位置にあります。それで御所ダム自体は昭和56年に出来て、その後いろいろな整備が行われております。その中で500軒以上の民家が水没したという記録もあるようです。施設としては周辺にいろいろあるのですが、公園だけではなくて、最近ではサッカー場ができてグルージャで頑張っているようです。あと歴史民俗資料館と、あと温泉がすぐ近くにあるので、それらが集客につながっているのかと思います。推進団体もこのように、私もいろいろ関わっていますが、いろいろな団体がここに関わっています。これは一部なので、これ以上にほかにもいろいろな個々の団体に関わって御所湖の活性化を目指しております。

それでは個々に事例を発表したいと思いますけれども、これは雫石川堤防の桜なのです。今年雫

石町で雫石十四景というのに選ばれております。

当初、植えたのが左上にあるようにただ転々と苗木があるんですけど、それが36年ぐらいになったのですかね。今年の桜が大きな桜並木となつてようやく集客力が出来たという感じです。まだまだ観光的にここの展勝地ほどではないのですが、中には角館に行ったら、そっちの方は人がいっぱい車を止められなかったもので、わざわざ戻って来てここの桜を見にきましたという方もおります。あとは田沢湖線というか秋田新幹線の中では説明があるようなことも聞いております。今はここの水田部分に白鳥が来て落ち穂を拾っているような場所になっております。

次は1つの母体であります御所湖の清流を守る会。結構企業等も含めていろいろな所が参加するのですけれども、春と秋に統一清掃というのを行っております。就業時間が朝6時で、最近では1回につき600人ぐらい集まって清掃しています。当初はいろいろな家電製品なんかも落ちていたことがありますけれども、最近は大分減ってきております。ただ、時々不法投棄をする方がいます。同じく清流を守る会ですけれども、こういうのは付近の小学校に依頼してポスターを作っているようです。ものによっては左下にあるように看板を作って御所湖の周辺に飾っております。毎年やっているものなので、それぞれ持ち回りでポスター展を開催しているのですけれども、あとあまり私も気がつかなかったのですが、この前、たまたま堤体の方に降りていたら「ふるさと水源地宣言21」なんていうのがありまして、これは繫小学校が文章を上げたようです。「どこまでも青い空、きらきら輝く水、めぐみ豊かな森、みんなの友達御所湖」ということで、大人を教育しようということではもう遅いのではないかと、こういう小学生からいろいろきれいにする仕組み

とかというのをやると、将来大人になった時に非常にわれわれは楽をするのではないかと考えております。

先ほど小学校の取組みがありましたけれども、非常にいいなと思っています。ああいう取組みができればいいというような気がしています。同じようなことも、こうやって御所湖をきれいにしましょうと。こういう小学校の方々はまたダムの清掃にも参加していただいているようです。

私は小岩井農場なので、小岩井農場と盛岡手づくり村、あとつなぎ温泉の三者でつくって、お客さんと呼ぼうと。いろいろなことをしてお客さんと呼ぼうという、観光の促進みたいなことに取り組んでおります。その中の1つに桜の名所づくりというのがあります、平成11年から営々とやっておりますので、5～600本ぐらいは多分植わっているのではないかと思います。何本か詳しい数字が分からないので当初は40～50本ぐらい植えて、最近は乗り物広場の中に、人をあまり集めるとこれも費用がかかるということで、10組だけですけれども行っております。ちょうど秋にやるので芋の子汁を作ったりして、それを振る舞っているというような感じです。今年植えたのはソメイヨシノの実生苗ということで、何が咲くのか楽しみにということで、それをうたい文句にやっております。ひょっとしたら大したことないのが咲くのかなという気もしますが、100本ぐらい最後には植える気があるので、中に1つぐらい当たれば新しい名所になるのではないかと考えて取り組んでおります。

また東日本大震災の時は繋温泉からの一時引き受けをしておりました。その時に、これは県からプロジェクトの方に声がかかったようですけれども、岩手県企業局さんの支援でヤマボウシの苗を植えたところです。本当はここに被災者も招きた

かったのですけれども、やはりまだまだ、それはそうですね、3月になって、6月に気持ちが癒せるわけではないのですけれども、取り敢えずこういう形で復興を祈念した植樹をやっております。花言葉が「友情」ということで、その辺を強調しながらヤマボウシの木を植えております。

次はつなぎ温泉観光協会の取組みです。ちょうど御所ダムの堤体から南側ですね。これは盛岡からつなぎ温泉の方に向かう道路沿いに植わっておりますけれども、コスモスロードということで、観光誘致の目的もあるとは伺っております。ただ、コスモスは9月というか、ちょっと咲く時期が9月末ぐらいなので寂しいということで、黄花コスモスのサンセットという種類を植えて、これが8月末から9月ぐらいに咲きますので、ちょっと弾みをつけるということでやっております。これは公園としては地域連携ということで、私が休みを利用して仕事とは関係ないところで動いてるので、休みを利用して種をまいて咲かせているところです。

次はつなぎ温泉観光ホテルのホタル観賞会ですね。これも集客の目的でやっているようです。7月23日とやっていますが、その間にホテルの観賞会ということで泊まったお客さんに対してホテルの観賞会をやっています。ここは後で尾入野湿性植物園のカキツバタ園という所ですけれども、最初に動いたのがわいわい立ち上げプロジェクトで、そこである程度整備して観賞会を行っております。公園としても観察会の中でホテルの観察会を行っております。

あとは最近人気が高くなってきましたウォーキング大会ですね。かなりの人数が参加しているようです。御所湖は周りに歩道が、一部整備されていない所もあるので、歩道がありまして、そこでジョギングをする人や散策する人が最近増

えてきております。あと珍しい野鳥が飛んでくると、どこからかウォッチャーの人がわーっと来て高級なカメラを構えながら鳥を追いかけているというのがあるようです。こうやってウォーキングだけじゃなくてジョギングの会を作ってやっているようです。

では私が絡んでいる御所湖広域公園の方ですが、これはファミリーランド内にある賢治の花壇の映像になっております。春の6月ぐらいですね。あと夏のヒマワリということで、この賢治の像自体は10年ぐらい前に「NHK、おーい日本」まるごと岩手かなんかでやった時の賢治の木像を譲り受けまして、ここの花壇に設置しております。今年はちょっと設置できなかったのですが、大分傷みが激しくて新しいものに替える予定になっています。宮沢家に聞くと、営利目的でないのいいでしょうという話になって、いま新しいものを作って設置する準備をしております。

次は尾入野湿性植物園という所がありまして、ここは4月のミズバショウ、6月のカキツバタ、引き続き7月のホタルという形になっております。ホタルの場合は大体夕方の7時半ぐらいから飛び始めまして、8時から20～30分ぐらいがピークですかね。そのぐらいで飛んでおります。私の場合は去年までは3回やったので、今年は2回ホタルの観察会を行っております。場所が非常に安心して行けるという場所で、最初の方はゲンジボタルが7月初めに出てきて、7月中旬ぐらいからだんだんヘイケが混じってきて、下旬にはヘイケだけということになりますけれども、最初のころはホタルを見に来る人の方が多かったりしています。

100人を超えるぐらいの人がここでホタルを楽しんでおります。私の方は安全に行ってもらうためのレクチャーをして、あと自由に一般の方々は夕方、車を近くの駐車場に停めて、ここにホタルを

見に来ているようです。

これは町場の地区園地のようなですね。私はここで副所長という立場でやっていますが、この町場地区園地については地域住民とともにこの公園を作るにあたってのワークショップを開いたりしておりました。その時に私も参加したり、寺井さんも参加されたと思いますけれども、その中でコスモスとか菜の花をというのがあって、それを実践しています。一面にあるように見えませんが、带状に植えているので、背景の岩手山と御所湖が見えるということで非常に写真写りがいいように作っております。全面にあるわけではないので。あと、下の赤くなっているのはキバナコスモスのサンセットという種で、岩手の橋本昌行さんという方が15年の歳月をかけて作り出した品種です。岩手の人はこういうのを作ってるよというのを紹介したくてやっております。単なる花を植えるだけなら、その辺にあるのと同じになっちゃいます。だんだん時間になってきたようなので、あとは深沢紅子さんゆかりの絵と写真を並べたものや、あとここでバーベキューができるということで、三々五々、30組ぐらいがバーベキューを楽しんでおります。あと御所湖を紹介したということで、こういう観察会、植物、野鳥、歴史、というのをやって、あとは何らかのヒントを得たいということで、こうやって協力会の方々、これは官民いろいろ参加して自由に地域の活性化に向けた、また公園をこのようにしたらいいのではないかと話し合う会をつくっております。とにかく1つの団体でなくて、いろいろな団体が少しずつ持ち寄ってトータルで公園の魅力をつくっているというのが御所湖ではないかと考えております。以上で発表を終了させていただきます。

○司 会 ありがとうございます。多岐にわた

る内容になっておりまして、お1人だけご質問がいらっしゃれば。よろしいですか。最初の方で紹介になった桜並木ですね。非常にきれいで、2kmぐらいですかね。かなりきれいで。

○軍司氏 北上川の展勝地が駄目な時はこの川の桜並木というふうにうたいたいなと思ったのですが、まあ、そこには当然いたりませんので、よろしく願いいたします。

御所湖自体はね、私の施設でやっている所では3万人ぐらい来て、全体では100万かそこら来てるんじゃないのかな。よくその辺は調べようと思っても、バタバタして調べきれませんでした。ただ、近くに小岩井があるということもあって、小岩井が混んでると、こっちの御所湖に流れて来るという、非常に御所湖は恵まれているなという気はしております。



つなぎ温泉観光協会
ウオーキング大会

御所湖一周
ウオーキング大会
10/3 9時30分スタート
御所湖広域公園
つなぎ温泉観光協会 実行委員会

御所湖広域公園指定管理者 KOIWA
賢治の花壇(ファミリーランド内)

御所湖広域公園指定管理者 KOIWA
尾入野湿生植物園

御所湖広域公園指定管理者 KOIWA
町場地区園地

御所湖広域公園指定管理者 KOIWA
深沢紅子ゆかりの花丘

御所湖広域公園指定管理者 KOIWA
町場地区園地 BBQ広場

御所湖広域公園指定管理者 KOIwai
探訪会(植物、虫、ホタル)

自然観察会のご案内

ホタルが描く光のページェント

ホタル観察会

○開催日時 平成27年7月4日(土) 19:00～20:30(9時集合)
○集合場所 御所湖広域公園 庭入野道生植物園駐車場
○その他 雨天中止

自然観察会(植物、虫、ホタル)を開催します。当日は、ホタルの生態や、植物の観察を行います。また、ホタルの生態や、植物の観察を行います。当日は、ホタルの生態や、植物の観察を行います。当日は、ホタルの生態や、植物の観察を行います。



御所湖広域公園指定管理者 KOIwai
探訪会(野鳥、歴史、川遊び)




平成27年度 御所湖広域公園
バスで巡る歴史探訪会
篠原伝説と新しい時代、そして太古の地

開催日時 平成27年7月11日(土) 10:00～12:00
集合場所 御所湖広域公園 庭入野道生植物園駐車場
参加費 無料(当日受付)

御所湖広域公園指定管理者 KOIwai
公園協力会



第10回御所湖広域公園協力会の様子(平成28年2月5日、町場地区園地の休憩室)
平成27年度に協力会の方々などにより公園で行われた行事を実施する、あるいは公園を利用するうえでの問題点や意見、要望などをいろいろ出させていただきました。

地域とともに！



③「空間情報から北上川を学ぶ」

岩手県立一関工業高等学校

副校長 佐々木 直美 氏

土木科3年 及川 大樹 氏



こんにちは。岩手県立一関工業高校です。今日は震災までやっていた私たちの活動、あとこれから取り組もうとしていることについて発表させていただきます。一関工業高校の佐々木と、あと一関工業高等学校土木科3年・及川大樹です。よろしくお願いします。

なお及川君は来年度から東北地方整備局にお世話になりますので、よろしくお願いします。あと、後ろの方には昨年度卒業したうちの千葉もおりますので、よろしくお願いします。

それでは土木科では将来の技術者として、地域の文化とか歴史を感じながら、地域づくりの仕事に携わってくれることを願って8年間実践してきました。

（及川）先生、土木という学問を学ぶだけでなく、地域文化や歴史を学ぶことも大切だということでしょうか。

（佐々木）やはり土木工事によって地域が発展することはすごく良いことだと思います。3・11の震災では、津波が地域文化とか歴史、人の繋がりを流してしまいました。そういった意味でも

建設を目指す君たちには地域創生という未来課題を意識して頑張してほしいと思います。

（及川）分かりました。

（佐々木）学校では8年間にわたってそれぞれの年代で川くんだり、河川調査、あとは各種のワークショップに参加しました。生徒たちの主体的な郷土的な学習を実践し、その中で発表させていただきました。写真は2008年、サーベイヤー測量という雑誌で空間情報のインフラ整備について特集がされておりました。今は当たり前のことですが、8年前、その位置情報を使っていろいろな河川調査をする際に私たちが河川情報マップを作ったわけですが、そのマップを作るにあたってネット対応の河川地図を制作してみようと思ったのがその始まりでもあります。

これは最終的にできました河川情報マップと河川利用マップのガイドをiPadに寄贈したものであります。その時の新聞記事です。当時の宮崎所長さんのお話もありますので、是非お聴きください。懐かしい方が出てきます。

【映像】「今回、一関工業さんの取り組んでいただいた河川情報マップをiPadで見たのですけれども、一般の地域の方々に参画していただきながらその地域をつくっていかうということで、さまざまな取組みをやっております。私たちが求めている地域の方々がまさにこの北上川をつくっているというコンセプトに全く同感でございます。この地域の方々のご意見、それから地域の方々から見た川、地域の方々から見た道路、そういうものが本当に必要になってくるというふうに思っていますので、これらの取組みが今後、地元一関だけでなく、全国的に広まっていく取組みだと思っています。その辺も踏まえて、これからも一生懸命頑張りたいというふうに思います」

そしてちょうどこの年だったのですが、岩手・

宮城内陸沖地震が発生しました。当時の磐井川の河川の様子を投稿したもので、川底が出ておりまして、取水場の水が取水困難のぎりぎりのラインまで来たと。あと、うちの生徒が魚好きなので、学校の裏でヤマメを釣ったということで、これも投稿してありました。これは地震の1週間前ということで、何かの前兆だったのではないかなということも考えられました。

（及川）一関市には洪水の歴史があります。現在は一関遊水地が完成し、屋内排水機場も整備されています。私たちのいる土木科では現場見学やインターンシップなどで一関管内の皆さんにお世話になっています。

（佐々木）河川情報マップから舟運の歴史やゲリラ豪雨が及ぼす河川の環境調査などについて第5代から7代まで取り組んでみました。写真はカメラの操作練習から川の掃除までを示したものです。ちょうど真ん中にペンキの不法投棄があったのですけれども、これは消すことが出来ませんでした。iPadでは文化セミナーなどにも参加させていただきました。平泉バイパスの建設秘話や平泉のハスの花の種の話、あとヨシ舟作りなど、多くの関係者の方々に生徒たちは交流をすることができました。この場で本当に改めて感謝したいと思います。

さて、それでは簡単に北上川を紹介していききたいと思います。舟が出るぞ一つ。

（及川）北上川と磐井川の合流点から上流の高館橋まで



来ました。右岸に平泉バイパスと柳之御所があります。ここは東稲山が絶景です。

（佐々木）平泉バイパスを造るにあたって、北上

川の河川を大改修しています。左岸側から右岸側に土砂を運び、盛土しています。この時、目標とする土の密度が得られなくて、粒度の調整をして盛土をしたという話がありました。

（及川）なるほど、キーワードは盛土の密度ですね。

（佐々木）ところで及川君、盛土の密度ってどうやって求めるのですか。

（及川）堆積分の重量です。

（佐々木）OKです。余談ですが、西行法師の歌に東稲山の紹介がされています。

「ききもせず 東稲山の桜花 吉野のほかに かるべしとは」

平泉文化の中で東稲山には桜の木がたくさんあり、春には柳之御所付近まで、または中尊寺から花見ができたのではないのでしょうか。

（及川）先生、平泉中尊寺は世界遺産に登録されたわけですから、北上川の舟運文化だけでなく、東稲山に桜の木を植えるプロジェクトも面白いのではないのでしょうか。

（佐々木）なるほど、それは面白いですね。是非国交省で実現させてください。

（及川）頑張ってみます。

（佐々木）それでは次にいきますか。舟が出るぞ一つ。

（及川）ここは磐井川との合流点です。ここには北上川の増水時に川の水位を観測する観測所があります。旧観測所と現在の観測所があり、台風時の水位をマーキングしたり、そのすごさを感じることができます。

（佐々木）そうだよね。地域で見かけた光景ですが、トンビに餌付けをする人がいました。5羽のトンビが上空を旋回しながら降下してきて、かざしたパンくずを1羽ずつ、つまんで行っていました。その光景を初めて見まして、あまりの衝撃に写真

を撮りたかったのですが、撮るのを忘れて見とれておりました。また、近くには水害の記念碑があったのも忘れません。さて、狭窄部に入ってきました。舟が出るぞ一つ。

（及川）北上川は狐禅寺を過ぎると急に川幅が狭くなります。この地域を狭窄部と言います。この流域には洪水の度に被害を受けている古民家が点在しています。しかし、その建築様式には舟運の歴史を感じることができました。そして現在、この古民家は安全な場所に移転されています。

（佐々木）古民家はなくなったのですけれども、お家は移転されたということですね。

（及川）はい。

——狭窄部には舟運の時代に難所と呼ばれる場所がありました。写真は天狗巻、それ巻、松栄巻、猿跳岩がその名所として存在しています。

（及川）先生、それでは狭窄部の難所について自分達なりに検証してみませんか。

（佐々木）それじゃ、昔、舟を引っ張る場所だったと言われる足場が所々にあるということでしたので、その場所に行ってみましょう。舟が出るぞ一つ。

狭窄部は季節にもよると思いますが、午後になりますと石巻方面から風が吹き込んで来ます。多分、午後の時間帯、盛岡方面に向かうとこの場所は川幅が狭いことや、流れが急なことから難所になったのではないのでしょうか。そして岩陰にもなることから、舟人夫が足場を利用して座礁しないようにしたのかもしれない。それでは、その時の調査の様子をちょっと見てみたいと思います。

「この調査は川とともに暮らしてきた地元の歴史を知ろうと一関工業高校の生徒たちが5年前から行っています。今日は土木科の生徒など9人がボートで川を下りながら調査を行いました。今回、重点的に調査したのは川岸の所々に残る細長い岩

の台です。江戸時代に舟を安全に導くために人工的に造られたものと考えられています。水面からおおよそ1mの高さにあるこの岩、非常に切り立っていて歩きにくいのですが、江戸時代などに、風がない時に皆でここの岩に立って舟を引っ張っていたと言われています。今日の調査では木の足場を組んだ跡と見られる痕跡なども見つかり、生徒たちは丹念に測量したり、写真を撮ったりしていました。ここに立ってみると、昔の人たちの風景などが想像できて、今とはまったく違う世界だなということが分かりました」

それでは最近、当時からあったのですが、ゲリラ豪雨による出水が多く見られまして、川の状況も変わってきていると思ひましてJ R大船渡線橋梁の下にあります猿跳岩付近の堆積状況を調べてみました。これは平面図です。

（及川）調査は基線A、Bを現地に設置して、舟の位置を測量して水深を測りました。色の分布が分かりづらいですが、平面図からは猿跳岩凸部が最深部で、下流右岸側には高さ1m程度の大きな岩があります。気づいたことは、猿跳岩上流部の右岸側に堆積物が発生していることと、河川の流心が右岸側に寄っていることでした。

（佐々木）では、このことからどんなことが考察できますか。

（及川）はい。これからも土砂の堆積が進み、河川の流心が変わってくることです。このことから猿跳岩下流の堆積物が右岸側に移動していくと思います。猿跳岩上流部の堆積物は水深が浅く、土砂流形も小さいことから魚類の稚魚や産卵場所、モクズガニなどの水生生物の生息域になっていくと考えられます。

（佐々木）ちょうど、このあたりになると思います。ジョウソクコウというのもありますので、溝を掘ったりしてモクズガニとか、あとはサケの産

卵場所とか、そういったものも作れるのではないかなというふうな気がしております。あと、北上川狭窄部にはたくさんの自然があります。写真はサギの巣とか、産卵で遡上したサケ、あとカモシカの写真です。私は初めて北上川の中でサケが産卵しているというのを見ました。この時の映像です。土砂を崩して、そこで産卵している様子だと思います。近くまでは行けませんでした。

それではまとめの方に入らせていただきます。

「北上川から学ぶ」としまして、1つは世代を越えた交流ということで、写真は水環境ワークショップ川崎で開催されました。これに参加させていただきまして、発表させていただきました。たくさんの方々から指導をいただいて、また生徒たちを大切にさせていただいて、北上川サポート協会の皆さんを中心にお世話になったという想いがあります。

地域の歴史と文化を学ぶというところでは、先ほど流域に点在している古民家の建築様式、そういったものからも流域の歴史を感じることができました。

（及川）先生、これは宮城県の涌谷町で取れる粘板岩です。昔はスレートと呼ばれる屋根瓦に使用されていました。これも流域の舟運文化の1つだと思います。

（佐々木）はい、茅葺き屋根だけではなくて、涌谷町で取れた粘板岩を使った屋根が県南の方の文化として古民家の方には使われているようです。あとは3番目、職業の育成、環境も含めた地域づくりということもありますが、これからは8年前にできたマップはガラケイで投稿形式でした。今はフェイスブックとかLINEとかツイッターもありますので、そういったものに移行していくように作っていききたいなと思っております。いつの場面でも流域連携交流会や東北水環境ワークショ

ップ、並びに国土交通省の皆さんには大変お世話になりました。生徒たちと東北各地のワークショップに参加して思いましたことは、皆さんが温かく生徒たちを受け入れてくれたことです。これからの子供たちには地域創生、あとは震災復興の主役として力を発揮してもらわなければならない立場で、より一層の努力を続けていきたいと思いをします。これからもご支援とご協力をよろしくお願いをします。これで発表を終わります。

○司 会 ありがとうございます。頼もしい及川さん。就職、国交省ですね来年は。頑張ってください。何か質問ありますか。古舘さん、お願いします。

○古舘氏 狭窄部の平時の流速はどのくらいですか、及川さん。

○及川氏 すみません。これは先輩が作ったもので、私は関わっていないのですみません。

○古舘氏 それから先ほど歴史のところで、舟運に使ったと思われる岩盤があるということで、これを当時のひらた舟が上がってきたと思うのですが、そういうものの資料はありますか。今から11年前に国土交通省から北上川流域に地域の人たちが舟を上げたという歴史があるから、資料があるかも知れないから調べてくれという、調べきれなくて、もしそちらの方にそういうものがあれば。

○菅原氏 資料はないのですが、北上川サポート協会さんからのお話を受けて、では自分達で探してみようかということで平場を全部回って歩いたのですけれども、川の右岸側を通しで見ると、ここに何らかの歩く場所があったのではないかなと。あとはその岩に板か丸太みたいなものを置いて、歩くとすれば歩いていたんじゃないかなというふうなことでした。

2016/11/26



岩手県立一関
工業高等学校
土木科

「空間情報から北上川を学ぶ」



平泉町 北上川橋梁 高館橋
右岸船着き場から下流を望む

西行法師
ききもせず 束稲山の 桜花
ききもせず 束稲山の 桜花
吉野のほかに かかるべしとは
吉野のほかに かかるべしとは

キーワード：つながる地域創生 | 関工土木科

2016北上川「流域圏」推進交流会議発表資料 一関工業高等学校



④「ひたかみ水の里のこれまでとこれから」

NPO法人ひたかみ水の里 新井 高広 氏



時間が押しているということなので、話しながら進めたいと思います。

改めまして「ひたかみ水の里」の新井高広と申します。代表はご存じの通り新井偉夫でございます。今日の発表は、これまで何をしてきたかということと、これからどういうことをしていくのかということを発表したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

うちの団体は、98年に任意団体からスタートして99年にNPO法人となり、今年で17年目に突入り、石巻で一番古いNPO法人としてずっとやっております。

うちのプロフィールということで、代表がご存じの通り石巻のサンファンバウティスタの復元のリーダーをやりました。以前、流域連携交流会で下流の代表や、CONEの自然体験活動推進協議会の理事や、RACの川に学ぶ体験活動協議会の初代代表理事などを行いました。ちなみに一昨日で誕生日を迎えまして76歳になりました。2012年に震災後の次の年に総務大臣賞（個人賞）、全国で7人のうちの1人に選ばれて、授賞されました。その時にYouTubeに15分間のビデオを撮っていただきました。後で時間がある方はネットで“You

Tube 新井偉夫”と調べていただければ、オレンジのTシャツで出ていますので、見ていただければと思います。よろしくお願いします。

では何故団体を作ったかというところですが、30年ほど前、九州の柳川で水郷全国大会を見に行かれまして、ではうちの方でも、石巻でも何かできるんじゃないかというところ、そこから水関係ですね、いろいろやってきたというところになります。「ひたかみ」という名前の由来は、昔あったひたかみの国、石巻では地酒にもなっていますが、そちらから取っております。

ところで活動目的というのは、地域の人たちに水辺、身近にある自然に触れてもらって、楽しいところもあるんだよと。でも怖い所もあるんだよというのを知ってもらうきっかけを作っていきたいなというところでやっております。

事業に関しては大きく分けて3つ、まず子供の体験学習。先ほど北上小学校さんにお話しいただきました。それから大人向けで水難救助訓練、リバーマスタースクールをやっております。あとは河川調査と草刈りという環境整備をやっております。最初の子供の体験学習は、毎週土曜日、地域の子供たちを集めて、「めだかつ子クラブ」というクラブ活動をやっております。カヌーだけでなく、先ほど地建の河川環境課長からお話ありましたけれども、石巻市の方でかわまちづくりを行っています。写真は堤防づくりの会議ですね。うちの子供たちも一緒に会議に出てもらって、子供たちの意見も東屋をどこに作るのかとか、階段はどこら辺に付けたらいいとか、子供たちにも来てもらって、子供たちの視点ではどうか、市民の意見交換の部会で言ってもらっています。それから右側の畑の写真、子供たちと一緒に畑を作ったりとか、そういった活動をしています。

次に、中学校の総合学習体験。先ほど発表あり

ました北上小学校さん並びに石巻管内の小中学校さんで、今年は7校で実施しました。総合学習の体験で大体4年生、中学生だと1年生ですね。学校は地域を知るというテーマで、その学年になるとやっております。そういうのでカヌー体験、あとは写真左下ですとプールでの救助訓練。着衣水泳と一緒に救助訓練ということで、ライフジャケットの着方とか、救助ロープの使い方なども教えたり、身近にあるペットボトルとか、小学校で持っているランドセルとか、そういうのも浮輪になるんだよというのを教える、そういうのをやっております。

親子体験というので、うちの主催でイベントをやっております、この間も石巻市の生涯学習課と共催でカヌー体験と理科の実験というので、水の濾過装置をペットボトルで作って、そういった実験をやったりですとか、写真左下は環境課さん、行政の方ですけども、一緒に生物調査を行ったとか、あとは川辺でバーベキュー、芋煮会やりながらカヌー体験などもやっております。毎年2月の最終土曜日になりますと、子供サミットという関係のあった学校さんをお呼びして発表会をやってもらいます。子供たちに模造紙に書いてもらい、カヌー体験のほかにもうちの学校ではどういうのを調べたよ、こういうのを調べたよというのを皆に聞いてやろう。そういう国、県、市の行政の方にも聞いてもらう会もやっております。

あとは大人の方ですと、企業さん、行政、宮城県土木事務所で、今年で4年目になりましたが、午前中に川のリスクマネジメントの講義をやって、午後は実施ということで、北上運河で実際に川に落ちて、救助訓練をやりました。地元の企業さんもこれを行っております。あとは教員の研修ですね。教員は10年目になるとNPOにいきまして体験をやるというのもありまして、うちに3日間来

てもらって、先ほどの通りリスクマネジメントなどをやっております。河川調査というところでは、地元の郷土史の方と一緒に県管理の河川、今年ですと北上運河をちょっと調べております。昔、どういうふうに使われたかというのを1年間調べて、冊子にまとめました。去年ですと追波川を調べました。あとは草刈りですね。そういうのも行っております。

震災の年も実は行いました。3校、実はその小学校さんでやってくれたのです。その時もやっぱり震災でやられたところで怖くなっているけれども、早めに水とのきかけをつくりたいということで、学校から依頼があつて3校でやっていただきました。その時に当時どういう思いでうちの代表、父親が行ったかというのを石巻の生涯学習課の副読本として作ってもらいました。紙芝居にもなりましたので、興味ある方は後で見てください。

あと、去年から「水辺リング石巻」を東北で一番最初にやっております。水辺リングとは何かというのは課長さんに言っていたので省きますけれども、霞が関の本省から水辺リング担当の方もお呼びして報告したり、水辺で乾杯、この間も北上川フェアというのも行いました。

というところで「かわまちづくり」とか、あとは石井閘門の所に桜があつたのですが、そこは去年伐られまして、それを使った生け花体験というのを、生け花の先生にやっていただいたところです。水辺マルシェというのは毎年、今年ですとカヌー体験とヨガをやったり、水辺で乾杯、そういうのをやりますというところがございます。以上です。



ひたかみ水の里のこれまでとこれから



ひたかみ水の里のこれまで

- | | |
|--|--|
| <p>1998年</p> <ul style="list-style-type: none"> ひたかみ水の里 子ども自然体験案校を設立 <p>1999年</p> <ul style="list-style-type: none"> 石巻で2番目にNPO法人化(現存で最古) 住吉小学校の協力で初めての総合学習支援実施 小学生対象のめだっこクラブを開始 <p>2002年</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回子どもサミット開催 <p>2003年</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮城県のスマイルサポーターに認定 <p>2005年</p> <ul style="list-style-type: none"> 県から教員(小学校～高校先生)の10年目NPO体験研修を初めて実施 <p>2009年</p> <ul style="list-style-type: none"> 郡山市のかるがもクラブとめだっこクラブの交流体験イベントを開始 | <p>2011年 震災の年</p> <ul style="list-style-type: none"> 3校(荻浜、中里、開北)がカヌー体験を実施 <p>2014年</p> <ul style="list-style-type: none"> 国土交通省の河川協力団体に指定される。 <p>2015年</p> <ul style="list-style-type: none"> 国土交通省の「ミズベリングプロジェクト」に東北初としてミズベリング石巻をスタート |
|--|--|

年間で1,000人以上が体験！

新井偉夫代表のプロフィール

- 1992年：石巻のサン・ファン・パウティスタ号復元事業のリーダーとして携わる
- 1995年：北上川流域連携交流会設立に係り、下流域代表を務める
- 1999年：NPO法人ひたかみ水の里を設立
- 2000年：NPO法人自然体験活動推進協議会（CONE）とNPO法人川に学ぶ体験活動協議会（RAC）設立に係り、理事（CONE）と代表理事（RAC）を務める
- 2012年：総務省から大臣表彰個人賞を授与され15分間のPVを作成、YouTubeに投稿された。

設立のきっかけ・なぜ水を選んだのか？

30年ほど前に九州の柳川市で水郷水都全国大会が開催され向こうの市議会議員の方と一緒に参加した。

そこで発表されていた各団体の自然への保全や復活の取り組みに感銘を受け、地元の水辺でも何かできないかと思いサンファンの復元事業や北上川流域連携交流会の設立を経て1998年に石巻で「ひたかみ水の里」を設立。

※ちなみに「ひたかみ」とは昔に北上川の流域にあった「日高見の国」の日高見(ひたかみ)から拝借しています。

活動目的

地域の人に身近な自然に触れての楽しさや怖さなどの体感してもらい自然の大切さ、興味を持ってもらう



そのために

子どもや大人にも楽しめる場を提供

ひたかみ水の里の事業

- 子どもの体験学習事業**
めだっこクラブ、小中学校の総合学習支援、子どもサミット、親子体験など
- 水難救助訓練研修**
企業・行政職員研修、教員研修、リバーマスタースクールなど
- 河川調査、除草**
河川の郷土の調査、北上運河の除草

めだかっクラブ



小中学校の総合学習支援



親子体験



子どもサミット



企業・行政職員水難救助訓練研修



教員の体験研修



河川調査、除草



震災の年も自然体験をしたきっかけ



水というのは人にとって離れられない存在であり、震災から生かされた人々は自然に目を背けずに向き合っていることが重要と思い石巻管内の学校などに呼びかけをしてその年も活動を行った。

↑当時の状況を紙芝居や冊子にした

「ミズベリング石巻」について

- ・無理に背伸びせず継続できる活動の実施！
- ・石巻の“素材”と“人材”を活かした活動を！
- ・たくさんのアイディアを出し合って実現可能なミズベの活用（イベント等）へチャレンジ！
- ・新たに創出されるミズベ空間の利活用方法も考える！

※5月13日ミズベリング石巻ミーティングにて提案したもの

15

ミズベリング石巻カイギ

平成28年1月15日に旧北上川が賑められる石巻市総合福祉会館みなと荘にて「ミズベリング石巻カイギ」を開催しました。当日は、全国のミズベリング活動の紹介や本年度の活動報告、旧北上川の新たな水辺空間をVRを用いた説明後、今後の活動について40名余りが参加して活発な意見交換が行われました。

全国のミズベリング活動を紹介



国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課
田中博隆より全国のミズベリング活動を紹介

平成27年度ミズベリング石巻の活動報告



各担当より本年度開催の活動等について報告

平成27年度の主な活動内容
・みずべマルシェin北上川
・トリコローレ音楽祭2015
・北上川フェア
・水辺で乾杯！
・小さなサーカス
・かわまちワーク
・中瀬 de BBQ

今後の活動予定について意見交換



旧北上川の新たな水辺空間をVRを用いた説明。



子どもが安心して遊べる水辺づくりを！



“水かけ祭り”を石巻で！熱い思いを海外の事例とともに紹介。



今度も“ミズベリング石巻”を盛り上げます！！16

H28_みずべマルシェin北上川 ～ミズベリング石巻～

平成28年5月29日、初夏の爽やかな天候の中、旧北上川石井開門周辺にて「みずべマルシェin北上川」を開催しました。今年は新たにヨガブースを設けて、ヒーリング音楽の生演奏とともにヨガを行いました。その他、カフェ・フリーマーケット・カヌーのブースも出店して、ご近所の方々ははじめとする多くの方々にミズベの心地良い空間でゆっくりと流れる時間をお過ごし頂きました。音楽に地域へ根付き始めたイベントとなっていることを実感いたしました。



普段静かな石井開門周辺も賑やかに



女性に大評判だったヨガブース



晴天の中でカヌーも親子連れに人気



子どもたちはカヌーに夢中



木陰でご近所連さんが談笑中



ヒーリング音楽の生演奏とヨガ・ミズベの効果でも身体もリフレッシュ！ 17

水辺で乾杯in石巻2016

7月7日午後7時7分（タナバタイム）に旧北上川中瀬公園にて、様々な方々が参加して“水辺で乾杯”を開催しました。昨年の約3倍となる総勢65名が旧北上川中瀬公園へ集結。カヌーを用いて子ども達の願い事を託した七夕飾りの贈入を行い、気分も最高潮の中、みんなで“乾杯！”
新たに生まれ変わる“かわとまち”の変化を感じられた七夕の夜でした。



旧北上川（中瀬公園） 18

⑤「北上川の水辺の不思議発見！」

北上川フィールドライフクラブ

代表 白畑 誠一 氏



実は活動したのは石巻の新井さんと同じにやっております。上流で白畑、下流で新井偉夫ということで、きっかけは新井偉夫って荒いんですよ（笑い）。おめえらゴミばかり流すな、金を流せということから今までこう始まっています。

では、これを写真を映します。私のところには全国から来てますけれども、修学旅行の子供たち、実際に体験している状況です。

【映像】「仙台市太白区の西中田小学校の6年生 107人です。1泊2日の修学旅行のテーマは五感で確かめよう。児童たちは自分や友達、そして岩手のよさを探すという内容で、そのうち2日目の19日はフィールドワークの一環で自然の体験をしてもらおうと北上川での水辺体験を行いました。水辺体験を教えるのは北上川フィールドライフクラブです」。

花巻は自然がいっぱいということ、この子供たちはもともと岩手の花巻の自然を満喫したいということで来ておりました。

それでは花巻の水辺プラザを利用して、いま全国から来ています。たまたまこれは仙台からの子供たち120名です。大阪、関東、来年度も既に 1、

500人というような感じで予約が入っております。関西から 1,500名、それから関東はまだ来てませんけれども全国から続々こういう水辺体験、実際に体験をしたいという人たちが来ております。単なる水辺の中で遊ばせているのですけれども、その中にわくわくドキドキ感、それからこんなものもあるねというような感じで体験します。

ここはめちゃくちゃ浅いです。20cmぐらいしかありませんので、ライフジャケット装着させておりません。

俺たち意外と年取ってくるとめちゃくちゃ教えたくなるのですね。でも何も教えません。とにかく転んでも何でもいからやってくださいというような感じで。こんな小さな花巻にこういう大型バス10台とかで来ます。いま私たちの所で、いま修学旅行というのがものすごく体験旅行に変わってきているというのが大きなメリットです。平泉にも 140万人ぐらいの人が来ていますけれども、次の体験場所がないのですね。そういうものを今後構築していかなければ岩手には観光が来ないよというのがだんだん温泉の中からも分かってきます。人が来ていません。こんな小さな魚釣って、これはブルーギルです。でもすごく喜んでいるのですね。

あとは、ここの所は緩やかな北上川ですので、船4艇を周回させて、それでお互いに波を出させて、ワクワクドキドキ感を、これはキャーなんてすごい声を出しています。これはわざと揺らしてますのでね。もうびしょびしょに濡れてるのですね。でもすごく楽しかったっていうことで、後からメッセージなんかもらおうと、すごくこちらもやっていてよかったなと思います。1回来た学校はまた来ます。それから学校の先生が異動すると、あそこ良かったよということで、ますます増えてくるのですね。ただ、問題は学校そのものが統

合して、人数が多くなっています。200人よろしいでしょうか、300人よろしいでしょうかという、すごくありがたいことなのですが、引き受けできないのですよね。それで3つに分けて平泉と遠野にぐるぐると回って頂戴というような感じで、今はなんとか凌いでいます。

いまやっているのが、ちょっと進んでいるというのが集客がものすごく来てますよと。実は温泉と連携を組んでやってたのですけれども、温泉からの泊まった客をうちに来て体験してもらうというのが最初はそうでしたけれども、現在は私の所に来たのをどこの温泉に入れるかという逆パターンになっています。北上のホテルさん2軒も連携していますので、その節はよろしくお願いします。

平成4年にこういう環境教育とか、いろいろなことをやっています。今はYou Tubeで世界発信もしていますので、外国人も来れるようになっています。朝、電話を受けると英語とか漢字圏の方から分かりませんというようなことで、ちょっと対応に苦慮しているところです。

災害対策研修というのですけれども、これは総合的な生きる力、これを毎年やっております。各消防署にこういう機材が全部ありますので、それを引っ張り出してきて、みんなでこういうことができるんだよということを教えております。もちろん消防職員も教育してもらいます。あとは年2回の清掃活動。あとは子供フェスティバル、今から8年ぐらい前に四国で子供が先生をナイフで刺した事件がありまして、それでナイフは人を刺すものじゃないよということで刃物ざんまいと水辺でカヌーのことをやっています。あとは。カップ天国。これはもう定番になってますね。こんなことをやりながら、大体夏だけで800人ぐらいやっております。それから被災地支援も飯舘村の子供たちをフェイスブックで呼び掛けて九州の人がフ

ェイスブックで呼び掛けて、お金を東京の方から集めようということで1千万ぐらい集まったのですよね。未だに使っても使ってもそのフェイスブックにお金が溜まっておりますので、いま子供たちは好きな所に行って頂戴というような格好でやっています。こういうようなことをやりました。

それから冬は雪上体験ということで、これから行きます。あとはグリーンツーリズム、修学旅行ですね。体験旅行をずっと引き受けていますので、もっともっと引き受ける所が欲しいな、民家さんもいっぱい欲しいなという感じでいま苦慮しているところです。

こんな野菜を取ったり、災害対策研修も入っていますので、薪を割ってご飯を炊いたり豚汁を作ったり、カレーを作ったりということで、自然に何かあった時にすぐ対応できるような学べる場所にもなっております。

今まさにこの通りなのですが、みんなが学べる場所、こういう古民家でもいいけれども、この皆さんが集まった所でこんなこともいいよね、こんなこともいいよねというその連携がこれからはものすごく必要になってきているなと思っています。そのためにも平山さん本当にありがとうございます。この機会によろしくお願いします。

これは地域でやっているということで、花巻市まるごと一緒にやっています。平泉からずっと全部の行程を2泊3日とか1週間ぐらいをみんなでおもてなしをするということをいま考えています。この流域圏の下地にいろいろと、おれの所が終わったら次はそっちに行つてねとか、平泉に行つてねとか、石巻に行つてねというような格好でいま画策しております。

いい旅ネットとか、J Rとか、そういう人たちも関わってくれていますので、ありがたいなと思っています。これはうちのPRです。

各温泉と、例えばですね。うちと連携すると入浴券が大分安くなりますよとか、それから買い物した時に1割安くなりますというような格好で今後連携していくということで、お互いにメリットが出るような仕組みを構築しておりました。大変ばらばらで申し訳ありません。ご静聴ありがとうございます。

こちらは私の右腕です。キャサリンお嬢様。

○渡辺氏 皆様、初めまして。私は一応フェイスブック上でキャサリンというニックネームで呼ばれていまして、お笑いになるかと存じますけれども、渡辺キヨ子と申します。御年62歳でございます。2年ほど前に白畑さんと再会して、川が好きだったもので、今は活動のお手伝いをさせていただいております。私はこの川の活動が子育て支援にもつながるというふうな確信を持っていましてお手伝いをさせていただいております。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございます。

○福田氏 花巻市地域おこし協力隊をやっています。あと株式会社冒険という会社をやっています福田と申します。私も白畑さんの所でいろいろ技術とか考え方とか、安全管理とか、いろいろ教えていただきまして、水辺でいろいろなことをやっていこうかなと思っております。今後ともよろしく願いします。

花巻スポーツランドの活動

北上川フィールドライフクラブ
代表 白畑誠一

2017/2/19

1

はじめに

私達は、主に北上川をフィールドとして、スポーツ、アウトドア、環境教育、歴史文化や国際交流等の検討及び実践活動を行うとともに、流域全体の活性化を目指した新しい地域作りの方向を検討し、自然環境や産業文化の現状と農業従事者の未来について考え、上下流域との交流と連携を図りながら地域作りに寄与することを目的としています。

2017/2/19

2

平成28年度の主な活動

- ・ 災害等研修会(発電機・投光機・チェーンソー・エンジンカッター・チェーンブロック・ロープ結索・金槌子・鋸・薪割り等体験・炊き出し訓練)
- ・ アースディ(年2回、北上川イギリス海岸から12丁目沼までの7^{km}ゴミ拾い)
- ・ 子どもフェスティバル(カヌー体験・薪割・縄ない等)
- ・ 子どもの水辺安全講座(子ども達が水に親しむ前に、救助法の体得、自然の中で生きる力、共存の精神を学ぶ)
- ・ 北上川“カップ天国”(北上川遊覧・ボート、カヌー体験・水生動植物の調査・水遊び等)
- ・ ともだち・川・交流サポート事業(カヌー体験・魚取り、焼き・炊き出し訓練・ロープ体験等)
- ・ 親子の雪上体験(ジープ等でカヌーを引っ張ります・

2017北上川周辺の生物の生態調査や自然観察・雪合戦、雪遊び・竹とんぼ作り) 3

災害等研修会 (平成21年3月21日～毎年)

目的

地震等の災害発生時に、どのような行動をとれば良いか等についてや、障害物撤去や炊き出し訓練をし、予想出来ない災害発生時に対する心がけを身につけるため

発電機・投光機体験



チェーンソー体験



薪割り体験



2017/2/19

4

チェーンブロック体験



金槌子体験



炊き出し訓練



ロープ結索訓練



綱渡り体験



H14. 7 台風6号パネル説明



2017/2/19

5

アースディ (平成4年から毎年2回実施)

目的

- ・ 自然環境の現状と未来について考え、交流を図りながら地域作りに寄与するため

清掃前



清掃後





子どもフェスティバル

(平成15年5月5日から毎年実施)

目的
「こどもの日」に、児童の心身ともに健やかな成長を願い、児童の健全育成に資するため行っておりましたが震災後廃止になっている。

カヌー体験 竹とんぼ作り 縄ない・薪割り体験

2017/2/19 8

北上川“カップ天国”

(平成26年8月1日～10日)

目的
北上川の水辺での遊びを通じて、自然の素晴らしさや不思議を知り、触れ合いを通じて風土を愛してもらう。
また、川で活動する人々との交流を通じて暮らしとの関わりや川の怖さを学んでもらう。

舟で北上川の遊覧 カヌー体験 水遊び

2017/2/19 9

水生動植物の調査 竹とんぼ作り 射撃体験

2017/2/19 10

子ども水辺安全講座

(平成20年7月21日)

被災地支援(被災した家族)

(平成24年7月21.30.31日)

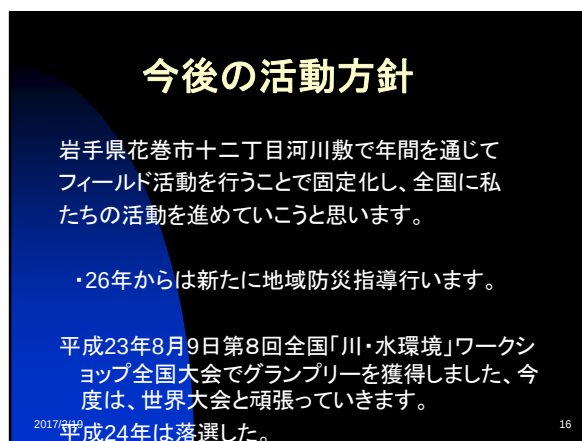
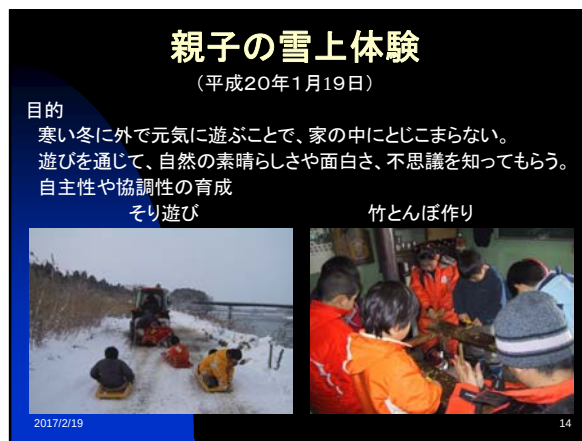
目的
豊かな自然空間である川の魅力を活用した、子どもたちの自然とのふれあいを通じた遊びや体験学習の中から子ども達がお互い認め合い自然の中で生きる力、共存の精神を育てる。
今年度は、花巻市に避難している小、中学生と家族対象に実施し、三陸地域でのふだんの生活とは違う自然環境に親しみ、うつ積した気持ちを晴らすレジャーを提供し、復旧と生活の再建に立ち向かう鋭気を注ぎたいと考えた。

2017/2/19 11

カヌー体験 水生動植物の観察 川での水遊び

ロープ渡り ブランコ 薪割り体験

2017/2/19 12







⑥「被災地支援4団体による

いわてNPO災害支援ネットワーク」

一般社団法人SAVE IWATE

理事長 寺井 良夫 氏



私はいま、岩泉の方で台風10号の被害の非常に多かった岩泉町の支援に当たっております。今日は北上川の流域の皆さんの集まりでありますけれども、岩泉の復興支援の活動の紹介、それからこれからの防災にあたる市民のネットワーク、そんなことについて少しお話をさせていただきたいと思います。

まず岩泉での台風10号の被害ですけれども、後ほども紹介があらうかと思うので簡単にいきますけれども、岩泉では死者19名、行方不明者の方が2名いらっしゃいます。それから建物被害ですけれども、かなりありまして756世帯、住宅が浸水被害を受けております。「楽ん楽ん」での9の方が亡くなって非常に大きな報道がされておりますけれども、それ以外にも住家の被害が非常に大きくありました。

この写真が「楽ん楽ん」ですね。左側の建物です。岩泉乳業です。いま岩泉乳業の方々がたくさんボランティアの活動をされています。小川地区になります。これが街中ですね。岩泉の向町地区という所ですけれども、清水川という非常にきれ

いな川が流れておりましたが、そこに架かる橋にたくさんの流木や土砂が引っ掛かって、これで水が溢れてしまったという所です。小本川に架かる橋です。向町から龍泉洞に通じる橋ですけれども、見た感じよりも、もっと川からの高さがある橋ですけれども、この橋に流木が引っ掛かって橋の欄干がかなり傷んでいます。橋が落ちている所もあります。これは赤川です。赤川の集落の中心部と言うのですかね。そこの両岸が非常に大きな被害を受けております。

今回の支援活動の経緯、流れをちょっとご紹介します。私はまず8月30日ですけれども東京にいました。東京でイベントをやるということで、8月31日の夜のイベントに備えていたのですが、台風被害で大変なことが起きたということで、急遽盛岡に戻って来まして、8月31日に岩泉に入ろうということで車を走らせましたが、残念ながら早坂で通行止めということで入れず、盛岡に引き返しました。翌1日の日に今度は久慈経由で岩泉に入りました。そこで自分たちの団体で持っている緊急資材を持ち込んだり、現地の状況把握ということを行いました。また盛岡に戻って、翌9月2日、小本地区に行きまして、そこでカレーライスの炊き出しを行いました。200食ほどですけれども、小本の避難所にいらっしゃる皆さん、それからその時には田野畑の方に避難されている方もいましたけれども、そこで炊き出しをしております。

その日から私の岩泉暮らしが始まりまして、岩泉の中心部、空き家と言いますか、建物を貸してくれるという方がいらっしゃいましたので、そこに寝泊まりを始めました。翌9月3日からは岩泉町の災害ボランティアセンターが立ち上がっておりますので、そのサポートをしております。今日の特にお話をしたいところなのですが、

岩手NPO災害支援ネットワーク発足と、9月8日の日ですね。東日本大震災以降、岩手県内でいろいろな団体が支援活動を行ってきております。今でも続けてきておりますけれども、その中の私の所属しているSAVE IWATE、それから遠野まごころネット、いわて連複、NPOフォーラム21、こういった団体が集まってネットワークを組織化いたしました。そして各団体がばらばらに活動するのではなくて、一緒になって活動しようよということで、この時から共同での支援活動がスタートしております。

これは2日の日の炊き出しの様子です。それから私が2日の日からお邪魔している町中の岩泉中心部にありますあっけら館という建物です。民間の個人の物ですが、かなりオープンに使っていただいているものですが、私どもの最初の、初期の頃の活動拠点がここでスタートいたしました。

岩手の災害ボラセン。私どものネットワークですけれども、先ほどもちょっとお話いたしました、私が所属しているのがSAVE IWATEという団体です。そしていわて連携復興センター、遠野まごころネット、いわてNPOフォーラム21と、この4団体がネットワークを組織しております。急速、ばたばたと立ち上げた団体ですので、一応それなりに規約はありますし、組織も形づくっています。代表は誰にしようか決めかねましたので、3人とも共同代表だということで始まっていますし、事務局はいわて連複、もともとこういう中間支援の団体でしたので、そこが事務局ということで行っています。幹事にNPOフォーラム21という形です。

最初の頃に取り組んだのが、まず私どもはボランティアをいかに岩泉に来ていただくかということに力を入れました。何せ災害の規模が非常に

大きかったです。それにもかかわらず道路が随所で寸断されていてなかなか入れない。距離的にも遠いということがあって、ボランティアさんが初期の頃は非常に少なかったということがありました。こんな調子でいくと本当に冬前までに泥出しができるかどうか非常に心配されました。それでボランティアの受入れに一生懸命動いたわけですが、ボランティアさんの宿泊施設をどうするか。この辺は行政や地元の社協ではなかなか取り組めない分野でしたので、私どもNPOがまずはボランティアさんの無料宿泊の場所を確保いたしました。左側が龍泉洞観光会館、龍泉洞が被害を受けてしまいましたので、観光客は誰も来ません。その龍泉洞観光会館の駐車場を車中泊の場所としてオーナーにお願いをして、開放していただきました。また、これはかなり異例なことかと思えますけれども、右側の写真ですが、葬儀場です。岩泉の中心近くにありますが、その葬儀場が夏場はあまり使われることが少ないよということもあって、ここの葬儀場の半分ぐらいのスペースを借りてボランティアさんの無料宿泊を行いました。1カ月ぐらいでここは閉じましたけれども、初期の頃、なかなかボランティアさんの宿泊場所を確保するのが非常に難しかった。そういう時に地元の方々に協力していただいてボランティアさんを受け入れることができました。

ボランティアセンターは初期、発足して10日間ぐらいは役場にありましたけれども、役場ではとても手狭になってしまって、後半は社会福祉協議会に移転をしています。その時の様子です。盛岡市からもボランティアバスを出してもらいました。行政がボランティアバスを毎日運行する。これもかなり異例なことだったと思いますけれども、私たちが働き掛けをして実現をし、また盛岡市自身もこういう災害支援に積極的な行政だったという

こともあって、たくさんのボランティアさんが盛岡市からボラバスに乗って来てくださいました。

ボランティアの皆さんの活動の様子です。今回の岩泉の被害、泥が非常に多かった。しかも粘土質の大変な泥出しを皆さんにやっていただきました。私どもの呼び掛けも多少効果があったと思います。本当にたくさんのボランティアさんに来ていただきまして、最初のうちは本当に1日数十人という状況でしたけれども、10月中旬、後半あたりになれば休みの日に500人、700人、そういった方々に来ていただきました。関西からも来ていただきましたし、本当に日本全国から来ていただいています。

私どもはボランティアさんの感謝の気持ちを伝えたいということもあって、ボランティア向けの炊き出しをしたり、また被災者の方々への炊き出しも継続して行っています。これは私どもがいま使っている事務所ですけれども、岩泉町から借りている建物です。

まだ続いていますけれども、市民団体が連携をして活動した、その辺の効果と言いますか、その辺のお話をしたいと思います。各団体の得意分野をそれぞれうまく発揮することができて、効果が上がったかなと、そんなふうに思っております。左側に団体名があります。一番上にいわて連携復興センターとありますが、この団体は中間支援、対外的な折衝は得意なところなんです。ここの得意なところを発揮してもらって出来たのが資金の獲得です。財団などに掛け合っていて、私どもの活動資金を非常に短期間で獲得することができたということがあります。

2番目が私ども SAVE IWATE ですけれども、うちは早いだけ取り柄というところがありまして、速いスピードでまずは現地に入って、活動の足掛かりになる拠点をまずは確保し、また地元の社協、

ボラセンと緊密な関係をいち早く構築することができたということがあります。

それから遠野まごころネットですけれども、災害支援の実績が豊富にあります。現場での対応力が非常にあるということで、ボランティア活動の中身を非常に充実することができたというふうに思っています。

そしてNPOフォーラム21、中間支援能力がある団体です。スムーズな活動をサポートしてもらっている。こういうようなことで4つの団体が連携をすることで岩泉での支援活動、私たちなりにNPOとしてうまく進めることができてると、そんなふうに思っています。

成果として、今の段階で言えることは、いくつかあると思うのですが、まずはたくさんのボランティアの皆さんにいらしていただくことができたというふうに思います。最初の頃は冬前までに泥出し、本当に終わるか心配しました。ですけれども情報発信、いろいろな方々の協力をいただくことができて、今は100%にほぼ近いところまでいってるかというふうに思います。

またボランティアの皆さんの受け皿づくり、その辺にも努力をしたつもりでおりますので、皆さんに十分満足いただけたかというふうに思います。ただ、初期の頃は、いわゆるボランティアの皆さんにもかなり迷惑をかけたところもあります。こちらの態勢が思うように整わなくて、ボランティアさんにいらさせたり、待たせたり、そんなこともあったかと思いますが、全体を通してはまずはうまく出来たかなということを思っております。

それと私ども以外にも全国の外部からのボランティアさん、支援団体の方がたくさん入っています。全国組織のJボアと災害時の支援活動の全国組織ですけれども、そこからもいらして

いただきましたし、また、そういう方々と岩泉の地元の皆さん、そういう所の橋渡し、協力関係の構築、そういうところも私たちがある程度担えたかというふうに思っています。外からたくさんのボランティアさんが入って来たときに、まずは地元で拒否反応ではないですけども、ためらいがあります。今回もなかったわけではありません。感じたのは大雪りばあねっとの影響が未だに尾を引いてる。岩泉の住民の皆さんが、まずはNPOに対してちょっと警戒をします。どこからどんな人が来たんだという、まずはそういう目で見ます。これはもうしょうがないなというふうに思いますが、その辺の、これは当然誰でもあることだと思います、初対面の人が来た時に、その人が本当に善意で来ている人なのか、それとも何かたくらみを持って来ている人なのか。そこのところの見きわめがなかなかできないと警戒心が解けないわけですけども、その辺のところを私ども地元岩手で活動しているNPOであれば、岩泉の皆さんともこれまでも多少なりとも面識があったりする。そういうことで外の人たちと岩泉の皆さんをつなぐような、そんな役割が出来たかなというふうに思います。

これからの私どもが考えている活動ですけども、支援物資をもう少し集めないといけないなというふうに思っています。特に冬を迎えて暖房器具であったり、冬物衣料であったり、あるいは生活用品もまだまだ不足しているところがあります。また被災した皆さんのこれから精神的な面のケアが必要かというふうに思います。仮設住宅が二百数十軒、ほぼ出来ていますけれども、そこでの暮らしが始まります。在宅での被災者と言いますかね、今回、全壊した所では仮設に入居することができましたけれども、大規模半壊とか半壊の皆さんは、ご自宅を直しながら生活をするということ

になります。1階が流れされ、2階で辛うじて暮らせる、そういった方々がこの冬を不自由しながら暮らさなければならぬという状況があります。そういう皆さんへのソフト面でのケアが必要かなと思います。

それから災害廃棄物、瓦礫がたくさん出ました。それらの処理に岩泉町ではかなり頭を痛めているというところがあります。その瓦礫の効果的な、あるいは有効な処理なり活用ということが求められてくると思います。さらには手仕事、被災した皆さんのこれからの暮らしを支えていくための経済的な面での支援、それらも必要かなと思っています。

川仲間の皆さんにお願いしたいことをお話したいと思います。住まいの泥出しはほぼ終わったというふうにお話しましたが、汚れてしまった川がまだ非常に無惨な状態のままになっています。小本川、安家川、あるいは町中の清水川、これまで本当にきれいな清流でしたけれども、そこに流木が横たわっていますし、ゴミも散乱しているという状況です。これらの、例えば流木ですけども、いい処理方法なり、活用方法があれば教えてほしいなと思います。

それからもう1点。川に散らばっているゴミ、これは当然業者さんたちが入って出来る作業ではないです。非常に細かいゴミがたくさん散らばっていますので、やはりボランティアの力を借りないと出来ないかなと思っていますけれども、こういう川の中のゴミを集めるためのボランティア確保に協力していただければありがたいなと思っています。

小本川の今の様子です。こんな感じでゴミが散らばっています。無惨な状況になっています。これを一つひとつ手で拾い集めるのも本当に困難な話ではあるのですけれども、やっていかないと

けないのかなと思っています。今こういうふうに流木は選別をして、集めてはいるのですけれども、恐らくこのあとの処理なり活用なりがまだ悩ましいところなんだなというふうに思っています。流木は薪にすれば活用できそうではあるのですけれども、何しろ木の皮に小石が噛んでる、挟まっているようなところもあるので、チェーンソーを思いうように使えないということもあって、薪にするのも苦労されるようです。こういう川がもたらす、台風とそして川沿いで起きたこの災害に対して、是非北上川流域の皆さんにもお力を貸していただければ大変ありがたいなと思っています。



今回の岩泉の災害、たまたま北上高地の太平洋側で大雨が降って、太平洋に流れていく川に災害がもたらされましたけれども、あの台風がもうちょっと内陸まで来ていたら、私が住んでるのは盛岡の浅岸、中津川のすぐほとりに住んでるのですけれども、台風がもう一度来たら、多分わが家も危なかったんじゃないかと、そんなことも思いますし、さらにもっと来てればこの北上川流域もかなり被害を受けた可能性もあります。そんなことを思うと、ほっとする面もありますが、岩泉も含めて今回の災害に遭われた皆さんの、いくらかでも役に立てたらいいなというふうに思っています。

あと、市民団体のネットワークを通して感じたことを少しだけ補足いたします。今日お集まりの皆さんも各地でいろいろな活動をされてる方々と

思いますけれども、こういう普段からの横のつながりというのは本当に大事ななというふうに思います。私たち、岩泉で4つの団体が集まってすぐに協力をして、活動することができました。これは急に出来たわけではありません。震災以降、県内のいろいろな団体がいろいろな場面で協力関係をこれまで築いてきました。そういう下地がありましたので、今回岩泉で災害が起きたという時に、では一緒になってやろうよと、そういうことがすぐ気持ちが一つになって動くことができた。ですからこの先、この北上川流域で自然災害が起きる可能性は当然あるかと思っています。そういう時にこの仲間、北上川で活動している皆さんがいち早く集まり、力を合わせて支援をするような、きっとそんな活動が出来るんだろうなと思っています。

ただ、大切なのは普段からの付き合いも必要ですし、あともう一步シミュレーションをしておくことが重要だと思っています。普段知り合っている顔見知りの仲間ではあったとしても、いざという時にどう動けばいいか、誰がどんなふうに連絡を取り合って、誰がリーダーシップを取って、どこを拠点にして、どんな活動をするのか。そうすると非常時にそれを速やかにこなすということは、そう簡単には出来ません。やはり大事なのは万一を想定し、それに対してのシミュレーションを頭の中で描き、出来れば実際に現場で訓練までいければ最高ですけれども、それに近いようなことをやって備えておく。そんなことが大事なかなと思っています。私自身は出身は静岡です。高校まで静岡にいたものですから南海トラフが心配です。この岩手で経験したこと、これを是非他の地域でも役立てるといえるのか、他の地域での備えに少しでも貢献できたらなということも思っていますし、まさか津波が起きた後の5年ちょっとした時に、岩手でまたこれだけ大きな災害が起きるとは想定

していませんでした。正直、岩泉での私どもの活動が 100点満点だとはやっぱり言えなかったです。もうちょっと備えはしておかなければいけなかったなという反省が今の私の中にはあります。是非、こういうネットワークをととても大切ですし、この先に是非とも活かさせていただき、役立たせていただきたいと思いますので、こんな私のちょっとした経験ですけれども、お話をさせていただいたことをもとに、これからの活動につなげていただければ大変ありがたいなというふうに思っております。

最後、ちょっと宣伝させていただきたいのですが、SAVE IWATE で未だに支援活動していますけれども、こういう簞を作っています。これはクルミの木の皮をむいて作ったものですが、震災直後からクルミに着目して、被災地に仕事を作り出したいという活動をしてきました。クルミは川の流域にたくさん生えている木です。北上川、それからその支流にもたくさんあると思いますけれども、クルミの木の皮、いい皮があったら教えてほしいなと思います。またクルミの実もたくさ

ん集めていますので、たくさん拾って余ってるよという方がいらっしゃったら、譲っていただけると大変ありがたいです

あと、すみません、ちょっと宣伝です。このチラシを回していただければと思いますが、三陸復興カレンダーというものを作って、一部千円で販売しています。私がいま一番頭を悩ましているのは資金不足でございます。なんとか協力していただけるとありがたいです。すみません、以上です。ありがとうございました。

○司 会 どうもありがとうございました。それぞれの団体の特徴を結束して新しい団体ができたということで、川仲間の皆さんに2つほど質問がありました。流木の処理・活用、そして川ゴミのボランティアということで、後でまた名刺交換なり、交流していただければと思いますし、普段のお付き合い、そしてシミュレーションの大切さということもお話をいただきました。



会場の様子

「北上川『流域圏』推進交流会議」

県内被災地支援4団体による
いわてNPO 災害支援ネットワークについて

一般社団法人SAVE IWATE理事長
いわてNPO災害支援ネットワーク共同代表
寺井良夫

台風10号による岩泉町の被災状況

- 死者19名 行方不明者2名
- 避難者数677人(8月30日)
- 孤立の状況(最大時)428世帯873名
- 被災家屋 右表
- 生活橋の被害73カ所(190のうち)

岩手日報H28.10.5

判定区分	住宅	住宅以外
全壊	356	382
大規模半壊	219	176
半壊	148	55
床下浸水など	33	16
計	756	629

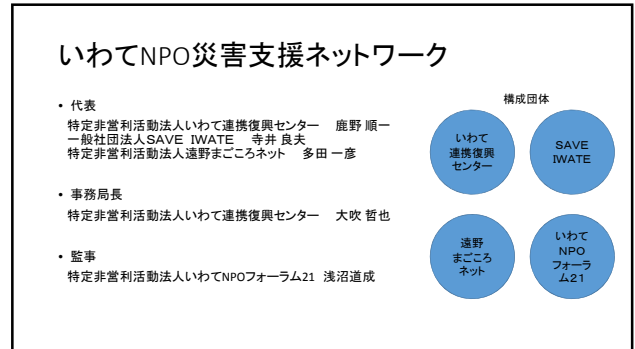




支援活動の開始

- 8/31 国道455号から岩泉入りを図る。早坂が通行止めで断念
- 9/1 久慈経由で小本、岩泉に入る。緊急資材搬入、状況把握
- 9/2 小本の避難所で夕食の炊きだし(カレーライス200食)
岩泉中心部にある「あつけら館」に泊まり込み開始
- 9/3 岩泉町災害ボランティアセンターのサポート開始
- 9/8 いわてNPO災害支援ネットワーク発足
連携による支援活動スタート





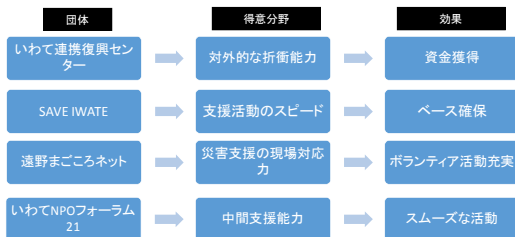
ボランティアの無料宿泊所の提供





団体の連携による活動を通して

各団体の得意分野で力を発揮し相乗効果



これまでの成果

- 全国からたくさんのボランティアにいらしていただき、冬前までに泥出し作業を完了することができた。
- いらしていただいたボランティアのみなさんにも満足していただけた。
- 外部からの支援団体と岩泉町の地元との協力関係を構築することができた。

これからの活動

- 支援物資(暖房器具、冬物衣料、生活用品など)の募集と配布
- 被災した方々の精神的な面をケアする活動(仮設住宅、在宅) 傾聴、サロン、炊き出しイベント・・・
- 災害廃棄物の効果的な処理、有効活用
- 手仕事、物産支援

川の仲間の方々にお願いしたいこと

小本川、安家川、清水川の清流を取り戻したい
川の中に流木・ゴミが大量に散乱しています

- ① 流木の良い処理方法・活用方法があれば教えてください
- ② 川のゴミを拾い集めるためのボランティア確保に協力ください



河川行政の取組報告

- ① 岩手河川国道事務所
- ② 北上川下流河川事務所
- ③ 北上川ダム統合管理事務所
- ④ 岩手県県土整備部河川課
- ⑤ 宮城県土木部河川課

★河川行政の取組報告

①「北上川上流の各種施策・事業の取組について」

岩手河川国道事務所

副所長 三浦 義昭 氏



岩手河川国道事務所・三浦でございます。どうぞよろしくお願いいたします。私からは、北上川上流の各種施策の事業の取組状況ということで話題提供させていただきたいと思います。

大きく4つ、河川整備について、環境整備について、河川の維持管理について、防災についてというふうなことでご説明いたします。

初めに河川整備についてです。北上川上流におきましては、平成14年、19年に大きな洪水がございました。再度災害防止というふうなことで、いま各地区におきまして河川整備を行っているところでございます。一関遊水地の事業でございます。平成19年に一関の市街地を守るための周囲堤が概成しました。平成19年の洪水におきましては、これらの堤防によりまして浸水面積や浸水戸数が減少され、既に整備の効果が表れているところでございます。現在は大林水門、長島水門という大きな水門の工事を進めているところでございます。

続きまして環境整備でございます。先ほど「かわまちづくり」ということが出ておりますけれど

も、盛岡市では、北上川、中津川において、このような形でかわまちづくりを行っております。盛岡市さんと連携しながら河川空間の活用のために施設整備や景観に配慮した護岸整備などを実施しているということで、引き続き地域の盛り上がりを受け、整備を進めて参りたいと思っております。

続きまして北上川上流自然再生事業ということで、北上川と和賀川の合流点付近におきまして、礫河原や湿地環境など、かつての多様な自然環境の保全・再生を目指した取組みを実施しております。地域の活動と一体となった取組みを実施しているところでございまして、先日は素案づくり等を行っているところでございます。

続きまして河川の維持管理に関する取組みでございます。1つは金ケ崎地区の河岸対策で、金ケ崎橋という橋がありまして、こちらの方に砂州が発達してきております。北上川の流れが対岸の方に移ってきていることで、ここの部分が対岸に与える影響が懸念されるということもございまして、この砂州の部分に掘削の水路を設けることによりまして、その緩和に努めようということで、いま取り組んでいるところでございます。こちら側に立木がございますけれども、立木は極力残すような形で、その水路の部分につきましては伐採をさせてもらうということでございます。ちなみにここの木の伐採につきましては、一般の方々からの公募によって伐採をしてもらって、その木を有効活用していただくという取組みも今年行っているところでございます。

イギリス海岸の出現の取組みということでございます。例年9月21日の「賢治祭」に合わせまして、発電事業者等の全面的な協力のもと、直轄のダム、県さんのダム等の流量調節を行いながら猿ヶ石発電所の取水調整もお願いいたしまして、イギリス海岸の出現の試みを行っております。今年、

見事に成功しまして、このような形でイギリス海岸出現を見たところでございます。

続きまして防災に関する取組みということでございます。今年度から水防災意識社会再構築ビジョンの取組みということで、これまで行ってきた堤防等のハード対策に加えまして、住民目線のソフト対策を加えまして、減災の意識を向上させていこうという取組みを行っているところでございます。今年度を初年度としまして、概ね5年間、32年を目途に水防災意識社会を再構築しようという取組みに掛かったところでございます。これは上流、岩手県側の協議会を設立した時の各首長さん等と集合して、これから5年間で取り組んでいこうというところの会議の模様でございます。北上川上流の減災の代表的な取組みということで、これまで地域の防災のためにいろいろ各団体さんが行ってきておりますけれども、それをさらに継続的に強化するというふうな取組みで行っていくというところのために、計画をまず立案し、実行して評価して改善して、それをまた計画に反映させて実行して評価して改善していくということで、PDCAサイクルという言葉を使わせてもらっていますけれども、そういう取組みを行っていく中で、今後その減災に向けて取り組んでいくという、まず第一歩を踏み出したところでございます。

続きまして想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域の公表ということでございます。平成27年に水防法が改正になりまして、これまで計画規模の降雨から想定最大規模の降雨に変更したということでございます。今回の公表につきましては、浸水想定区域とその深さ、あとは浸水想定区域の継続時間と合わせて家屋が倒壊する恐れがある範囲ということでお示しさせてもらっているところです。ちょっと時間の関係で詳しいご説明は割愛させていただきますけれども、もう一度繰り返

しさせていただきたいところは、想定最大規模の降雨ということで、昨年、例えば鬼怒川等で氾濫したような大きな洪水がいつ来るか分からないということを、全国の河川、あるいは身近な所で北上川とか、そういう所でも起こる可能性があるということで、そういうところの認識をいつも持っていただきたいということで、これらの資料を公表したところでございます。岩手河川国道事務所のホームページとか、事務所にご連絡いただければご覧いただけますのでよろしくお願いしたいと思います。

続きましてユニバーサルプロジェクトでありますが、治水施設の完成から一定期間を節目に、各行事を実施するというのをいま国土交通省で行っております。先般、10月29日に「砂鉄川を語る会」ということで、砂鉄川で過去に起こった洪水に対して緊急的な堤防整備等を行って来て、それから完成後10年経ったことで行った取組みでございます。当時、尽力していただいた旧町長さん、村長さんはじめ、そのような方々に当時を振り返るような語り部をしていただきまして来場いただいた方々に今後の水害に臨む対応など、継続して周知と言うか、認識していただきたいという取組みを行ったものでございます。

それから防災・河川環境教育。これにつきましても、国土交通省の取組みを行っており、9月28日にも5年生を対象にその学習の教材等を提供したというご紹介です。

最後になります。ここは後で県さんからご説明があると思いますので、省略させていただきますけれども、岩手河川国道事務所、北上ダム統合管理事務所におきましても、県さんとか岩泉さん等の方に支援に伺ったというところの紹介でございします。ざっと説明しました。以上で私からの説明に代えさせていただきたいと思います。

北上川上流の各種施策・事業の取組について

平成28年11月26日
国土交通省東北地方整備局
岩手河川国道事務所

< 内 容 >

- 河川整備に関する取組について
 - ①堤防の整備・地域特性に応じた被害軽減対策
 - ②一閑遊水地事業
- 環境整備に関する取組について
 - ①盛岡地区かわまちづくり
 - ②北上川上流自然再生事業
- 河川の維持・管理に関する取組について
 - ①金ヶ崎地区の河岸対策
 - ②イギリス海岸出現の取組
- 防災に関する取組について
 - ①水防災意識社会再構築ビジョンの取組
 - ②想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域の公表
 - ③アニバーサリープロジェクト
 - ④防災・河川環境教育
 - ⑤平成28年8月台風第10号の対応

1

1. 河川整備に関する取組

2

①堤防の整備・地域特性に応じた被害軽減対策

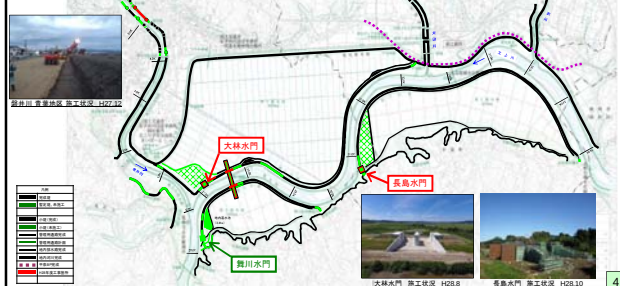
- ・北上川上流では、平成14年及び平成19年洪水により、5年間で2度も甚大な被害が発生したことから、再度災害防止対策が急務となっている二子地区(北上市)、甘木地区(紫波町)及び、日詰地区(紫波町)において堤防の整備を実施しています。
- ・また、北上川狭窄部の曲田地区では、早期に治水効果を発揮する対策として、**地域の住民と合意形成を図りながら、連続した堤防によらない治水対策**(輪中堤や家屋の移転等)を実施しています。



3

②一閑遊水地事業

- ・一閑遊水地は、市街地を洪水から防御する「周囲堤・本堤」と、洪水調節及び遊水地内の優良農地を中小規模の洪水から守る「小堤」の二線で構成されています。
- ・「周囲堤・本堤」は、平成19年度に完成し、平成14年及び平成19年洪水などで、すでに**市街地を防御する効果を発揮**しています。
- ・現在、大林水門及び長島水門、磐井川堤防の拡張及び嵩上げなどの工事を実施しています。



4

2. 環境整備に関する取組

5

①盛岡地区かわまちづくり／盛岡市

整備前

整備後

事業の概要

多くの市民や観光客に利用されている北上川、中津川において、安全な河川利用や適切な河川管理に資するため、まちづくりと連携し、管理用通路（敷設路）や景観に配慮した高水護岸の修繕等の整備を実施しています。

新たに、舟運復活と船を活用した観光メニューなど、地域の盛り上がりを受け、整備を進めます。

整備済み箇所の利用状況（舟っこ流し）

6

①盛岡地区かわまちづくり／盛岡市

7

②北上川上流自然再生事業／北上市

事業の概要

北上川と和賀川の合流点では、高水敷とお筋の固定化が進み、融化した高水敷や中州に外来種であるハリエンジュ等が著しく繁殖するなど、かつての多様な自然環境が失われてきておりました。

このため、緑河原や湿地環境等水辺らしい環境を目指し、河川管理者が高水敷や中洲の切り下げ、外来種の伐採などを実施するとともに、地域の活動として、スワンプ（湿地）づくりが取組まれるなど、地域と一体となった取り組みを実施しています。

地域の活動

緑河原の再生状況

H27年8月撮影

8

3. 河川の維持・管理に関する取組

9

①金ヶ崎地区の河岸対策

金ヶ崎橋付近の北上川（64.4k）では、左岸側の砂州が発達し右岸側に滞溺により、水制工の崩落などによる堤防機能の喪失が懸念されています。

この対策として、左岸側の樹木を残しながら砂州に流路を形成します。

流路上の樹木については、一般から伐採者を募る公募伐採により実施しました。

公募伐採の募集概要

- 伐採箇所：岩手県奥州市江刺区堂吉地内
- 樹種：シロヤナギ、オコギリミ、ハリエンジュ等
- 募集期間：平成28年8月29日～9月14日
- 募集区画：13区画（35,300m²）
- 伐採期間：平成28年10月13日～12月28日
- 応募資格：不誠実な行為のない者
- 応募停止：拒否停止を受けていない者等

64.4k経年変化図

10

②イギリス海岸出現の取組

例年、宮沢賞の命日である9月21日に催されている「賞治祭」に合わせて、賞治が命じた「イギリス海岸」（花巻市上小舟渡地区にある北上川右岸の川岸）出現の試みを今年も同日に実施しました。

この取り組みは、発電事業等の長期的な協力のもと、重箱管場の3ダム（四十田ダム、御所ダム、田淵ダム）と大手黒管場の2ダム（黒岩ダム、早池ダム）の5ダムによる放流調整と雲ヶ石発電所（東北電力（株））の取水調整を行ったものです。その結果、約30cm水位を低下させ、イギリス海岸が出現しました。

当日は、県内外から多くの賞治ファンが訪れ、賞治は見ることができない風景をじっくりと眺め、賞治の物語の世界を感じていました。

▲平成28年9月21日のイギリス海岸出現の試みは、成功しました。

▲観客の来訪状況

11

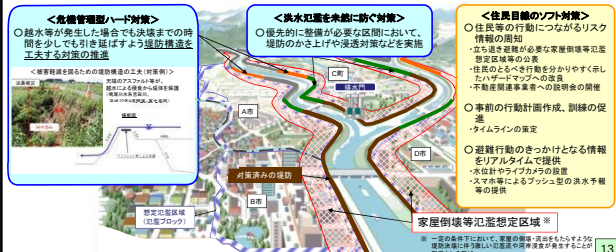
4. 防災に関する取組

①水防災意識社会再構築ビジョンの取組

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「**水防災意識社会再構築ビジョン**」として、**全ての直轄河川とその沿川市町村（109水系、730市町村）において、平成32年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。**

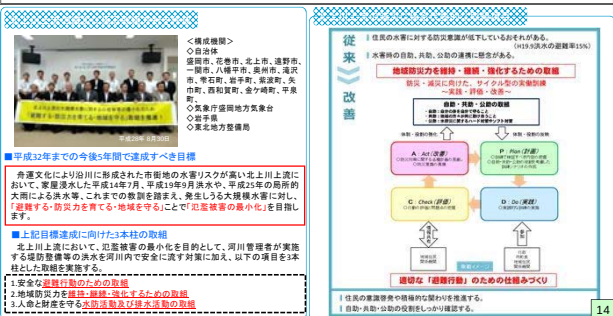
＜ソフト対策＞：住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より有効性のある「住民目録のソフト対策」へ転換し、平成28年度出水期までを目途に重点的に実施。
＜ハード対策＞：「洪水氾濫を未然に防ぐ対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

＜主要対策＞ 各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等新たな設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。



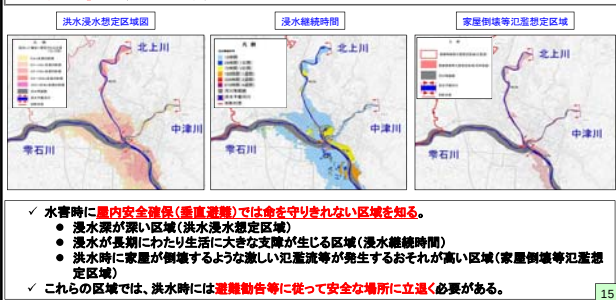
①水防災意識社会再構築ビジョンの取組

- 『水防災意識社会再構築ビジョン』として、北上川水系で発生しうる大規模な水害に備え、国、県、市町村が連携して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的かつ計画的に推進するため、『**北上川上流洪水減災対策協議会**』を設置し、『**減災に係る取組方針**』を作成しました。
- 「北上川上流の代表的な取組」として、PDCAサイクルを取り入れた実施例により、自助・共助・公助の連携・強化を推進します。



②想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域の公表

- 『洪水浸水想定区域』は、水防法に基づき、洪水時の内河川かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより、水災による被害の軽減を図ることを目的として公表しているものです。
- 平成27年の水防法改正により、従来の「計画規模の降雨」から、「**想定最大規模の降雨**」に変更した洪水浸水想定区域を平成28年6月30日に公表しました。
- 今回の公表では、浸水が想定される「区域」と「長さ」に加え、「**浸水継続時間**」、「**家屋倒壊等氾濫想定区域**」も公表しています。



③アニバーサリープロジェクト

- 「アニバーサリープロジェクトとは、治水施設の生い立ちを振り返り、果たしてきた役割や地域の災害リスクについて再認識していただくため、完成からの一定期間を節目に各種行事を実施するものです。
- 今回、砂鉄川において、「河川災害復旧等関連緊急事業」の完成から10年の節目として、「**砂鉄川を語る会**」及び「**パネル展**」を実施しました。

➢ 堤防ができるまでの砂鉄川は、水害常襲地帯であり、平成14年7月洪水では台風第6号の猛威により、一関市東山町（旧東山町）と一関市川崎町（旧川崎町）に深刻な被害が発生しました。

➢ これを受け、抜本的な治水対策を講じる「河川災害復旧等関連緊急事業」に着手し、短期間に重点的に事業の推進を図りました。

■日 時：平成28年10月29日（土）

■場 所：岩手県（一関市川崎町）

■メンバー：松川 誠氏（元東山町長）
千原 正氏（元川崎町長）
市山 俊樹氏（元国土交通省河川局長）
松田 昌史氏（元国土交通省河川局長）

■観 衆：約190人

■開催期間：平成28年10月17日（月）～31日（月）

■開催場所：道の駅かわさき／一関市役所／一関市役所東山支所／東山地域交流センター／川崎町民センター／あいぽろ

川崎町民センターでのパネル展

当時の被災状況や事業の概要などのパネルの他、地元の方より提供して頂いたパネルも展示しました。パネルの前では、皆さん当時の思い出を語り合っていました。

④防災・河川環境教育

- ・自然災害から命を守るためには、幼少期からの防災教育が重要なことから、学校教育現場における防災教育の支援に係る取組を強化しています。
- ・各地域における過去の災害写真や資料等を提供し、活用していただくことで、防災・河川環境教育のさらなる充実を目指しています。

《平成28年度の実施例 ～岩手大学教育学部附属小学校の事例～》

提供した資料を授業に活用

・H28年7月22日 防災教育の取り組みについて打ち合わせを行い、学校側から北上川で漁業をしていたことが分かる資料、北上川に生きている動物、魚の資料の提供の要望があり、資料を提供しました。

■授業の実施：平成28年9月28日（水）

■授業の対象：5年生

■授業の内容：日本の水産業の学習の一環として、北上川では漁業をしていたという授業を行った（河川環境教育）。

＜授業内容＞

○北上川に生きている動物、魚の紹介（15分）

○北上川で漁業をしていたことの説明。（15分）

○昭和30年代～40年代の北上川は、松尾鉱山の鉱毒水で汚染されていたことの説明。（15分）

○新中和处理施設と四十四田ダムによる北上川清化の説明。

提供資料の一部

動物のパネル

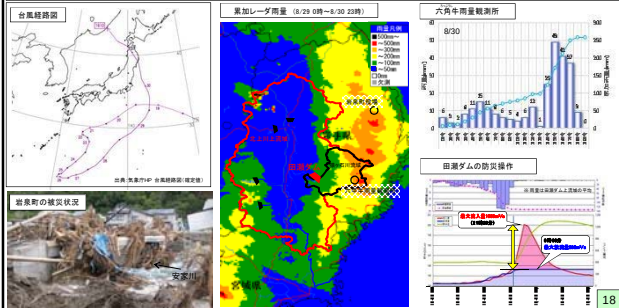
魚の標本

授業の様子

岩手河川国道事務所より提供した資料を使用。

⑤平成28年8月台風第10号の対応

- ・台風第10号は、強い勢力を保ったまま8月30日18時前に大船渡市付近に上陸しました。台風が東北地方の太平洋側に上陸したのは1951年の統計開始以降、初めてでした。
- ・岩手県では、沿岸部を中心に局地的に猛烈な雨を観測し、総降水量が約300ミリの大雨となりました。この大雨による河川の氾濫により、岩手県では人命が失われるなど、**岩手県沿岸部において重大な被害が発生しました。**



18

⑤平成28年8月台風第10号の対応

- ・岩手河川国道・北上川ダム統合管理事務所では、災害対応を実施する自治体に対して技術的助言や連絡調整を行うため、**延べ111人のリエゾンを派遣しました。**また、被害状況の把握及び技術的支援のため、**延べ69人のTEO-FORCE（緊急災害対策先遣隊）を派遣しました。**
- ・岩手河川国道・北上川下流では、自治体からの要請により、**延べ120名の災害対策機械を派遣しました。**
- ・国道106号 宮古市基目地区の道路客側の支援のため、**災害用に北上川で備蓄しているブロック635個を搬出しました。**



19

②「北上川下流の復旧・復興状況など

最近の取組について」

北上川下流河川事務所

副所長 今野 裕美 氏



皆さんこんにちは。というよりもごぶさたしておりますというふうに言った方がいいのかと思いますけれども、10年ほど前まで上流、下流、いろいろな所で皆様と少しずつ関わらせていただいたことがございましたが、ここ10年ほど遠ざかっておりまして、皆さんとは縁が切れたかなと残念に思っておったのですけれども、この4月からまた下流事務所の方に勤務させていただくことになりまして、今日もお越しいただいている新井さんとかとは仲良くさせていただいているところでございます。それでは私から北上川下流の復旧復興状況などについて、時間もないので簡単に説明させていただきたいと思います。

皆さん、ご存じの方も多いかと思うのですけれども、石巻市を流れる旧北上川の河口部はもともと堤防のない所に住宅が密集していたという土地でございまして、東日本大震災の津波によって非常に大きな被害を受けました。いろいろ堤防を造っていきましょうということになりまして、もともと無かった所に新しく堤防を造るというのは非常に労力の掛かる仕事でございまして、今日もお

越しいただいているのですけれども私の先輩であります佐藤伸吾さんとか、地元の方と140回以上の交渉をやっていたきながら、延べ1,800名以上の方にご説明申し上げた中で、やっと計画ができてまして工事に着手する運びとなって、25年からまず初めに護岸の着手ということで始まっているところでございます。

これは旧北上川の河口部の完成予想図ということで、従来はここまでびっしり街が張り付いていたところなのですが、そこに堤防が出来て、裏に新しく街ができるという状況になっています。最近ようやく一部姿が見え始めまして、この復興公営住宅と分譲マンションが一体になった建物があるのですけれども、この建物はこの堤防と一体となった構造になっています。建物の2階の入り口から直接堤防の上に出ることができるという、まさに街づくりと一体となった堤防整備ということで、ようやく形が見え始めています。この上流側にも、これが民間の事業者さんがやられる仮称生鮮マーケットという施設なのですけれども、実は今日お昼からこの着工式がございまして、私も玉串奉奠の大役を務めさせていただいたところなのですけれども、こういった中で民間の事業もどんどん進んできておりまして、間もなくと言ってももう数年掛かりますけれども、全容が見えてくることになるかというふうに石巻市民の皆さんは期待を持っていただいている事業をいま進めているところでございます。

あとはちょっとソフト事業ですけれども、岩手事務所さんにお借りしまして、今年北上川フェアのイベントに合わせまして脇谷から石巻までのクルーズを企画させていただいたところ、先着20名ということで、大体20名ぐらいの応募しかなかったのですけれども、非常に為になったと、良かったと、ただ天気があまりよくなかったものですか

ら、こういったことを継続して進めていきたいな
 と思ってございます。また、岩手でもありました
 けれども、アニバーサルプロジェクトということ
 で、ちょうど分流の脇谷の事業が完成して10年と
 いうことで、白石さんたちのイベントに乗っかる
 ような形で分流完成10周年記念イベントというこ
 とでパネル展示等をさせていただきました。今日
 参加された皆様に記念カード、水門開門カードと
 いうものをセットで皆様に配布させていただきました
 けれども、ちょっとこれはいま流行りのダム
 カードにちょっと乗った形で事務所単独で取
 り組んでいるものがございます。こういった取組
 みもますます進めていきたいなというふうに思っ
 ています。近いうちに北上川下流事務所の構造物
 カードが出回ることになるかと思いますので、是
 非皆様お越しいただければと思います。以上で終
 わります。

北上川下流の復旧・復興状況など最近の取組について

平成28年11月26日

東北地方整備局 北上川下流河川事務所

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

旧北上川河口部の特徴

国土交通省

- 旧北上川は石巻市中心市街地を流下。
- 旧北上川河口部は藩政時代の米の集積地、明治中期以降は水産加工場の一大集積地として発展し“川湊”(かわみなと)として栄えた。
- 銘石“稻井石”の産出地であることから、現在でも河岸部の石積み護岸や“かわど”と呼ばれる水辺へアクセスするための石積み階段が残されている。
- 歴史・文化がなど多くの特色に富んだ河川である。



河口部があった石巻港



太平洋

石巻市街地



現在も残る石積み護岸



現在の旧北上川(H28.3)

1

旧北上川河口部 堤防計画の決定等に関するこれまでの経緯 国土交通省

約140回以上の説明会を開催し、延べ1,800名以上の方に説明

堤防の考え方、堤防計画の説明（平成23年11月～12月）

- 津波・高潮・洪水等を考慮して計画する（石巻市で約1,900名）
- 浸水対策についてのアンケート調査（回収総数約1,100枚）
- 堤防設計のための測量着手の報告（旧北上川沿川で約1,750名）

堤防計画(案)の説明（平成24年1月～平成24年11月 約140回延べ1,800名以上）

計画中の堤防設計について、各町内会（各地区）単位で説明し、了解をいただく

- 地区別の高さと敷幅
- 堤防の位置、横断形状
- 側道を含めた堤防計画

堤防計画への合意

用地幅杭の設置 用地調査の実施

護岸矢板工事の着手（平成25年1月～）

平成25年1月27日 旧北上川河口部護岸復旧事業の着工式

2

旧北上川河口部の復旧・復興 進捗状況（H28.9末時点） 国土交通省

旧北上川河口部の堤防整備状況

旧北上川については、河口に位置する石巻海岸の海岸堤防高と整合をとり、高潮に対して必要な高さT.P.P. 2mとします。

整備対象区画約15.0kmのうち、平成28年度9月末時点で約77%の区画で護岸工事に着手、早急な堤防工事には約94%に着手しており、全區画の平成32年度の高さを目標としています。

●旧北上川左岸（石巻市浜地区）の整備状況

海岸側堤防高 河口部堤防整備計画（T.P.P. 2m）（旧T.P.P. 1.5m）（旧T.P.P. 1.0m）（旧T.P.P. 0.5m）

計画堤防高 T.P.P. 2m

河口部の堤防整備イメージ

●事業の進捗状況（H28年9月末）

区画番号	事業内容	進捗状況
H28-1	護岸工事	完了
H28-2	護岸工事	完了
H28-3	護岸工事	完了
H28-4	護岸工事	完了
H28-5	護岸工事	完了
H28-6	護岸工事	完了
H28-7	護岸工事	完了
H28-8	護岸工事	完了
H28-9	護岸工事	完了
H28-10	護岸工事	完了
H28-11	護岸工事	完了
H28-12	護岸工事	完了
H28-13	護岸工事	完了
H28-14	護岸工事	完了
H28-15	護岸工事	完了
H28-16	護岸工事	完了
H28-17	護岸工事	完了
H28-18	護岸工事	完了
H28-19	護岸工事	完了
H28-20	護岸工事	完了
H28-21	護岸工事	完了
H28-22	護岸工事	完了
H28-23	護岸工事	完了
H28-24	護岸工事	完了
H28-25	護岸工事	完了
H28-26	護岸工事	完了
H28-27	護岸工事	完了
H28-28	護岸工事	完了
H28-29	護岸工事	完了
H28-30	護岸工事	完了
H28-31	護岸工事	完了
H28-32	護岸工事	完了
H28-33	護岸工事	完了
H28-34	護岸工事	完了
H28-35	護岸工事	完了
H28-36	護岸工事	完了
H28-37	護岸工事	完了
H28-38	護岸工事	完了
H28-39	護岸工事	完了
H28-40	護岸工事	完了
H28-41	護岸工事	完了
H28-42	護岸工事	完了
H28-43	護岸工事	完了
H28-44	護岸工事	完了
H28-45	護岸工事	完了
H28-46	護岸工事	完了
H28-47	護岸工事	完了
H28-48	護岸工事	完了
H28-49	護岸工事	完了
H28-50	護岸工事	完了
H28-51	護岸工事	完了
H28-52	護岸工事	完了
H28-53	護岸工事	完了
H28-54	護岸工事	完了
H28-55	護岸工事	完了
H28-56	護岸工事	完了
H28-57	護岸工事	完了
H28-58	護岸工事	完了
H28-59	護岸工事	完了
H28-60	護岸工事	完了
H28-61	護岸工事	完了
H28-62	護岸工事	完了
H28-63	護岸工事	完了
H28-64	護岸工事	完了
H28-65	護岸工事	完了
H28-66	護岸工事	完了
H28-67	護岸工事	完了
H28-68	護岸工事	完了
H28-69	護岸工事	完了
H28-70	護岸工事	完了
H28-71	護岸工事	完了
H28-72	護岸工事	完了
H28-73	護岸工事	完了
H28-74	護岸工事	完了
H28-75	護岸工事	完了
H28-76	護岸工事	完了
H28-77	護岸工事	完了
H28-78	護岸工事	完了
H28-79	護岸工事	完了
H28-80	護岸工事	完了
H28-81	護岸工事	完了
H28-82	護岸工事	完了
H28-83	護岸工事	完了
H28-84	護岸工事	完了
H28-85	護岸工事	完了
H28-86	護岸工事	完了
H28-87	護岸工事	完了
H28-88	護岸工事	完了
H28-89	護岸工事	完了
H28-90	護岸工事	完了
H28-91	護岸工事	完了
H28-92	護岸工事	完了
H28-93	護岸工事	完了
H28-94	護岸工事	完了
H28-95	護岸工事	完了
H28-96	護岸工事	完了
H28-97	護岸工事	完了
H28-98	護岸工事	完了
H28-99	護岸工事	完了
H28-100	護岸工事	完了

3

～旧北上川かわまちづくり～第3回「川口・浜地区」市民部会開催概要(H28.8.27)

・平成28年8月27日（土）石巻市総合福祉会館みなと荘において、川口・浜地区の堤防等の整備や新たに生まれる水辺空間等について、地元の方々との意見交換を行う「第3回川口・浜地区市民部会」を開催しました。

・今日の市民部会では、第1・2回の市民部会で得られた意見を基に検討した整備方針と現在施工中の工事に関する報告を行ったほか、防災緑地一号（二線堤防）と河川堤防の接続点に新たに生まれる空間の利活用について意見交換を行いました。また、工事の施工状況や堤防の高さ・大きさ等について、現地見学を実施いたしました。

<第3回「川口・浜地区」市民部会>

★日時：平成28年8月27日（土）13時30分～17時00分

★場所：石巻市総合福祉会館 みなと荘

★参加人数：30名

★事務局：北上川下流河川事務所、東部土木事務所、石巻市

<当日の主な意見>

【新たに生まれる水辺空間の利活用について】

- 津波到達水位、洪水水位を明示して欲しい。
- 雑談ができるようなスポットを設置して欲しい。
- 公営住宅の方に愛されるような空間にしたい。
- 川開き祭りの花火スポットとしても活用したい。
- 斜面を楽しめるような空間づくりをして欲しい。
- 中瀬からの動線をどう呼び込むかが課題となる。
- サクラを植樹して花見をしたい。
- 四季が感じられるような植栽が良い。
- 釣りができる空間づくりをして欲しい。

【整備後の維持管理等について】

- 人が集まって欲しいが、ゴミの問題が不安。
- 行政だけに頼らず、みんなで愛着を持って維持管理していくことが大切。
- 行政と町内会との連携。
- みんながきれいにするという意識で利用が必要。

※今後も各地区の市民部会を隔次開催する予定です。

4

～旧北上川かわまちづくり～かわまち散歩の開催について(H28.10.8)

・平成28年10月8日（土）北上川フェアアタックイベントと中央・門脇一丁目地区市民部会の現地見学会として、旧北上川の堤防等の各整備箇所を巡る“かわまち散歩”を開催いたしました。

・当日は、水辺の復興みらい館⇒八幡町堤防盛土箇所⇒新内海橋施工箇所（宮城県）⇒中央14,15番地堤防盛土箇所の各地点にて、担当者による事業説明を行い、中央14,15番地区では堤防完成後の利活用をイメージして頂くため、カフェブースを設けました。

・参加者された方々は、復興状況の把握と堤防の利活用イメージを体感して頂きました。

<かわまち散歩コース>

中央14,15番地区

八幡町堤防盛土箇所

新内海橋施工箇所

<中央14,15番地区堤防オープンハウス>

中央14,15番地区の堤防整備箇所では、“堤防オープンハウス”と称して、今後の利活用方法をイメージするため、カフェテラスを設けて来場者がくつろげる空間づくりの演出を行いました。

5

H28_みずべマルシェin北上川 ～ミズベリング石巻～ (H28.5.29)

平成28年5月29日、初夏の爽やかな天候の中、旧北上川石井間門周辺にて「みずべマルシェin北上川」を開催しました。今年は新たにヨガブースを設けて、ヒーリング音楽の生演奏とともにヨガを行いました。その他、カフェ・フリーマーケット・カヌーのブースも出店して、近所の方々をはじめとする多くの方々にミズベの心地良い空間でゆっくりと流れる時間をお過ごし頂きました。昔々に地域へ根付き始めたイベントとなっていることを実感いたしました。

普段静かな石井間門周辺も賑やかに

女性に大好評だったヨガブース

晴天の中でカヌーを親子連れに人気

子どもたちはカニ取に夢中

木陰でご近所さんが談笑中

ヒーリング音楽の生演奏とヨガ・ミズベの効果で心身ともにリフレッシュ!

6



水防災意識社会 再構築ビジョン

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「**水防災意識社会 再構築ビジョン**」として、全ての直轄河川とその沿川市町村（109水系、730市町村）において、平成32年度までに**水防災意識社会を再構築する取組**を行う。

＜ソフト対策＞・住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目標のソフト対策」へ転換し、平成26年出水期までを目途に重点的に実施。

＜ハード対策＞・「洪水氾濫を未然に防ぐ対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

主な対策

各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して、被災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。

＜危機管理型ハード対策＞

- 越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策の推進

＜被害軽減を図るための堤防構造の工夫（対策例）＞

- ・堤防の断面形状の改良
- ・堤防の基礎の改良
- ・堤防の基礎の改良

＜洪水氾濫を未然に防ぐ対策＞

- 優先的に整備が必要な区間において、堤防のかさ上げや深透対策などを実施

＜住民目標のソフト対策＞

- 住民等の行動につながるリスク情報の周知
- 立ち退き避難が必要な家屋損壊等に関する地域等の調査
- 住民のとりまき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良
- 不動産関連事業者への説明会の開催
- 事前の行動計画作成、訓練の促進
- タイムラインの策定
- 避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供
- 水位計やライブカメラの設置
- スマホ等によるプッシュ型の洪水予報等の提供

※ 家屋倒壊等氾濫想定区域 ※

※ 家屋倒壊等氾濫想定区域とは、河川氾濫による浸水被害が発生する可能性がある区域を指す。

H28.11.2 栗原市（二迫川 県知事管理区間）で簡易アラートの運用を開始

○平成28年11月2日、二迫川下流の大規模氾濫時の減災対策協議会の一環として、昨年の関東・東北豪雨で決壊した二迫川（菅沢袋島地区）において、住民の避難行動等に資する「**簡易アラート装置**」の運用を開始しました。

○試験設置と併せ、計25名の住民に対する説明会を実施し、住民の方々からは、「この地区は過去に度々洪水被害が生じており、避難に活用できる。」「家から川までが遠いので、アラートがあることは大変助かる。」という声が聞かれるなど、住民の円滑な避難への一助となり、水防災意識を向上させる取組となりました。

【位置図】

【簡易アラート設置イメージ】

【住民の意見】

- ・この地区では過去に度々洪水被害が生じており、避難に活用できる。
- ・今までは避難の判断を自分で行っていたが、今後はアラートをもとに避難したい。
- ・家から川までが遠いので、アラートがあることは大変助かる。
- ・天候から3m程度の水位上昇はこれまでもあったが、まだ安心だと思っていたが、避難判断水位まで迫っていたことが改めてわかった。

試験設置期間H28.11.2～H28.11.30（予定）

H28.9.16 旧北上川分流施設見学会を実施（登米市上沼小学校）

○平成28年9月16日、旧北上川分流施設で施設見学会を開催し、上沼小学校四年生（28名）が参加しました。

○「北上川下流の減災に係る取組方針（住民等への防災教育）」の一環である本取組を通じて、北上川の歴史と過去の被害を学んでもらい、水防災意識の向上に寄与しました。

○参加者からは、「今までの最高水位や過去に大きな被害があったことがわかった。」などの感想もいただきました。

分流施設管理棟で上沼小学校四年生（28名）が受講

水門の上から分流施設を見学

主な内容

1. 北上川の歴史
2. 分流施設の目的
3. 分流施設見学

・流域の特徴

・大洪水の発生

・開閉の歴史

・新しい水門の設置

・洪水の歴史

ゆはす号 旧北上川船下り（旧北上川分流施設～住吉公園前）を開催（H28.10.8）

○平成28年10月8日（土）、「ゆはす号」に小学生とその保護者約20名に乗船していただき、脇谷開門通過体験や旧北上川クイズなどを盛り込んだ、「旧北上川船下り」イベントを開催しました。

○参加者からは、「楽しかった」、「旧北上川の歴史について勉強になった」、「また参加したい」といった声をいただきました。

ゆはす号を背景に記念撮影

ゆはす号 脇谷開門へ

行程

脇谷開門内での様子

ゆはす号内での説明の様子

脇谷開門を通過するゆはす号

脇谷開門を通過したゆはす号

しびきをあげるゆはす号

～アニバーサリープロジェクト～ H28.10.22「旧北上川分流施設 完成10周年記念イベント」を開催

○北上川は、若手県若手町幹部を源とし、宮城県登米市（旧津山町）付近で取水後として開削された北上川と旧北上川に分流する一級河川です。

○北上川から旧北上川への分流を行うため「鶴巻洗池」「脇谷洗池」「脇谷開門」が建設されましたが、より旧北上川の洪水に対する安全性を向上させるため、「鶴巻水門」と「脇谷水門」が作られました。

○2つの水門の完成10周年を記念して、旧北上川分流施設のバネル展の開催と記念カードの配布を行いました。来場者からは「水害の記憶と河川改修の歴史、分流施設について勉強になった」などの感想をいただき、土木建造物の魅力を改めていただきました。

見学状況

記念カード（鶴巻水門）

記念カード（脇谷水門）

※ アニバーサリープロジェクトとは、治水施設の正しい立ち位置を地域の方々に伝え、施設の役割を再認識していただくための取組を実施するものです。

【記念イベント開催概要】

- 日 時：平成28年10月22日（土）10:00～13:30
- 場 所：旧北上川分流施設 管理棟（北上川町（旧津山町）内）
- 内 容：バネル展 水門・開門記念カード配布
- 参加者：約100名

■アンケート結果

記念カード（鶴巻水門）

記念カード（脇谷水門）

③「ダムを活かした水源地域の活性化について」

北上川ダム統合管理事務所

調査課長 重茂 和志 氏



皆さんこんにちは。北上川ダム統合管理事務所の調査課長をしております重茂と申します。よろしくお願いします。時間もないので早速いきたいと思いますが、私からは「ダムを活用した水源地域の活性化」ということでお話をさせていただきます。

まず、私ども北上川ダム統合管理事務所ですが、岩手県にあります5つの北上川にあるダムを管理している事務所でございます。今回、各ダムでのダムを活用した取組みについてご紹介したいと思います。

まず水源地域ビジョンです。ちょっと目的が長々と書いてありますが、ポイントとしては流域内の連携と交流による流域圏の発展ということで、今回の会議にも通じるようなキーワードではないかと思います。管内の5つのダムを記載していますが、それぞれに水源地域ビジョンの協議会というのが設けられているということでございます。

今回のダムを活かしたという視点ということで、胆沢ダムの事例を1つ紹介したいと思います。昨年度からの取組みで、ビジョンの水源地域活性化協議会、こちらの主催でダムフェスというものを

夏と秋に開催しております。特徴的なものとしてはダムカフェということで、ダムの管理庁舎をカフェにしようというちょっと私も大丈夫なのかなという斬新な企画なのですけれども、これが大変好評で、お客さんが入って休んでいただくと、かなり眺望もよくて、ダムの貯水池、ダム本体も見渡せるというようなカフェになっております。

さらに奥州のカヌー愛好会の方のカヌー体験会。それから岩手流域ネットワークキングのラフティング体験会も併せて実施されていまして、夏は1,900人ぐらいがダムを訪れていただきました。

秋もちょっと企画の内容は変わりましたが、湖面巡視等を実施しまして、大体3,600人以上が訪れていただいたということです。夏、秋ともダムならではの魅力、ほかでは体験できないような企画というのが多くの来場者につながったのではないかなというふうに考えております。

次に地域観光資源としてダムを活用する取組みということでいくつか紹介します。まず桜の開花に合わせてダムの放流ということで、通常は使わないクレストゲートという大きな洪水の時に使う場合があるゲートなのですけれども、そこからの放流を桜の開花に合わせて実施したというものです。これが四十四田と御所ダムです。

胆沢ダムについては放流ではないのですが、融雪で越流する際に桜のシーズンにちょうど合っていたということで、3つのダムで桜と放流を合わせて楽しむことができたという取組みです。こちらの四十四田と御所は発電事業者、岩手県企業局さんのご協力も得ながら実施した、連携して行ったというものです。

次にこれはダムをライトアップしたというものです。湯田ダムの例では8月の夏休みで人が来るような期間に合わせて実施しました。こちらは御

所ダムです。先ほど年間どのくらい来るかという話も軍司さんの発表の時にありましたが、大体私の記憶では数年前のデータかも知れないですけども、大体90万か100万人の間ぐらいかなという記憶があります。大変お客さんが来るダム湖ということで、その中でも年に1回、御所湖まつりで花火なども併せてやり、大変お客さんが来る時期に合わせてライトアップを行ったという例です。

こちらは胆沢ダムのライトアップで、ゴールデンウィーク、あとは10月の国体カヌー競技会の競技に合わせてライトアップを実施したというものです。

これからもこういった地域のイベントとか、お客さんが訪れるようなところを盛り上げる意味でもタイミングを見て実施していきたいと思っています。

次に、これはちょっと新しい取組みといいますか、国交省全体としてインフラツーリズムというのを進めておりまして、その中でもあまりまだ北上川ダム管内ではあまりないのですが、ダムツーリズムということで宮城交通が主催した「歩け歩け大会」という一般の方向けのツアーなのですが、こちらで御所ダムを見学して、最後はつなぎ温泉まで行くという、管理庁舎が左岸側にあるのですが、まずダムの勉強をしていただいてダムの中、監査路を歩いて、そのまま御所ダムの右岸側にあるつなぎ温泉まで行き、最後は入浴して休むというような企画です。ダムのマニアの方だけではなくて、こういった一般の方向けにもこういう企画がなされてくるということで、かなりダムが観光資源として注目され始めているのかなというふうに感じるところです。

次に地域と連携した取組みということで、10月に岩手国体が開催されましたが、うちの5ダムの中でも田瀬ダムでボート競技、御所と胆沢ダムで

カヌー競技が行われております。事務局や利水者と調整しまして、会場や湖周辺の整備、それから貯水とか河川の流量の確保というのを行いまして、成功のために協力をした、連携したというものです。一つご紹介しますと、胆沢ダムの下流のカヌー競技場ですが、こちらが大変評価が高いと、国内でも有数のものだというふうに評価されているようです。来年は国内の大きな大会、ジャパンカップが開催ということが内定しており、東京オリンピックの際にも練習地、宿泊先として活用も検討されている、末永く活用される会場にしたいという奥州市長のコメントも出ているようです。評価が高いということなのですが、背景にはダムの方で水量を利水者の方と調整しまして、安定した水量を確保しているというのが陰にありまして、陰ながらダムが貢献しているという例だと思います。

次に地域と連携したということで、湯田ダムのスプリング放流ということで、ゴールデンウィークのあたりに、これもやはりクレスト放流ということで、普段使わないクレストゲートからの放流ということで、ダムマニアからも大きく注目を浴びたものです。この際には西和賀町の観光協会の方と連携しまして、観光協会で湯田ダムの方に来るともらえるダムカードを提示すると町内の飲食店や観光施設で割引を受けられるとか、そういった特典を実施したところ、ダムカレーというのがありまして、湯田ダムの形を模しているのですが、こちらが限定で200食完売したということで、かなり好評で、いま現在通年のメニューになったというものです。実際、どのくらいの効果があったのかというのをちょっとだけ調べてみたのですが、3日間の期間中、湯田ダムの来訪者は1,300人とかなり来ていただいた。27年は100名ということなので、前年度が少ないというのがあるのですが、

かなり増えた。道の駅錦秋湖でも入込客数が大体1.3倍、売り上げが1.9倍、ちょっと額までは教えていただけていないのですが、かなりの効果があったのではないかと。観光協会とダムが連携したことで相互に誘客効果をもたらしたんじゃないかと推定しています。

最後に次世代につなげていく取組みということで、先ほどまではどちらかと言うとダムを活用した新しい取組みみたいなものだったのですが、こちらの事例は次世代の子供たちにも継承していくものがあるだろうというような内容です。こちら四十四田ダムの水源地域のビジョン推進会議で実施しているもので、今年は2回実施して11回目ということです。

こちらは、第10回がキャンプ、第11回が森のワークショップということで、水源地域の上下流の子供たちの交流が図られているという事例でございます。

こちらは田瀬ダムの森林探検隊ということで、森林ですとか、ダムの働きに関心を高めていただくということで、主に子供を中心に子供向けのよう企画ではあるのですが、毎年30名ぐらい参加ということで、いつぐらいから始まったのか私もちょっとこの機会に調べてみたのですが、昭和63年からということで、30年近く続けているということで、こうやって地道に長く取り組んでいくというのが大事なのかなというふうに感じたところでございます。

また、川又神楽、川前神楽の建設者功績賞事業受賞ということで、こちらはちょっとダムの活動とは違うのですが、四十四ダムの建設で水没した地域の神楽、こちらを伝承している団体が日本ダム協会の方から表彰をいただいたというものです。ダム完成以来48年経っているわけですが、今なおダムによって水没した地域の歴

史・文化を伝えていると、集落の想いを風化させない活動を続けているということが評価されたということです。

最後に、ダムを活用した水源地域の活性化ということでお話したのですが、一つは新しい取組みになると思うのですが、ダムの魅力を知ってもらうとともに、地域の活性化につなげていく、観光資源として活用していく取組みということと、もう一つは自然・歴史・文化等を守り育てる、次世代の子供たちに継承していく取組みが必要でしょうと、これが持続可能な地域の活性化につながるのではないかなというようなことの取組みをやっていきましょうという話でございます。駆け足でしたが私からは以上になります。ありがとうございました。

ダムを活用した水源地域の活性化

平成28年11月26日
北上川ダム統合管理事務所



Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

ダム水源地域ビジョン



北上川ダム統合管理事務所

- ◆ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り、**流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展**を図ることを目的として策定
- ◆北上川五ダム全体で11の市町が参加し、それぞれの川、流域に特徴があるように、各水源地域ビジョンにも個性があり、**地域性を活かした取組み**が行われています。

【北上川五ダムの水源地域ビジョン協議会】

- ・御所ダムビジョンネットワークの会
- ・湯田ダムビジョン推進協議会
- ・田瀬ダム水源地域ビジョン推進協議会
- ・四十四田ダム水源地域ビジョン推進協議会
- ・胆沢ダム水源地域活性化協議会



胆沢ダムフェス 2016 in 夏を開催



北上川ダム統合管理事務所

- 8月11日～12日「胆沢ダムフェス2016 in 夏」を開催、**1,891人**が胆沢ダムを訪れた
- 今回初めての試みとなる「**ダム堤体登山**」を実施（主催：胆沢ダム管理支所）、2日間で92名が参加
- 昨秋大好評だった「**ダムカフェ**」を今年も開催（主催：胆沢ダム水源地域活性化協議会）
- 胆沢ダム下流の調整池では、「**カヌー体験会**」を実施（主催：奥州カヌー愛好会）、2日間で101名が参加
- 特設カヌー競技場では、「**ラフティング体験会**」を実施（主催：いわて流域ネットワーク）27名が参加



堤体登山の様子

ダムカフェの様子

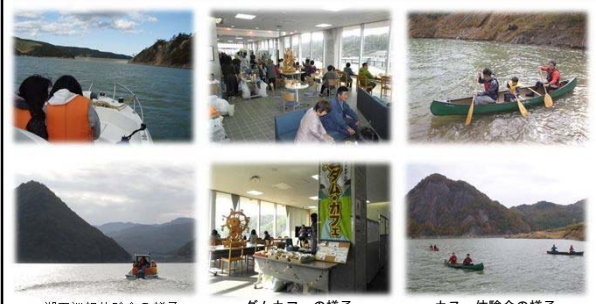
カヌー・ラフティング体験会

胆沢ダムフェス 2016 in 秋を開催



北上川ダム統合管理事務所

- 10月22日～23日「胆沢ダムフェス2016 in 秋」を開催、**3,657人**が胆沢ダムを訪れた
- 今回初めての試みとなる「**湖面巡視体験会**」を実施（主催：胆沢ダム管理支所）、40名が参加
- 裏に続き「**ダムカフェ**」と「**物販**」を開催（主催：胆沢ダム水源地域活性化協議会）
- 胆沢ダム上流では、「**カヌー体験会**」を実施（主催：いわて流域ネットワーク）、43名が参加



湖面巡視体験会の様子

ダムカフェの様子

カヌー体験会の様子

地域の観光資源としてダムを活用する取り組み

- ・観光放流（桜の開花にあわせた放流）
- ・ダムのライトアップ
- ・ダムツーリズム

桜の開花に合わせてダム放流を実施



北上川ダム統合管理事務所

「四十四田ダム」及び「御所ダム」において、桜の開花時期に合わせて「クレストゲートからの放流」・「ライトアップ」を実施しました。また、胆沢ダムにおいては、ゴールデンウィーク期間中「胆沢ダム in 春」を開催し、多くの方に来場いただきました。

四十四田ダム

- ◆実施日時：平成28年4月23日（土）10:00～12:00
- ◆内容：クレストゲート3門からの放流
- ◆放流見学者数：約150名（ものしり観入場者465名）



クレストゲート放流と満開の桜

ダム直下流でカメラを構える見学者

御所ダム

- ◆実施日時：平成28年4月23日（土）13:00～15:00
- ◆内容：クレストゲート4門からの放流
- ◆放流見学者数：約50名（隣接する「盛岡手づくり村」と連携）



クレストゲート放流と満開の桜



さらけ放流見学者

ダム堤体のライトアップ

胆沢ダム in 春

- ◆実施日時：平成28年4月28日～5月8日
- ◆内容：ダム堤体のライトアップ、カヌー体験会、地元特産品の出店、懐かしの石溜の里写真展
- ◆来館者数：約5000名



一本桜とダム放流

ダムライトアップ(湯田ダム錦秋湖大滝) 国土交通省
北上川ダム総合管理事務所

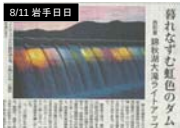
湯田ダムでは、平成28年8月10日～12日の3日間、錦秋湖川尻総合公園にある錦秋湖大滝(貯砂ダム)のライトアップを実施



あやめ橋からの眺め



川尻総合公園 東屋からの眺め



8/11 岩手日日



8/8 岩手日日



錦秋湖大滝
ライトアップ
8月10日～12日
午後5時～夜12時
錦秋湖川尻総合公園

通路を一般開放(水のカーテンの中)

ダムライトアップ(胆沢ダム、御所ダム) 国土交通省
北上川ダム総合管理事務所

御所ダムでは、平成28年7月31日「森と湖に親しむ旬間」及び「つなぎ温泉御所湖まつり」にあわせてライトアップとダムの見学会を実施





2018
7月31日(日)

御所ダム
特別見学会&ライトアップ

岩手日報H28.8.1

ダムライトアップ(胆沢ダム) 国土交通省
北上川ダム総合管理事務所

胆沢ダムでは、ゴールデンウィーク期間(4月28日～5月8日)、10月に実施されたいわて国体(胆沢川特設カヌー競技場)競技期間にあわせて、ダムのライトアップを実施



馬留広場から撮影



国道397号から撮影

ダムツーリズム 国土交通省
北上川ダム総合管理事務所

国土交通省全体の取り組みとして、**民間ツアー会社、地域と連携したインフラツーリズム**の一つとして、ダムツーリズムを推進(四半期毎にリーフレット「ダムを見に行こう」を発行)



秋のダムツアー総合案内

ダムを見に行こう

スポーツにグルメに紅葉！
秋のダムを堪能しよう！

ダムツーリズム(御所ダム 歩け歩け大会) 国土交通省
北上川ダム総合管理事務所

◆宮城交通主催のツアー「歩け歩け大会」開湯9百年盛岡の奥座敷につなぐ
～御所ダム内部を歩いてつなぎ温泉へ～
平成28年10月10日(月祝)に開催、参加者31名



ツアーののぼり



準備運動♪




ものしり館



ダム堤体



つなぎ温泉へ

地域と連携した取り組み 国土交通省
北上川ダム総合管理事務所

- ・いわて国体カヌー・ボート競技への協力
- ・湯田ダム錦秋湖スプリング放流

いわて国体 カヌー・ボート競技大会への協力 国土交通省 北上川ダム統合管理事務所

- 平成28年度「いわて国体」が開催され、御所ダム（盛岡市）で「カヌー競技（スプリント）」、田瀬ダム（花巻市）で「ボート競技」、胆沢ダム（奥州市）で「カヌー競技（スラローム、ワイルドウォーター）」が行われました。
- 各ダムでは、大会事務局や利水者等と調整し、競技会場やコース周辺の環境整備（流水処理・安全管理）、貯水位や河川流量の確保等を行い、大会成功へ向け協力しました。



御所ダム カヌー競技（スプリント）
（10月7日～10月10日）

田瀬ダム ボート競技
（10月7日～10月9日）

胆沢ダム カヌー競技（スラローム・ワイルドウォーター）
（10月7日～10月10日）

いわて国体 カヌー・ボート競技大会への協力 国土交通省 北上川ダム統合管理事務所

- 胆沢ダム下流の「いわて国体特設カヌー競技場」は、**国内でも有数のコースとの高評価**
- 来年のジャパンカップ会場として内定、東京五輪に向けた練習地も視野に活用を模索
- 「**来永く注目され、利用される会場にしたい**」（奥州市長のコメント）



国体の次は「ジャパンカップ」

国体でのカヌー競技の様子

「日本カヌー連盟から胆沢ダム利水協議会への感謝状」

地域と連携した取り組み（湯田ダム錦秋湖スプリング放流） 国土交通省 北上川ダム統合管理事務所

- ◆平成26年度より、今年度で3回目となる「クレストゲート」からの放流
- ◆地域の飲食店や温泉施設など、**西和賀町観光協会と連携して実施したもの**
- ◆クレストゲートの点検放流を兼ねて実施、通常は計画規模を超えるような洪水時に使用するゲートであり、**ダムマニアからも大きな注目を集める**（H27年度はダムアワードを受賞）



クレストゲート6門からの放流

地域と連携した取り組み（湯田ダム錦秋湖スプリング放流） 国土交通省 北上川ダム統合管理事務所

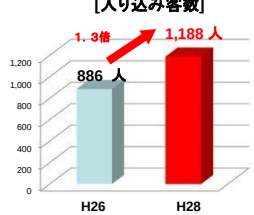
- ◆西和賀町観光協会では、湯田ダムでもらえる「ダムカード」を提示することで、町内の飲食店や温泉施設で割り引きを受けられる特典などを実施
- ◆「道の駅 錦秋湖」では、200食限定の「湯田ダムカレー」が完売
- ※ 好評につき「湯田ダムカレー」は、現在は通年のメニューに！



地域と連携した取り組み（湯田ダム錦秋湖スプリング放流） 国土交通省 北上川ダム統合管理事務所

◆実施結果
3日間の期間中、湯田ダムへの来訪者は、約1,300名と大盛況（H27年は約100名）
「道の駅錦秋湖」でも、**入り込み客数、売り上げともに大幅な増**となった。
町の観光施設（西和賀町観光協会）とダムが連携したことで、**相互に誘客効果**をもたらしたと思われる。

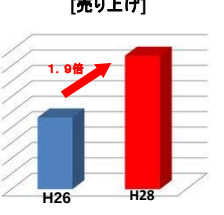
[入り込み客数]



H26 886人 H27 1,188人

※イベントを実施した4/29～5/1（3日間）
※H27年度の同時期は、国道107号土砂崩落の影響で休業

[売り上げ]



H26 1.0倍 H27 1.9倍

◆次世代に繋げていく取り組み

自然・歴史・文化等の地域資源を守り育てる活動

水源地子ども交流会 国土交通省 北上川ダム総合管理事務所

◆四十四田ダム水源地域の子供たちが、キャンプ、森のワークショップに参加
◆野外での遊びや、体験活動を通して交流し学ぶことで、川でつながるふるさとの自然や文化を守り育てる心を醸成することを目的として実施

●平成28年7月27日～28日 里川キャンプ（第10回水源地子ども交流会）
主 催：四十四田ダム水源地域ビジョン推進会議
参加者：盛岡市・八幡平市・岩手町から37名の小学生が参加



●平成28年10月23日 森のワークショップ（第11回水源地子ども交流会）
主 催：四十四田ダム水源地域ビジョン推進会議
参加者：盛岡市・八幡平市・滝沢市等から28名の小学生が参加



田瀬ダム森林探検隊 国土交通省 北上川ダム総合管理事務所

◆森や湖に親しむ機会を提供し、森林やダムの働き等について、関心を高め、理解を深めてもらうことを目的として実施
※ ダム管理者、森林管理者、発電事業者が連携し企画

●平成28年7月23日 田瀬ダム森林探検隊
主 催：田瀬ダム管理支所、岩手南部森林管理署、電源開発(株) 東和電力所
参加者：花巻市、盛岡市、一関市などから30名が参加



川又神楽・川前神楽が建設者功績賞を受賞 国土交通省 北上川ダム総合管理事務所

◆「川又神楽復活後援会」「川前神楽保存会」が、日本ダム協会・建設者功績賞を受賞
◆両神楽保存会は、四十四田ダム建設により水没した地域の神楽を伝承している団体
◆ダム完成以来48年が経過しても、今なおダムによって水没した地区の歴史・文化を伝え、**薫風の思いを風化させないよう活動を継続**



川又神楽（盛岡市）
川前神楽（滝沢市）

おわりに 国土交通省 北上川ダム総合管理事務所

◎ダムを活用した水源地域の活性化

①多くの人に訪れてもらい、ダムの働き・魅力を知ってもらおうと共に、地域の活性化に繋げていく
➡ 観光資源としてダムを活用

②水源地域での活動を通じて、自然・歴史・文化等、地域資源を守り育てる、次世代に継承していく
➡ 持続可能な地域の活性化

ダムカード 国土交通省 北上川ダム総合管理事務所

◆ダムに来ないともらえない、広報を目的とした「カード型」のパンフレット
◆カードの大きさ、掲載する情報の項目等は、全国で統一
◆おもて面はダムの写真、うら面はダムの形式や貯水量・ダム建設の技術などを記載



ダムカードの使い方
行かなきゃもらえない！
ダムカード集めよう
岩手日報こども新聞での特集記事

ダムツーリズム 国土交通省 北上川ダム総合管理事務所

国土交通省全体の取り組みとして、**民間ツアー会社、地域と連携したインフラツーリズム**の一端として、ダムツーリズムを推進（四半期毎にリーフレット「ダムを見に行こう」を発行）



魅力満載！秋のダムツアー4選
ダム周辺スポーツイベント特集

④「台風第10号災害の概要について」

岩手県県土整備部

河川海岸担当課長 馬場 聡 氏



岩手県河川課の馬場と申します。よろしくお願いいたします。私からは、8月30日の台風10号災害の概要と現在の取組み状況についてご説明いたします。

今日は県内で大きな被害がありました所について順番にご説明したいと思いますけれども、まず小本川からご説明したいと思います。お配りした資料にも付けておりますが、今回は初めて太平洋側の東北地方に台風が上陸したということが大きな出来事였습니다。気象庁からは沿岸部で300mm、内陸の方で250mmという雨が予想されるというお話がありました。沿岸部で300mmと言いますと、われわれ県で計画している規模をはるかに超える雨量が降るだろうと予想されていたということもありますし、内陸部も250mmという県内の各河川での計画を超えるという雨量が予想されていたものでございます。小本川におきましては最大時間雨量、1時間に66mmという雨量がありましたし、24時間が211mmという雨がございました。また台風10号が来襲する前にはお盆の頃から台風が3回ぐらい来襲しておりまして、台風10号前の台風では幸いにも大きな出水には至らなかったの

ですがかなり雨により地盤の保水力が低下していたということがございます。雨の降り方としましては、川の上流から中流の方にかけて大きな雨が最初に降りまして、その降った雨が下流に流れ着いた頃にさらに下流の方で大きな雨が降るということで、中流から下流にかけて、そういった雨の降り方で下流の方でもかなり流量が増加したということとなっております。

また今回の大きな洪水の特徴としましては、流木、河岸に立っている木が浸食されまして下流に流されて、橋に詰まってその橋の両岸が溢れて大きな被害につながったということがございます。そういった状況の中で小本川につきましては全壊、半壊、床上、床下と、それから大きな被害が起きましたし、浸水面積は約260haということで、河口部から岩泉の役場がある所まで、さらにその上流、県が管理している区間およそ48kmございますけれども、その全体で大きな被害が起きたということでございます。

それから岩泉町内には安家川という川がございます。上流部は岩泉、下流は下安家ということで野田村に流れている川ですけれども、上流に松林、元村地区という集落がございます。こちらでは10年前の平成18年にも10戸程度の浸水被害が起きるという洪水被害が起きましたけれども、今回はさらに大きな出水が起きまして、大きな被害を受けたというところでございます。こちらでも橋梁への流木、流れてきた木が詰まってさらに被害を大きくさせたというところがございます。

岩泉町内の河川の沿川の状況としますと、大きな特徴が川沿いのすぐ傍に家が建ってしまっていて、その家の山側の方に幹線の道路がある。さらに道路のすぐ反対側に家が並んでいるということで、かなり川に密着した生活、集落のあり方となっております。そういったことで今回、大きな洪水に

なって甚大な被害が発生したというふうに考えております。

その他には宮古地区でも大きな出水がございまして、閉伊川の支川、刈屋という旧新里地区でございすけれども、こちらでも流木、併せて洪水により被害が生じたというところでございます。こちら宮古市の閉伊川の支川・長沢川という所で、こちらは流木被害は大きくはなかったのですが、堤防が溢れて、かなりの広い地区で浸水被害が生じたというところです。

今回の大雨は沿岸部を中心に被害が生じたところですが、北上川流域では遠野市の猿ヶ石川のまた支川、小鳥瀬川、カップ淵の上流の方になりますけれども、こちらでも大きな被害が起きています。ちょうど小鳥瀬川の上流が北上高地に源を発しておりまして、今回は北上高地の東側の方で大きな雨が降ったのですが、北上高地を源とする小鳥瀬川でもかなりの出水となっております。床上、床下20数戸ということで沿岸地区に比べると少ないところですが、かなり大きな被害を受けまして、田畑の浸水も生じたというところでございます。

こちらが大槌町の大槌川でございまして、東日本大震災津波で被災した方々がこういった所で応急仮設住宅に住んでいらっしやっていた所が浸水してしまったということと、応急仮設住宅がある所の隣に被災された方々が新しい家を建てて移転されていたという所も被害を受けたということになっております。県でもそういった状況を踏まえて堤防の計画をしていたところだったのですが、間に合わなかったということでございます。

現在、こういう状況でございますが、いまハード対策の事業化の導入に向けていろいろ検討しているところでございまして、今月から各地区で現在の検討状況等を住民の皆様説明会というものを

を開催しているところです。

また、ソフト対策としましては、水位とか雨量の情報もこれまで提供していたところですが、それに加えてカメラの設置といったものにも取り組んでいきたいというふうに考えてございます。それから岩手河川国道事務所さんからお話がありましたが、浸水想定区域図、ハザードマップの基になるものですが、そちらについても想定最大規模の浸水想定区域図というものも今年度から作っていきたいというふうに考えております。現在、そういったハード、ソフトの対策を進めているところですが、一番の課題は洪水の度に生じる土砂の堆積、それから今回大きな被害を及ぼした立木が流れてしまって流木になるというものでございます。流木については先ほど寺井さんの方からお話もございましたけれども、橋梁に詰まった流木、それから家屋に近い流木というのは撤去しまして、いま県、それから役場の方も一カ所に集積してございますが、それらの処理についてはかなり時間が掛かるだろうというふうに考えていますし、まだ取り切れていない所もありますので、そういったものについては来年の雪解けの時期までには取りたいということで計画しております。そういった流木の処理、それから今後、これからの洪水の時に流木になるかも知れない、なり得そうな立木の処理について、どう効率的にやっていくかというのをいま考えているところでして、先ほどこれも岩手河川国道事務所さんで紹介していただきますけれども、公募型の立木の伐採、あるいは土砂の撤去についてもそういった土を欲しいと思っている方がいれば、そういった公募型というものにも取り組んでいきたいというふうに考えております。

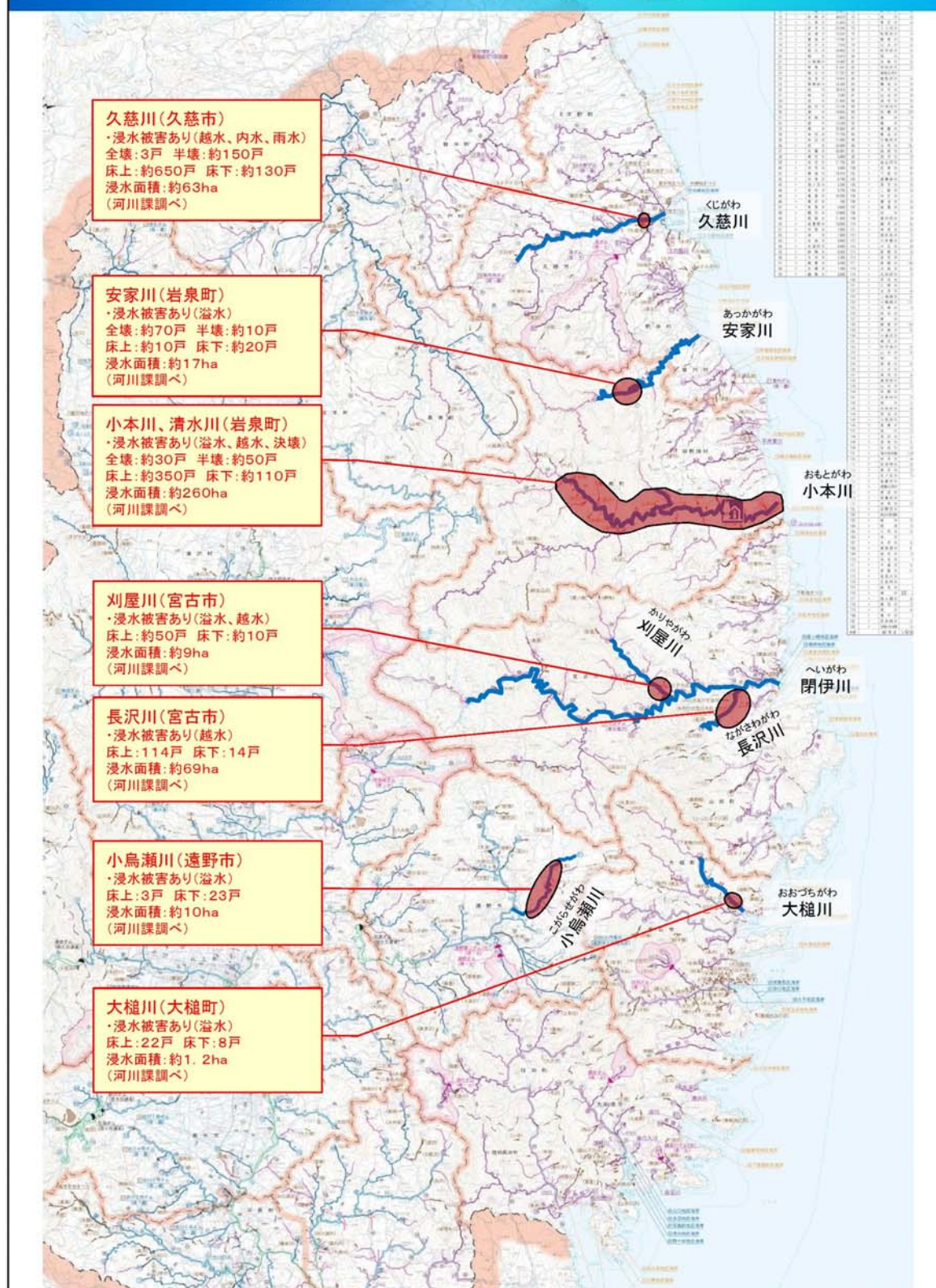
台風10号の災害につきましては、さまざまな機関、それから団体の皆様にご支援をいただいております。

ります。この場をお借りして感謝申し上げます。

県でも台風10号災害に加えまして、3年前には平成25年に、この時は内陸部で7月、8月、9月と大きな災害がございました。そういったものの

復旧に努めながら、出来るだけ被害が懸念されるような場所の対策に努めていきたいというふうに考えております。私からの説明は以上でございます。

岩手県内主な被災箇所位置図







平成28年10月18日
 県土整備部河川課

平成28年8月30日の台風10号により被災した県管理河川における治水対策について

1 台風10号による洪水の特徴

- ① 数日前からの雨による地盤の保水力低下
 - ・ 川の上流で非常に強い降雨
 - ・ 上流域の山間部で降った雨が下流域に到達した頃、下流域を含む広い範囲で猛烈な豪雨
 これらにより、時間を置かず水位が急激に上昇した。

例）岩泉観測所：1時間当たり66mm、1時間当たりの降雨量既往最大
 小本川赤鹿水位観測所：雨のピークから2時間程度でいっきに約3m上昇
- ② ①のような状況の下、河川断面不足による河川からの氾濫と、周辺の沢水や雨水により、広範囲に多くの家屋、事業所で床上、床下浸水が発生。
- ③ 特に川にかかっている橋に上流からの流木が詰まり、周辺で溢れ浸水被害が発生したところもある。

2 治水対策の基本方針

- ・ 今回の流量に対し、河川断面の不足による越水・溢水のため、相当数の家屋浸水被害が発生した河川において対策を実施。
- ・ 被災要因を踏まえ、今回の洪水の流量が流れるよう河道拡幅、河道掘削や築堤（連続堤、輪中堤等）による河川改修を行うことを基本とする。
- ・ 事業としては、災害復旧事業のみならず改良復旧費も導入する。
- ・ 計画策定の際には、地元市町と連携を図りながらまちづくりと調整する。

3 今後の予定

当面の主な事業スケジュールは以下のとおり。

- ・ 平成28年9月～11月 測量・設計（事業採択を迅速に行うため、航空測量をもとに設計を行う）
- ・ 平成28年10月～11月 河川改修計画の概ねの影響範囲、スケジュールを市町へ提示、住民説明会
- ・ 平成28年12月～平成29年1月 災害査定、計画確定、事業採択
- ・ 平成29年1月～5月 現地測量（家屋等支障物件がある区間は、実測測量の精度が必要なため、現地調査を実施）、詳細設計、計画巾杭設置、住民説明会
- ・ 平成29年6月以降 用地測量、補償物件調査、用地・補償契約
- ・ 平成29年度 工事着手

※ 工事完成には、発災より3～5年を要する見込み。

⑤ 『災害に強い川づくり緊急対策事業』

アクションプランについて

宮城県土木部河川課長 茂泉 博史 氏



今日は宮城県から初めて参加させていただきました宮城県土木部河川課長の茂泉と申します。よろしくお願いいたします。

今日は時間がないということなので、簡単に内容を。皆様はそんなに目新しい話ではないのでさっと話したいと思います。その前にちょっとひとことだけ、うちの方も北上川の関連で何か今日お話できることはないかなと思ひまして、北上川自体は宮城県の場合、すべて直轄さんが管理しているのですが、その支川に迫川というのがありまして、その迫川に結構大きい川なのでありますが、実は長沼という、長沼ダムというダム湖がありまして、それが2カ月ほど前から東京オリンピックが来るんじゃないかとかという話で、うちの方で管理しているダムなものですから、昼夜、東京方面からのいろいろなご要望に山のような資料を作って対応したわけですが、実際、今度の2月29日に正式決定がなされる。それを皆さん、県職員も含め、どうなるか楽しみにして待っていたのですが、どういうわけか2日ぐらい前から宮城県は無理だという話がマスコミ等に出てきまして、その辺だけちょっと残念な想いを

いたしました。

うちの方は岩手県さんと違ひまして、今年の台風ではあまり被害がなかったのですが、昨年度の台風で、いわゆる昨年9月の関東・東北豪雨で宮城県は甚大な被害を受けまして、それをもとに、いま宮城県では「災害に強い川づくり」緊急対策事業、アクションプランというのを昨年12月に策定いたしましたので、その取組みを簡単にご紹介します。

このアクションプランは3つの柱からなっていて、1つが水害常襲河川の解消に向けたハード整備。ということはいわゆる河川改修ですね。非常に危険な川の河川改修を重点的にやっていきたいと思いますというのと、2番目が円滑な避難に向けたソフト対策の充実強化ということで、水防計画がいろいろ変わって、洪水予報河川と水位周知河川というのがあって、要は今年の小本川でもいろいろ、この辺の指定がなされなかったんじゃないかとか、いろいろ出ましたけれども、うちの方もその危険水位というのを設定して、いち早く皆様に提供する情報ですね。市町さんの判断を得るためにということでやっておりますので、その紹介と、あと一番右側が、やっぱり維持管理によって宮城県の川は残念ながら延長も長いですし、予算もないので、国のようにきれいになっていない。かと言ってそういったことによって水害を招くわけにはいきませんので、維持管理を充実させていきたいと思いますという3つの柱でやっております。

1つ目の河川改修につきましては、これが昨年の関東・東北豪雨で被害を受けた大崎市という所で3カ所破堤いたしましたので、ここに書いてありますように大体200haほど浸水したということで、現在その災害復旧を左下のように断面を計画して、いま工事しておりますので、これも来年3月に完成、復旧する予定です。同じように大崎市内

を流れる大江川というのがあるのですが、それについても昨年かなり浸水しましたので、新たに作った捷水路と左側の図面に書いてありますけれども、そこを結ぶ工事をしているところでございます。

あと、先ほど申しましたように、いま新たに水位周知河川というものを設定しまして、それに基づいて浸水想定区域図を作成したり、あとテレメーターというのは水位計です。水位計を雨が降ると宮城県の場合は10分おきにここに書いてあります宮城県土木情報システムということで、一般の方も見られるような形で情報を提供しております。あと、もう1つはカメラ。監視カメラにつきましては、今のところ4カ所しかなかったのですが、これも一番下に書いてありますけれども40カ所ぐらいに増やすことにしております。

最後は適切な維持管理、流下能力の確保ということで、まずは昨年被災した11河川につきまして、左下に書いてありますように緊急点検を行いまして、宮城県の場合、あまり草刈りはそんなにしてなかったのですが、草刈りをすると、いろいろな動物の穴とかがいっぱい出てきましたし、亀裂等も発見しましたので、それについて応急の手当てをしたという話と、計画的にこういったことについてやってますよというのを広報しているところでございます。

以上、簡単ではございましたけれども、宮城県からの報告とさせていただきます。

宮城県

災害に強い川づくり緊急対策事業 アクションプラン

平成28年11月26日
宮城県土木部河川課

宮城県

アクションプラン作成の経緯

- ◆ 平成27年9月関東・東北豪雨では、県内各地で観測史上最大の降雨を記録したものの、これまで整備を進めてきた河川管理施設が効果を発揮するとともに、リアルタイムの水位情報が避難活動に役立つなど、**ハード・ソフト両面において水害から県民の命を守ることに貢献しました。**
- ◆ 一方、県管理河川では**100河川496箇所（うち決壊11河川23箇所）で被害が発生しました。**
- ◆ こうしたことから、近年の異常気象に伴い、頻発が予測される水害に対応すべく、県では「災害に強い川づくり」を目指して、今回の被災状況や水防体制等の検証を確実に行い、**より一層効果的なハード・ソフト事業を展開する必要があります。**
- ◆ このため、近年の浸水被害が発生した河川の再度災害防止とともに、県内全域における警戒避難体制の強化に向けて、平成27年12月に「**災害に強い川づくり緊急対策事業**」アクションプランを策定し、平成32年度まで緊急かつ集中的な治水対策を推進します。

1

アクションプラン実施方針

近年洪水被害が発生した河川の再度災害防止と、県内全域における警戒避難体制の強化に向けて、平成32年度まで緊急かつ集中的に治水対策を推進します。
なお、実施内容については、今後の状況変化に応じて見直しを行っていきます。

水害常襲河川の解消に向けたハード整備	円滑な避難に向けたソフト対策の充実強化	適切な維持管理による流下能力の確保
○水害常襲河川（18河川）の浸水被害解消 主な事業 床上浸水対策特別緊急事業（大江川等） 災害対策等緊急推進事業（谷川、平家川等） 河川局部改良事業（味明川、荒川等） 災害関連事業（洗井川等）	○水防計画の改定 市町村と調整のうえH27～29に実施 ○洪水予報河川、水位周知河川及び浸水想定区域図の見直し ○警戒避難情報の充実 自記水位計のテレメータ化、テレメータ式水位用の増設、監視カメラの増設 主な事業 情報基盤整備事業	○堤防緊急点検の実施 H27～28の2か年で集中的に実施、要対策箇所への迅速な対応 ○市街地等の重要区間における河道断面の確保 H28～30の3か年で堤防除草、堆積土砂撤去、支障木伐採を集中的に実施





アクションプランに基づく取組

水害常襲河川の解消に向けたハード整備（洗井川災害関連事業）

大崎市古川西荒井字東田地区において、増水による浸透流の影響で堤防の脆弱化が進み強度低下が生じ、左岸側で約85m(3箇所)にわたり堤防が決壊しました。
 決壊により、床上100戸、床下300戸、約213haの浸水被害が発生しました。
 復旧に当たっては、一連区間において、脆弱な堤防を補強する改良復旧事業を行い、被災流量を安全に流下させ、再度災害防止を図っていく予定です。

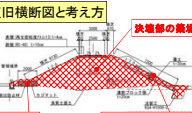
決壊状況



被害状況



復旧横断面図と考え方



決壊部の撤去

ドレーン工（浸透対策）

擁壁工+透水シート（浸透対策）

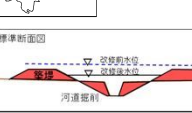
撮影月日: 8月11日 12時00分

アクションプランに基づく取組

水害常襲河川の解消に向けたハード整備（大江川床上浸水対策特別緊急事業）

平成27年9月関東・東北豪雨によって、大江川沿川では、床上浸水61戸・床下浸水198戸の甚大な被害が発生しました。
 そのため、床上浸水対策特別緊急事業(事業期間5年間)により、緊急的・集中的に対策を実施し早期に再度災害の防止を図ります。

【事業内容】
 河川名：一級河川鳴瀬川水系大江川
 事業箇所：大崎市古川竹ノ内地区 外
 延長：1,000m
 工事概要：河道掘削、築堤工、橋梁工、JR横断工 外
 事業期間：平成28年度～32年度


アクションプランに基づく取組

円滑な避難に向けたソフト対策の充実強化（警戒避難情報の充実）

水位周知河川は、これまでに21河川を指定し、水位情報を市町村に提供してきましたが、昨年度の豪雨被害を受け、より円滑な避難が行えるよう、平成28年5月までに5河川の追加指定を行い、26河川で運用を開始しています。今後、平成29年度に4河川を追加し、合計30河川で運用していく予定です。
 テレメータは、平成28年6月までに5局(洗井川等)を追加し、宮城県土木部総合情報システム(MIRAI)での一般公開を開始しています。平成30年度までに27局追加し、合計124局で運用していく予定です。
 監視カメラは、平成28年2月に洪水予報河川(3河川)に4箇所設置している河川監視カメラの映像を公開し、今後、平成30年度までに36箇所追加し、出水期の観測体制の強化を図っていく予定です。

宮城県土木部総合情報システム

○水位周知河川（平成28年5月までに追加した河川）（左図の赤文字箇所）
 ・5河川（岩手川、多田川、七北田川、旧河川、二田川）

○テレメータ（平成28年6月までに追加した箇所）（左図の青文字箇所）
 ・西荒井（洗井川）
 ・農新大橋（旧河川）
 ・花巻（旧河川）
 ・天皇寺橋（旧河川）
 ・北目橋（旧河川）

○新たに設置した河川監視カメラ 3河川4箇所
 ・依沼カメラ（旧河川）、若柳カメラ（旧河川）、市名坂（七北田川）、大河原（白石川）

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	合計
水位周知河川	21	5	4			30
テレメータ	92	5	18	9		124
カメラ	6	4		36		46

○今後のスケジュール

アクションプランに基づく取組

適切な維持管理による流下能力の確保（堤防緊急点検の実施とその対応）

堤防決壊の未然防止を目的とした県管理河川全ての堤防緊急点検を平成27年度～28年度の2か年で実施します。
 点検に当たっては、堤防の状況把握の参考とするため、地域住民の皆様からの意見を聞き取りながら実施します。
 平成27年度は県管理河川324河川（堤防延長1,421km）のうち平成27年9月関東・東北豪雨の際に堤防が決壊した11河川（堤防延長1,496km）について優先的に緊急点検を行い、応急対応が必要な31箇所において堤防の補修等を行いました。
 今後は、堤防緊急点検の結果をとりまとめ、優先順位をつけながら必要に応じ詳細調査を実施し、その結果を基に堤防強化等の対策を実施していきます。

堤防点検結果で確認された状況



対応例

<応急対応前>



<対応後>



堤防点検結果に基づく応急対応の実施状況

河川名	延長(km)	緊急点検箇所数	応急対応箇所数	詳細調査箇所数	補修箇所数	その他
計	324	149	31	118	11	31

<施工状況>



アクションプランに基づく取組

適切な維持管理による流下能力の確保（河道断面の確保）

土砂の堆積や支障木の繁茂によって川の流れが阻害されます。
 このため、土砂の撤去や支障木の伐採により、河川が本来有する流下能力を取り戻し、河道断面を維持します。
 堆積土砂マップ・支障木マップの作成や、河川カルテシステム（履歴等のデータベース化）の活用を図り、限られた予算の中で、より効率的で効果的な維持管理をしていきます。

堆積土砂を撤去した事例



<撤去前>



<撤去後>



阻害率（堆積土砂+流下断面）22%
 流下能力 $Q=70m^3/s$
 （5年に1度程度の降雨に対応）

阻害率（堆積土砂+撤去後断面）0%
 流下能力 $Q=100m^3/s$
 （10年に1度程度の降雨に対応）

堆積土砂撤去によって、一連区間の流下能力が22%改善し、治水安全度も5年に1度程度から10年に1度程度の降雨対応まで改善

意見交換

表彰式

☐ 奨励賞

☐ 特別賞

★ 意見交換 ★

～会議のこれからの方向について～

会場：展勝地レストハウス

○司 会 それでは会議に対しての意見交換となります。まだお酒は出ませんので、意見交換して表彰式、そして懇親会ということで、若干後ろにずれておりますが、まずは意見交換を平山先生の方からよろしくお願いします。

○座 長（平山委員長）



皆さん、ご苦労さまでした。ちょっと寒いところで長い間、本当にご苦労さまでした。温かい所はいいですね（笑い）。それでは今日のまとめと言いますか、意見交換の場でございますが、今日は6つの活動団体の報告、行政からの説明と、いろいろありました。

それでは早速意見交換に入って参りたいと思います。今日は6団体に発表していただきましたけれども、実はもっともっとたくさん応募しております、6つだけ選ばせていただきました。それで時間の関係でそういうことにしたのですけれども、ちょっと落ちたところ、発表できなかった所の皆さんに2分だけ（笑い）、発表いただきたいと思います。今日はこのほかに行政に対する意見

もさっきちらっと出ていましたね。ああいうこともやりたいですし、われわれの流域圏の運動、これからどうなっていくのかということについてもご意見をいただきたいと思います。後で酒が出ますので、そう長いことは出来ない、待ちきれないと思いますので、ほどほどにしてやめますけれども、時間厳守だけはよろしくお願いします。

まず谷村さんにかっぱ村の意義について、2分をお願いします。

○谷村みちのく岩手かっぱ村村長



2分間ですか。全体を話すと2時間ぐらい掛かるのですけどね（笑い）。かっぱ村の谷村でございます。実は41年前にですね。盛岡で博報堂を作るというのでUターンして参りまして、いろいろとキグチさんと北上川の勉強会を開いて、それからいろいろなことがありましてね、これは大変な宝物がたくさんあるなということでやりましてね。こんなこともやりました。北上川の川下りも2000年の7月、渇水期にやりました。こんなことやら、あと県から予算もらって全国の第1回目のかっぱサミットをやろうということで全国から、台湾からも集めましてね、盛岡でやりました。その時に、実は河童って何なんだろうという話で、結局岩手県の場合は馬に関係した河童なのです。馬追い河童という話がたくさんあります。大体50カ所以上ありましてね。そこが集まりました。農家の曲

屋には大切な馬がおります。そこにいたずらする河童がいるのですね。その辺の話から、やっぱりいたずらするのは河童なのですね。そんなお話です。(笑い)

○座 長 ありがとうございます。谷村さんがかっぱサミットの時は鳥取大学の先生も来てるのですよ。非常にイベントのうまい方で。続きまして黒沢尻東自治協議会の片方さんいらっしゃいますか。

○片方氏（黒沢尻東自治協議会）



実はですね。北上川が大氾濫しましてですね。前を通っている県道を浸水した、そういう水害がございました。そのお蔭で展勝地川の桜並木はきれいにゴミが取られました。ところがですね、対岸の国有地、河川敷ですね。これがゴミがいっぱい絡まった状態で、一体これはどういうことなんだと思ったのですよ。それで大方の方はこの河川敷を私有地だと思っておったのですね。ところがいろいろ聞いてみましたら国有地であるということで、それが国に行って、ここを借りてまず私たち小さな9つの行政区でなんとか整備しないかと。それから輪を拡げて市にも行って展勝地の階段も含めて、そして展勝地そういう考え方をしないかということから始まっております。昨日まで国から借りた部分の大部分の所を刈り終わりました。そしてずっと刈ってきた所は草で青々となってい

ます。これは1回や2回刈っただけじゃないと言われるぐらい、やっぱり私のトレーニング場だと思ってですね、汗水たらして頑張ってやりました。見ていただきたいと思います。そのぐらい頑張って活動をやっているところでございます。(笑い)

○座 長 確かにこちら側は国の事業が入ってますね。なかなかそういう国のサポートもなしに、これは後で岩手河川国道のどなたかにお聞きしたいと思います。次にもう1つ、久保川イーハトーブ自然再生協議会という千葉喜彦さんがいらしてるのです。外来種駆除の活動がございます。千葉さんはそのアドバイザーやってますので、ひとことどうぞ。

○千葉氏（久保川イーハトーブ自然再生協議会）



久保川イーハトーブ自然再生協議会の千葉です。久保川はいわゆる北上川の支流・磐井川の支流で久保川って大体10kmぐらいで河岸が5kmぐらい。その中に中山間地に溜め池が600くらいあります。そこの独特の地形がありまして、その中でも地域自然再生なのですね。ですから大概のところは開拓農家とかがあるのですが、それを全部自然再生して第一、第二、第三とやっております。それでやってるのは殆どが田圃の跡とか、そういう所は元の風景に戻す、林はもとの自然植生、いわゆる草木の再生をするためのものです。それで

やってるのが前の東京大学の先生がよく来ていたのですけれども、もう日本一の里山だと言われております。是非機会があったら見に来ていただければと思います。

○座 長 なかなか久保川の整備した所を見ると、お金掛かるな、人手掛かるな(笑い)という印象がありますね。環境を守るということはものすごい金と人が掛かります。そのいいお手本のような場所だと思います。それではその他に6件の報告がございましたけれども、なかなかいい報告だったと思います。やっぱり昔からこの流域は着々実績を積んでいたものが、いま拡がりをもって連携のもとでいい活動につながってるなというふうに思います。活動の範囲も前は環境の話と行政に対する文句しかなかったのです(笑い)。今は地域づくりの話もありますし、観光の話もありましてね、非常に範囲が広がったなと大変うれしく、これこそがわれわれが持ってる財産だというふうに思います。6件の発表につきまして、皆様の方からこんな印象を受けたというようなご意見ありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。伊藤さん、いかがですか。

○伊藤氏 (NP0法人北上川サポート協会)



皆さんが多彩な活動をやっていて、なかなかいいことだなと思いました。いいことはこれからもどんどんやっていってほしいと思います。うちの

方でも結構やってるのですけれども、やはりなかなか全体に拡がるというのは難しいですね。自分たちが考えても、応援してくれる人がなかなかね。うちの方なんか特に田舎な方だから、これからどうやっていくか。

○座 長 やっぱこの場というのは、そういう拡げるための相手を見つける場でもありますけれども、できるだけこの場は多様性を持った人材が集まる場にしたいなと私自身は思ってるのですけどね。だけど、そこでいい相棒を見つけたら連携して、自分たちで集まって実績にやっていくというようなあり方がいいんじゃないかなと思ってます。これからもわれわれの活動、最終的な目標は市民の活動と行政のいろいろな事業と、それから経済界の関連もあるでしょうし、首長さんたちの思いもあるでしょうから、そういうものが一体になったような流域のマネジメントを作っていきたい。その中でわれわれ市民団体が十分な役割を果たしていきたい。地域に密着して、地域の要望を反映するようなやり方を発信していきたいというふうに思っていて、全体像を見ているところでございます。よろしくお願いしたいと思います。

それでは次々に進めますが、次は行政の工務に対するコメント、ご意見はございましたらお願いしたいと思います。

○白畑氏 (北上川フィールドライフクラブ)

先ほど話した北上の方には遺産がいっぱいあるのですよ。それをもう1回見直して、そういうものを全国に教えてあげるのも今後の俺たちの新しい観光のあり方ということがありますので、そういうことをいろいろ教えてほしいなと思います。

2泊とか3泊でぐるっと回れるような観光コースを構築したいと思っておりますのでよろしくお願いします。

○座 長 行政に対する意見はないのですね。

○白畑氏（北上川フィールドライフクラブ）



いや、行政の方からも、そういう所を見直してほしい。例えば北上川は活かされてる川ですよ。鉍毒性が中和するのにいまいくら掛かっているか、12～13億掛かってるかもしれませんけれども、そういうものが上積されてるというような感じのものをちゃんと、しっかりしたものにして教えてほしい。昔、戦争のために硫黄を取ったりしたのですけれども、そういう長い目で見た場合、原発にも関連するし、自然環境も破壊してるんだよというところを教えることも必要だなと思います。

○座 長 国の方もそれに基づいて一生懸命やっていた時代がありました。そういった地域づくりの中でその市民団体を元気付ける、活性化するというのを非常にやった時代が20年ぐらい前にありましたけれども、今はどうでしょう、減災という言葉があり、共助という言葉があり、いろいろな場面で市民の力というのは大きく出てきてる、必要になってきてるんだと思いますが、そのあたり、なんか昔に比べて、先ほどどなたかが財源のお話をしておりましたが、なかなかわれわれの小さな団体でも、大きなテーマであれば、それは国の機関に、小さな団体が自分の身の回りのことをきれいにしていこうとか、そういうふうにやっていこうとか、そういう時にどこから支援の原資が出てくるか。そういうことが非常に大きな

活動にとって問題だと思います。防災で氾濫域の情報をどんどん出して、情報公開といってもその情報を理解して、こなして、自分の避難行動に結びつける、その間はどのようにするのでしょうか。そこに何かギャップがあるような気がするのですよね。ですから河川環境課長が来ていますので、そのあたり、環境だけにかかわらず、支援団体と国、その間をどう育成していくのかということのをちょっとお話しただけたら思うのですが、いかがでしょうか。

○中川課長（東北地方整備局河川環境課）



改めまして、時間も大分遅くなりましたのでお晩でございます。いまご指名がありました環境課長をしております中川と申します。今日の会議の前段では現在国土交通省が取り組んでいる環境整備というのか、地域づくりと一体となった川づくりという部分のご紹介をさせていただいております。いま平山先生からお話があったような点で、そういった地域づくりに関する考え方と、それから防災面の考え方、私の知り得るかぎり若干述べさせていただきます。

まずは地域づくりにつきましては、先ほど比較的大きな地域づくりの1つの手法として「かわまちづくり」というのをやっております。これはどちらかというと、今まではNPOさんだったり、住民団体だったり、都市を入れた地元の団体と行

政でありますわれわれ国土交通省が1つのまちづくりと川づくりが一体となった整備を、お互いの資質、ないしはお互いが今後の維持管理をどうやっていくかという部分も含めて議論した中身で整備をしていけるというシステムです。前段の中でもお話ししましたが、今は東北の中でも16地域が「かわまちづくり」という形で進んでおります。ただ、なかなか地元がお金を出してやっていけるというのには限界があって、極力その財政の中でやれる部分、住民の方々がある程度自腹を切っても自分の投資行為の中でもやっていける範囲の中でまちづくり、かわまちづくりという部分をやれるようなところでなんとか押し止められるように、われわれも支援もあまり管理できないものまで作らないという部分の中で、皆さんがどうやって関わりながらやっていけるのかという視点を持っていま動いております。

また、今日の会議のようなNPOさんの協力関係をどう構築していくかという部分の中では、いまわれわれ昨年、うちの部長も話しましたが、河川協力団体というのを作っております。河川協力団体というのは、本来国が行うべき部分の除草だったり、清掃活動、それから子供たちへの環境学習、それから河川調査という部分を、やる気のある団体さんに公募しまして、手を挙げていただいた団体さんで継続的にずっとやられている実績も当然必要なのですが、お願いをして、委託して、予算をお渡しして実施していただけるというようなシステムで河川協力団体というのをいま募集・運営し、いま東北だと53団体ですかね。北上川が非常に多くて20近くあったと思いますけれども、そういった団体さんとわれわれが手を結びながらお互いの関係を築き上げていくという部分をつくっております。またそういった団体に入られているNPOさんたちにお話をされるのは、

他の団体がどういったことをやっているのか、また資金をどうやって確保しているのかというところを知りたいんだと、もしそういううまくやっているとこがあれば手を結んでいきたいという話が聞こえてきますので、今年から事務所単位で協力団体の皆さんに集まっていただいて意見交換するような場をつくっております。

また河川協力団体さんの今後要請があれば、東北、全国のそういったうまく活動団体の運営だとか資金調達という部分の中でうまくやってるところの情報を今後発信していきたいなと思っています。来年以降になると思いますけれども、東北ベースになりますが、河川協力団体、大体NPOさんだと思ってますけれども、そういった団体に集まっていただいて行政との意見交換なり、協力団体同士の意見交換をしていく場を作っていきたい。またわれわれ行政としても、そういった繋がりを取れるような掲示板みたいなものを作って意見交換をしていきたいなと思っています。ちょっとこの間の雑誌「河川」というのがあるんですけど、サポート協会さんが書かれた、吉田さんが書かれた内容を見ますと、機会は違うんですけど、河川協力団体の秋田のNPOでは、震災ボランティアを通じて、また日ごろの活動の中身を話し合っていて、協力関係を築いているという部分のお話を聞いておりますので、そういう機会を是非今後つくっていけるような場の醸成をしていきたいなと思っています。地域づくりとか皆さんとの関わりについては、そういう形で進めていきたいなと思っています。

あと、防災の方ですが、確かに防災については、どちらかというと公助という部分をメインに出してきたわけですが、最近の突発的なゲリラ豪雨ですとか、未曾有の災害を考えますと、やはり原点に返って自助、共助、公助という関係を

明らかにしていかなければいけないし、そういった認識を持った形で動いていかないといけないということで、昨年から水災害の防災再構築ビジョンというのを作りまして、皆様方にいかに情報を理解してもらう、その情報をどうやって活用していただくか、そういった部分をなんとか認識していただいて、情報だけではなくて、情報を得たらどうすべきなのかという部分まで考えていただけるようなシステムを、なんとか作っていかうということで動いております。1つのやり方は、秋田県の子吉川ではいまタイムラインというのを全国に先駆けて作っております、水防災組織会の再構築ビジョンの中では、その中身を住民の方々まで集めて、われわれ職員がしっかりとお示しし、市の方々、県の方々と一緒になって地元でそういった情報の時には、どういうふうな形で動く必要があるのかというところをご理解いただく。そういったきめ細かな対応もしていかなければいけな

いんじゃないかということで、それを各県の方に申達していくようなシステムをいま作ろうと思っています。それについてはいろいろ皆さんからご意見をいただきながら、開陳できる部分についてはやっていかなければいけないなと思っておりますので、そこら辺は今後われわれにご意見をいただければなと思っております。以上でございます。

○座 長 国交省も大分お話を聞いていただけるようにオープンになってきた感じがすごいですね。

○新井氏（NPO法人ひたかみ水の里）

ちょっと聞きたいことがあるんだけど。課長ね、私たち協力団体で行ったのは今から2年前なんだけれども、お願いして、それから東北のメンバーなんかの人たちの意見交換などやるという話も流れたりしているわけよ。それで今の課長さんの話で言うと、大変民間に対していろいろな協力をや



会場の様子

ってますよという話のようだけれども、たまたま
うちは2カ月前に河川に活動の拠点を作りたいと、
銭を出してくれないかという案も出しているわけ
よ。だから皆さんね、民間団体はどうぞ表紙にな
るものをやっぱり申してね、それで自分たちの活
動の中で何が不足してるのかということ。いま課
長は一生懸命やりますと言ってるんだから、早く
そうできるような形で進めてもらいたい。ひと
つよろしく。

○中川課長 ありがとうございます。（拍手）そ
ういう形で一步一步進めていきますのでよろしく
お願いいたします。

○座 長 いいですね。新井さん、いいですか。
防災についてはね、やっぱり堤防神話というのは
われわれの心の中にすごく高くありますので、出
来れば安心という意識がすごく強いですから、そ
こを柔らかく、堤防では守れないということも、
もう少しいろいろなイベントの中で言っていだ
かないとなかなか。昔はそうはいかなかったで
すからね。

○齋藤氏（北上川学習交流館あいぽ一と）



あいぽ一との齋藤です。どうもお世話さます。
いろいろな話が出ましたが、私も20年間国交省
の方々といろいろお付き合いしていただいて、い
ろいろなことで、やっぱり昔と今は先生違うんだ

ということだと思うのですね。ですから地域団体
とかなんかでなくて、私はちょっと私の仕事柄、
防災なんですけど、もっと団体にも入ってない
いろいろな地域の方がいろいろな悩みを持っている
のですよ。いろいろな心配を持っているのですよ。
それをどこでどう受けるかという窓口というのが
あるわけですね。だから正直うちの方の一関市
長なんか大変なものですよ。本当にそういう意味
では昔の団体とかなんかでなくて、個々の人たち
に本当に今の職員の方々は一生懸命対応している
と思います。そういうことではまるっきり変わっ
てきたなと思います。ただ、幸い一関、この辺は
あいぽ一とがありますから、その窓口みたいな、
受け皿みたいものが、最初のワンクッションがあ
るのです。だからそういうふうなものを、特に今
年、震災以降、去年の豪雨、それからこの間の台
風10号、そういうふうなところで、そっちの方の
自分自身たちの心配なところでなんとか窓口みた
いなもの、下流には下流でありますからね。やは
りいろいろなことを知ってる方々が地域の方々と
話し合う。そういう窓口的な場所がもっと必要じ
ゃないか。昨日も、大崎の方が来てるのです。鳴
瀬川流域です。ちょっと私鳴瀬のこと分からない
けど、去年の渋井川なんかの話をしましたけれど
も、とにかく自分自身で守っていかなくちやなら
ないんだということを、もっともっと教えていか
なくちやならないと思います。団体でなく、個人
を受け付ける窓口をなんとか考えてほしいと思
います。

○座 長 ありがとうございます。いろいろな
活動の予算を獲得する仕組みとしては東北地域づ
くり協会とか、あるいは河川基金ですか。ああい
うものがあるとは思いますが、なかなか難しい。
今日はダム統管の話なんか聞いてると、随分役所
自体がいろいろなことに手を広げ過ぎて、まわり

だったらもう少しわれわれを信用していただいて、任せてもらってもいいんじゃないかなという感じもするぐらいですね。多分、役所は防災というのが大きな仕事だと思うので、あまり範囲を拡げることではなくて、その範囲は市民の方に拡げてほしいなというのは感じました。そういう意味でも共助の仲間、防災の共助、それから地域づくりのコミュニティ、そういうものがわれわれ市民が担っていくわけですから、そういうことにも人材を育成するような仕組みをほか省庁ではやってないのですから、是非考えていただきたいなと思います。佐藤所長、何かございますか。

○佐藤所長（北上川ダム統管理事務所）



北上川ダム統管の所長の佐藤です。いつもお世話になっております。いま平山先生の方からもダム統管の方のイベントですね。今日も大分紹介させていただきましたけれども、私どもも実は、本当の自分たちとか、例えば市役所の人たちがいわゆる中心になってやるよりは、民間の方々がやってくれるイベントというのは本当に理想的だなというふうに思っております。そういった中ではちょっと胆沢ダムとか湯田ダムで紹介しましたがけれども、是非いろいろな機会ありますけれども、そういったものに向けて目指していきたいと思っています。

あと最後にちょっと私はいま権限のない立場に

おりますけれども、昔はやっぱり国とこの団体さんの関係というのは、私もよく知っておりますが、国の方でかなり予算もありましたし、団体さんの方にもそういった形でご協力させていただきました。しかしながら、行政として明確な目的、あるいはお金をやることで団体さんに何を求めるのかというところが不明確だったんじゃないかなというふうに考えています。逆に今は行政が団体さんにお金をやっても、私はいい時代じゃないかなというふうに思っています。今日の、例えば白畑さんがやっているああいう修学旅行生を招いてやっている活動、あるいは新井さんの方でやっている、いわゆる長年やっている活動というのは、いま世の中は簡単に子供が人を殺してしまうとか、何も苦勞せずにいろいろなことがすぐ分かってしまうという情報化の時代にあって、ああいう活動をやっていることで育った子供が何か、ちょっとそういうことをしないような人に育つのであれば、私は国の予算なり、公共のお金を出してもいいのではないかなというふうに考えております（拍手）。われわれはダムの方のいろいろイベントをやっていますけれども、ひとつわれわれダムで忘れてはならないのは、ダムを造るにはものすごい方々を移転させます。そういった意味で今日の湯田ダムでやっている活動なんかは、やっぱり水源地为衰えさせてはいけないわけです、われわれというのは。ですのでいくらかでも水源地为元気になるようにああいった活動を一生懸命町とやっているというふうなことでございますので、今後ともそういう意気込みで頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○座 長 ありがとうございます。

その他、何か行政に対するご意見はございませんですか。

○原田氏（北上川リバーカルチャーアソシエーション）



いまのお話、非常にありがたく伺いました。いま国が担うのか民間が担うのかという二者択一の話ではなくて、いま地域と言うか、われわれの中で困っているのは次世代が育たないということです。地域活動をする若者が出てこない。そのことに対して民間なのか国なのかということではなくて、一緒になって15年後、20年後を作っていかなければいけないことだというふうに思いますので、そういう価値観で見ていただきたいと思います。

○座 長 ありがとうございます。

○谷村氏 谷村です。私も実はこれも活動随分やっているのですが、今まで相当お金もいただいています。例えば明治橋の所にかっぱ像を作りました。あれは左の肩には稲をかついで、右手にはいま北上川がきれいになって産卵のために上がってくる鼻曲り鮭、あれを捕まえたのを是非作りたいんだと。あそこに浮島神社というのがありましてね、あの時、ちょうど下田さんでしたかね、所長さんが。その時に私は是非日本一のかっぱ堂を作ってお米作りの文化でもある。それをお願いしますと言ったら、ではどういう形にしようかと。ちょうど60年だったですね、あのアイオン台風とカスリン台風の。そのモニュメントをと言ったら、あ、それならばいいなということで判を押してく

れました。いまあの河川敷にあんな大きなカっぱ像ができて、おにぎりの上に私が乗ったのですが、かっぱ像を。あんなのを作るところはありません。やっぱり理解される方がいらっしやると非常にいいですね。私は県からも130万円ずつ3年間もらって、中津川のカジカをもっと増やそうということもやりました。3年間110万ずつ雇ってもらいましてね。内水面水産技術センターの方にわれわれが採卵した卵を持って来ましてね、孵化させて、それをまた育てて3cmから4cmになったのを子供らと一緒に放流する。これはDNAの関係がありますから、中津川は中津川の方に放流するというのも、110万ずつでしたかね、3年間もらいました。あと県から私はちょうど北上川下りやった時も、河川環境管理財団にまさかと思って私はお伺いしましてね、東京・日本橋の方にあります。そうしたら100万円、ポンと送ってくれてね、それで実は川下りをやりました。あの時は全部で41名でしたかね。そんなこともいろいろやったことがありましてね。なんかいま私も盛岡はここまでくるおぐり小繰舟の大変苦労したお米作りの農家が、ここまで100俵を積んだ小繰舟が来るのが大変な苦労されているのです。ここから石巻は簡単なんだと思いますけどね、ここから盛岡から来るのが大変。この資料館を是非作りたいという話をいま盛岡市ともやっていますが、なかなかそこまでまだいきませんが、そんなこといっぱいあります。

○座 長 北川さん。

○北川氏（元岩手工事事務所長）

せっかくですからひとこと言わせていただきます。ちょっと国の方に少しお願いがあります。というのは、環境とか地域連携という話になった時に、今までの河川管理者というか、河川事業者の

見方を変えなくちゃいけない時期だったんだと思うのですね。

例えば治水・利水だと川の中だけ考えれば済むのだけど、本来治水・利水だって住んでる流域の



人のためなのです。今回「かわまちづくり」という課長のお話がありましたけれども、本当に町の方から考えて川がどうあるべきかということを考えているんだろうかと思うのですね。本来でしたらまち川づくり、僕はかわまちづくりという言葉は大嫌いですが、本当は町のことを述べて、そこから川がどうあって、だから川はこうするんだという観点がちょっとまだ国の方は十分じゃないと思っていて、やっぱり住民の方とか、こういう集まりがあるということは、まさにそういう人たちの今後の幸せを考えてどうすべきかということを国は真剣に考えて、そのために少し外から川を見て、どうあるべきか、町に住んで町の状態を知って、そういう発展していくべきじゃないかと、ちょっと佐藤所長の話はそういういき方だと僕は思っていますけどね。すみません、ちょっと言わせていただきました。

○座 長 北川さん、どうもありがとうございます。だんだん変わってはきてるから、このトレンドが続けばすごくよくなるなという感じは持っていますけど。われわれもどこで息切れするか分かりませんので、やっぱりお互いに頑張らなければいけないと思います。そういうふうなことでは

ないかと思いますね。本当にありがとうございます。

それで時間が経って、私ものどが乾いて来たのですけれども、われわれの会、この「流域圏」推進交流会議、今の状況は大体こういうふうコミュニケーションが取れるようなレベルに達してきました。そういう状況になってきましたので、このあと、こういう場をさらに充実させていきたいというのが私が言った趣旨で、その中で部分部分でいろいろな連携をしながら新しい事業に打てるものは舟運の復活なり、観光なり、何でもやっていただければいいとは思っているのですが、そういういき方についてどうなのでしょう、ご意見を踏まえて次年度以降のわれわれの活動を考えていきたいと思っております。これについては井山さんと軍司さんと柏さんと武山さんにちょっと意見をいただこうかな。それで終わりにしたいと思いますが。それではよろしく井山さん、お願いします。

○井山氏（元胆沢ダム建設事務所長）



井山です。こういう場を持っていただきまして、実行委員の方々に敬意を表したいと思います。去年の場でもいろいろな団体の発表があったと思います。今日もありましたけれども、正直言ってまだまだ意見交換なり情報交換が足りないのかなと言うか、昔は20年前の連携交流会発足後数年の頃が非常に活発だっただけに、どうしても時間がオ

一バーするというのも、普段言う場がないから言わなければならないというのものもあるでしょうし、役所は組織ですから頼まれれば情報提供しますということで積極的にいろいろ言いたいということで、北上川の流域、1万150平方キロ、非常に広うございますので、そういう意味ではこういう場を地域ごと、あるいはもう少し頻度を多く、人数を少なくして、みんなの力になるような情報をお互いにやるというようなこととか、あるいはみんなで手をつないで1団体では出来ないようなことをやるとか、まさにホームページを復活充実していただいたのも、そのきっかけになろうかと思えますし、またこういう場を通じてこれからの活動についてのいろいろな企画を蓄えていくということで、次につながるようなこういう場づくりを、実行委員会の方々に頼るだけじゃなくて、いろいろな想いをお持ちの方々が手を携えて一層、一步一步進めていければというふうに思っております。また次回に向けていろいろな新しい試みなり、取組みがあると思っていますので、よろしくお願いいたします。私も微力ながら支援をしたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

○座 長 ありがとうございました。

○柏氏（をんな川会議）



北上川流域をんな川会議の柏です。私が今回、久しぶりにこうやって皆さんとお会いして思ったのですが、こういう交流事業の中でいま一番必要なのがイノベーションかなという気がします。今まで、昔からの付き合いのある方々と今日久しぶりに会ったのもいいのですが、これから新しい方々が、新しい団体がこの連携というものに興味を持って参加していただければ成長できる、20歳になって、21歳になる交流の1つのワンステップ、イノベーションで、そしてかつ成長じゃないかなという気がしますので、是非いろいろな団体の方を仲間に入れて変わっていききたいなと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○軍司氏(NPO法人北上川流域連携交流会理事長)

交流会の軍司になります。ここに集まっている方々って結構いろいろなところでいろいろな肩書を持ってやっているかと思うのです。ただ、どうしても一般の方々というか、本当に地域で小さくやっている人たちの意見はなかなか吸い取れないというような感じがしております。なるべくそういうところに積極的に関わって行って、そういう人の意見を聞きながら、自分の次のステップへつなげるような活動ができればいいなというふうに考えておりました。今回交流会のホームページの中でいろいろ情報を集める形にしておりますけれども、些細なことでもいいからそういうのを集めていただいて、それを発信するようなことが出来れば、あ、こういうことが出来るのかとか、そんならこういう人たちと連携できるんじゃないかというのを進めていければなというふうに思っております。多分、個々の力はわずかでも、みんなが集まれば大きな力、うねりになれるのではないかと思いますので、今後ともご協力のほど、よろし

くお願いいたします。

○座 長 どうもありがとうございました。宮城県の河川課長、久しぶりにお見えになってますので、ひとことお願いしたいと思います。

○茂泉氏（宮城県河川課長）



今日はいろいろ用事がありまして、最後までいるわけにいきませんので、ひとことだけご挨拶させていただきます。今日もいろいろな話が出ましたが、やっぱりこういった活動を長く続けていくためには皆様方のような方のモチベーションが上がるようなことも当然ですけど、やっぱり持続するにあたっての課題というのを、同じような活動をしている仲間の連携ですね。そういったことは宮城県の場合は北上川というよりは貞山運河という、太平洋側に面した49kmの運河がありまして、そういったところの活動の方々に、今年いろいろ集まっていただいて意見交換会をしています。そういったことで、先日は新井さんに来ていただいていろいろお話してもらったのですけれども、やっぱりそういうふうに官があまりにも主体的になり過ぎるとなかなか続きませんので、やっぱり皆さんが主体になってやっていけるような団体ということで、今日は6団体ありましたが、その中ではやっぱり小学校であったり、高校であったり、ああいう人たちが非常に、その中の何人かでもいい

いから、こういった川に興味を持っていただければ、ゆくゆくは皆様のような非常に積極的な活動をされる方になっていただけるものだと思いますので、環境教育と言うか、小さい頃から川に親しむことが重要だと思っておりますので、引き続き皆様のそういった視点も含めて頑張りたいだけばなと思っております。今日はどうもありがとうございました。

○座 長 ありがとうございました。励ましの言葉でした。われわれ、いかにしたらこの70名の今日集まっていた北上川の持っている財産を、最も有効的に使うためにはどんなふうに進めていったらいいか考えているのですが、なかなか継続性ある活動というのは難しいし、われわれの中でいさかいがあったり、いろいろなことが当然あるわけです。でも、それでも、そういう喧嘩してもこのように集まってくれるということが非常にいいことだと、素晴らしい対策だと思います。こういうことを今日いろいろな意見をいただきましたので、この場が持続するように、ますます拡がりを持つように努めて参りたいと思います。皆さんはそれぞれの場でそれぞれの仕事をされながら、地域に関わって、川に関わっておられると思いますが、なんかそういうことでわれわれが連帯でお手伝いすることが出来る場があれば、遠慮なく言っていただく。そういう場にしていきたいと思いますので、今後ともよろしくご支援をいただきたいと思います。今日はなかなかいい会議になっているようでございますので、これから酒を飲んで、その最後の取りまとめをやっていただきたいと思います。それでは意見交換はこのあたりで終わさせていただきます。どうもありがとうございました。

★ 表彰式 ★

○司 会 それでは最後のプログラムということで表彰式に入らせていただきます。今回の選考委員は行政2名、東北地方整備局の中川課長様、そして宮城県の茂泉河川課長様、そして実行委員会2名、運営委員長の中村さん、副委員長の内田さんの4名で選定をさせていただきました。では内田さんの方からよろしくお願いします。

■ 選考委員

東北地方整備局 河川環境課長	中川 博樹 氏
宮城県土木部河川課 課長	茂泉 博史 氏
フォーラム実行委員会 運営委員長	中村 巖
フォーラム実行委員会 運営副委員長	内田 尚宏

○内田「流域圏」フォーラム運営副委員長

僭越ながら諸先輩の中で私から申し上げます。あくまでもこの賞は順位を付けるというものではなく、これからも頑張っしてほしい、みんなで流域を応援していこうという、そういう賞だということでございます。

■ 受賞団体

奨励賞	「北上川めぐり(第5学年 総合的な学習の時間)」 石巻市立北上小学校
特別賞	「空間情報から北上川を学ぶ」 岩手県立一関工業高等学校
特別賞	「被災地支援4団体によるいわてNPO災害支援ネットワーク」 一般社団法人SAVE IWATE

① 奨励賞

「北上川めぐり(第5学年 総合的な学習の時間)」

石巻市立北上小学校



教頭 河田 裕 氏

② 特別賞

「空間情報から北上川を学ぶ」

岩手県立一関工業高等学校



土木科3年 及川 大樹 氏

③ 特別賞

「被災地支援4団体によるいわてNPO災害支援ネットワーク」

一般社団法人SAVE IWATE

理事長 寺井 良夫 氏



平成 28 年度 北上川『流域圏』推進交流会議 **流域活動発表表について**

今回は6つの団体に発表をいただきます。発表団体の中から、流域圏活動の参考となるもの、一押しのところ、何かを感じたところなど、いいなと思う団体を1団体選んでいただきたいと思います。

この選考は優劣を決めるものではありません。選考委員（国1名、県1名、実行委員2名の計4名）により奨励賞、特別賞を選考するための参考とするものです。

全国「いい川・いい川づくりワークショップ」では、川の「タカラモノ」に光を当て、「いい川」「いい川づくり」とは何か」を全国から集まった団体のグランプリ選考の過程で議論していますが、その視点、評価のポイントを参考まで記載します。

○**発想・着眼評価** → “いい川” をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価

○**関わり評価** → 地域住民と川との豊かで良好な関わり合いについての評価

○**プロセス評価** → “いい川” を育むための市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価

○**計画・技術評価** → 川らしさの保全や“いい川” 回復のために工夫された計画手法や施工技術等についての評価や“いい川” を実現した技術に対する評価

限られた時間の中での発表となりますが、工夫を凝らし点、発表者の想いを感じ取っていただければと思います。

そして発表、意見交換、参加者との交流を通じて、新たな発見、取り組みのエネルギーを感じていただければ幸いです。

No	発表テーマ 発表者	推 薦
①	「北上川めぐり(第5学年 総合的な学習の時間)」 石巻市立北上小学校 教頭 河田 裕 氏	
②	「地域と連携した御所湖の魅力づくり」 岩手県立御所湖広域公園 指定管理者 KOIWA 軍司 俊道 氏	
③	「空間情報から北上川を学ぶ」 岩手県立一関工業高校 土木課3年 菅原良輔 氏 及川大樹 氏	
④	「ひたかみ水の里のこれまでとこれから」 NPO 法人 ひたかみ水の里 新井 高広 氏	
⑤	「北上川の水辺の不思議発見！」 花巻フィールドライフクラブ 白畑 誠一 氏	
⑥	「被災地支援4団体によるいわて NPO 災害支援ネットワーク」 一般社団法人 SAVE IWATE 理事長 寺井 良夫 氏	

参 考 資 料

☐ 実行委員会規約

☐ 実行委員会名簿

☐ 発表団体募集要項

「北上川『流域圏』フォーラム」実行委員会規約

(名 称)

第1条 本会は、「北上川『流域圏』フォーラム」実行委員会（以下「実行委員会」と称する。

(目 的)

第2条 実行委員会は「北上川『流域圏』フォーラム」を成功裡に実施し、その成果を実現するために流域圏マネジメント構想の試行を推進することを目的とする。

(事 業)

第3条 実行委員会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 基調講演、活動事例発表、パネルディスカッション、新たな形の提案、北上川宣言の企画運営
- (2) 流域交流調査の企画運営
- (3) 北上川視察船の企画実施
- (4) 北上川流域内の河川関係活動情報の収集・発信
- (5) 北上川「流域圏」推進交流会議（仮称）の開催
- (6) その他「流域圏」推進に関わる取組の検討
- (7) その他大会の企画運営に関わる事項

(委 員)

第4条 委員は関係河川管理者、地方公共団体、NPO 及び河川をフィールドとして活動し、当大会に参加する諸団体ならびに流域貢献をすすめる企業、関連団体等をもって組織する。

- (1) 実行委員長を置く。実行委員長は平山健一をあてる。
- (2) 副実行委員長を置く。副実行委員長は軽石昇、武山文衛及び軍司俊道をあてる。実行委員長に事故ある時は、副実行委員長がその職務を代行する。
- (3) 実行委員会に監事を置く。監事は実行委員長が指名する。
- (4) 実行委員会に運営委員を置く。運営委員長及び副運営委員長は実行委員長が指名する。
- (5) 実行委員会に事務局を置く。事務局長は実行委員長が指名する。

(監 事)

第5条 実行委員会に監事を置き、会計処理を監査する。

(委員会)

第6条 実行委員長は、実行委員会を招集し、その議長となる。

- (1) 実行委員会は次の事項を審議決定する。
 - ① 事業計画や予算・決算に関すること。
 - ② その他重要な事項に関すること。
- (2) 実行委員会の議事は、出席者の過半数により決する。同数の時は議長がこれを決する。

(運営委員会)

第7条 運営委員会は下記の事項を協議・執行する。

- (1) 実行委員会に付議すべき事項。
- (2) 実行委員会の議決を要しない会務の執行に関する事項。
- (3) 実行委員会で決議した事項の執行に関する事項。
- (4) その他実行委員会が必要と認めた事項。

(事務局)

第8条 実行委員会事務局は、「(株)展勝地内」に置く。

(会計)

第9条 実行委員会の経費は次をもってあてる。

- (1) 参加費
- (2) 助成金
- (3) 寄付金、その他の収入

2. 実行委員会の会計は、毎年4月1日～3月31日までを1会計年度とする。

(解散)

第10条 実行委員会は、本会の目的を達成もしくは中止する事を決議した場合に解散する。

(雑則)

第11条 この規約に定めるもののほか、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が実行委員会に諮って定める。

附 則

- 1. 本規約は、平成27年7月1日の第1回実行委員会の議決を持って施行する。
- 2. 本規約は、平成28年4月27日の第1回実行委員会の議決を持って施行する。

平成 28 年度 北上川「流域圏」フォーラム 実行委員会名簿

実行委員

	氏 名	団 体 名	役 職
委 員 長	平山 健一	北上川リバーカルチャーアソシエーション	会 長
副委員長	軽石 昇	ガイア展勝の会	会 長
副委員長	武山 文衛	NP0 法人りあすの森	顧 問
副委員長	軍司 俊道	NP0 法人北上川流域連携交流会	代表理事
委 員	白石 定利	水と緑の環境フォーラム・ものう	会 長
委 員	柏 眞喜子	をんな川会議	事務局長
委 員	白畑 誠一	北上川フィールドライフクラブ	代 表
委 員	内田 尚宏	一般社団法人いわて流域ネットワーク	代表理事
委 員	古舘 雅晴	川を知る会	事務局長
委 員	清水 晃	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	所 長
委 員	高橋 政則	国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所	所 長
委 員	佐藤 伸吾	国土交通省東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所	所 長
委 員	高橋 正博	岩手県県土整備部河川課	総括課長
委 員	茂泉 博史	宮城県土木部河川課	課 長
監 査	若林 治男		

運営委員

	氏 名	団 体 名	役 職
委員長	中村 巖	NP0 法人北上川流域連携交流会	
副委員長	内田 尚宏	一般社団法人いわて流域ネットワーク	代表理事
委 員	菅原 恵子	NP0 法人奥州・いわて NP0 ネット	理事長
委 員	佐藤 富美子	特定非営利活動法人ゆう・もあ・ねっと	代 表
委 員	齋藤 一公	NP0 法人北上川流域連携交流会	事務局長
委 員	塚原 俊也	くりこま高原自然学校	校 長
委 員	岩沢 博章	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所調査第一課	課 長
委 員	漆原 和也	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所工務第一課	建設専門官
委 員	渡辺 学	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所調査第一課	専門調査員
委 員	大澤 修一	国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所調査第一課	課 長
委 員	重茂 和志	国土交通省東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所調査課	課 長
委 員	馬場 聡	岩手県県土整備部河川課	河川海岸担当課長
委 員	及川 郁男	宮城県土木部河川課	技術補佐 (総括担当)
事務局長	小山 隆春	NP0 法人北上川流域連携交流会	理 事
事務局	和賀 匡彦	ガイア展勝の会	
事務局	佐井 守	一般社団法人いわて流域ネットワーク	
事務局	菊池 拓巳	一般社団法人いわて流域ネットワーク	

__ : 後任

北上川「流域圏」推進交流会議

発表団体 募集！

北上川流域で川に関係する活動している団体の発表を募集します。
日頃取り組まれている地域活動を、皆さんに発表してみませんか。
流域内のNPOや行政などが集まるまたとない発表の場です。
ご応募をお待ちしています。締め切りは11月5日(土)です。

北上川「流域圏」推進交流会議の概要

- 【日 時】 平成28年11月26日(土) 13:00～17:15
【場 所】 展勝地レストハウス(北上市立花14-21-1)
【内 容】 多様な交流・連携のネットワークづくりを目指し、官民が情報交流を行うもの。
〔流域活動発表、行政の取組報告、意見交換、(交流懇親会)〕
【参 加】 80 名程度、参加費無料 ※交流懇親会は別途参加費が必要
【主 催】 北上川「流域圏」フォーラム実行委員会

発表団体募集概要

1. 発表について

- ① 対象活動 北上川流域で川に関係する活動を行っている団体
- ② 発表内容 日頃の活動や今後取り組みたい活動について発表
※ 発表時間は1団体15分以内
- ③ 募集団体数 6団体
- ④ 賞及び副賞 発表団体の中から1団体に奨励賞、2団体に特別賞を授与。
選定員は行政・NPO等の実行委員数名を予定。
- ⑤ その他 当日の参加者は80名程度を予定しています。
発表者は何名でも構いませんが、パワーポイントや映像放映など
パソコンを使う場合は事前にご連絡ください。
※発表方法、形態は特に指定はありません。
発表に係る経費は参加者負担となります。

北上川「流域圏」推進交流会議

2. 応募方法・締め切りについて

発表を希望する団体は、平成28年11月5日（土）までに下記にお申込みください。

◆お申込み・お問合せ先

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会事務局（担当：和賀）

TEL：0197-72-5067 FAX：0197-72-5074

E-mail：info.river@kitakamigawa.or.jp

〒024-0043 北上市立花 14-62-3

◆お申し込みの際には以下の内容についてお知らせください。

1. お申込者の氏名（ふりがな）
2. お申込者のご所属
3. お申込者のご連絡先（電話番号、FAX、E-mail、住所）
4. 発表団体名（ふりがな）
5. 発表者名（ふりがな）
6. 発表タイトル
7. キーワード
8. 活動紹介（100字程度）
9. 今、困っていること、相談したいことなど（あれば）
10. 流域圏として望むこと。
11. 団体連絡先（住所、TEL、FAX、E-mail、ホームページなど）

今後の予定

平成28年11月5日（土）

団体募集締め切り

平成28年11月中旬

発表団体決定

平成28年11月26日（土）

発表日（北上川「流域圏」推進交流会議）



主 催： 北上川「流域圏」フォーラム実行委員会

北上川リバーカルチャーアソシエーション、NPO法人北上川流域連携交流会
ガイア展勝の会、(一社)いわて流域ネットワーク、をんな川会議、川を知る会
北上川フィールドライフクラブ、NPO法人奥州・いわてNPOネット
水と緑の環境フォーラム・ものう、くりこま高原自然学校、NPO法人りあすの森
国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所・北上川下流河川事務所・
北上川ダム統合管理事務所、岩手県、宮城県

協 賛： (一社)東北地域づくり協会